郵便報知新聞第八百廿一号ノ内ニ付キ郵便物認可

明治三十七年七月五日　第六十三號

東京小間物商報

謹告

向暑之御座候得共各位愈御清適御繁榮之段奉大賀候陳者各位も兼て御了知の如く近時何品の原料原材も概ね拂底騰貴致候得共本組合員は夫是に拘はらず一同に特約を結び各店の製賣品は勿論從來東京の特色製品として各位の御賞贊を博しつゝある新形物流行品を始め其他何品にても總て非常の勉强と薄利を旨とし專ら着實懇切に御取引可仕殊に季節に適する新意匠の粧飾化粧品等も數多出來致居候間不相變陸續御注文之程奉願候敬白

追伸　出荷之都合も御座候間全く御品切に不相成候前御注文書御差廻可被下候

東京小間物輸商組合　一同

全國同業者各位御中

雜說

●奉公人をして旅籠屋を廻らしむるの利害

骨皮道人

旅籠屋廻りとい何ぞや曰く各地方の同業者が商品仕入の爲めに出京し各自その定宿若くは他の適宜の旅籠屋に投ずるに當つて平素其人をして取引ある各問屋が小僧又は大僧等をして兄と其客の買ひさうな商品の見本を持參し或は何ぞ御用は御坐りませぬかと其注文品を聞きに行かしむゝを旅籠屋廻りと云ふなり抑も此事たる何時の頃より始りしかは知らざれど要するに其客の未だ他店より買入れざる以前己れ其先輩を若んどの目的と一ハ遠來の客をして足を摺子木にするの勞を執らしめざるやう好便宜を與へて以て其歡心を買はんとの意より出しに外ならざるべく猶ほ之を當世風に約言すれば即ち平和的商戰場裏の競爭なるべければ其目的や頗る宜し然れども一利あれば又一害を生ずるは蓋し天下百般の事物上到底免かるべからざるの通弊にして此旅籠屋廻りに於ても亦種々の弊害あるを如何せん請ふ各問屋の御主人方よ道人をして茲に遠慮會釋なく是が弊害を飯舌の自由を有せしめよ

回顧すれば昨年の六七月頃なりき道人は各地同業者の出京滯在せる人々を探らしめ我商報の發行毎に其旅籠屋と滯在者の人名とを詳記して之を各問屋及び滯在者の便に供せり然るに最初の程ハ誠に評判もよく各旅店に於ても每號の紙上に家名の出る事とて大いに喜び居りしが之を逐行するに從つて段々と奇妙奇手烈なる障碍を發見し結局旅籠屋からは斷りを喰つてオヤヤンと爲れも而して其障碍とハ如何なる事實かと云ふに例へバ甚に小松田紋太郎と云へる人あり此人甲と乙との間屋に對して當に仕拂ふべき商ひ取引上の負債あり依て此甲乙にハ極内でコツソリ出京し今度は丙丁の店に至つてコツソリ仕入れてコツソリ歸らんとの心組にて出京せしに茲に圖らんや我報の紙上之を公にし乙の横暴者ハ小松田紋太さんが御坐ッたと直ちに押掛て首根ッ子をギクと取ひ縛る、蓋云ふ程の嚴談は爲さるか兎に角出京を幸ひ拂ひを願ひます旨督促さるゝの苦しゝ紛れに止むを得ず從來の定宿を離れて他の旅店に宿泊するに至れバ姓名報告の爲めに折角の定客を失ふと云ふ是れ其一なり而して今一つにハ何屋に何の雜兵衛が滯在して居ると知れば甲店乙商店先を爭ふてドシ〳〵遣て來るが故に旅籠屋店頭は殆んど各問屋の小僧大僧を以て充滿し其混雜を極むること恰も火事場の野次馬に於るが如きのみならず中にハ隨分云ふに忍びざるの橫着を働くものありて遂に我が商報に出京者の人名記載を謝絶すると同時に却つて商人宿申合會規則なるものを偽議確定し以て嚴重に之を取締るに至れり是即ち昨年の十月下旬なり其全文ハ左の如し

商人宿申合會店則

一出入の各商人は滯在の旅客へ面會を求むるときは其戸主と雇人に拘らず晝間は其店の名刺夜間は必ず其店の標章を付したる提燈を携ふべし

一下駄傘又は各自に於て注意を加ふべし萬一紛失又は風邊ひあるも當店は其責を負はず

一各商人の出入時間は左の如く限る
午前七時より午后十時限り

一帳場に面會人の氏名を予入店主の承諾を得て旅客に至るべし

一旅客の喫飯前又は喫飯中は客室に臨く可からず且旅客の承諾を得ずして猥りに室内に入る可からず

一客室に於ては商談の外空談に時間を消費し左に列記せる諸項を犯すべからず

一旅客の妨害をなすべからず

一旅客他出中の空室に出入すべからず

一客室の内外に於て放歌空談喧騒に渉る可からず

一旅客の雷めたりとも賭博ハ勿論右に類似の戲をなす可からず

一旅客の雷めたりとも遊里に同行且誘引すべからず

一旅客の承諾なき物品又は見本品等を室内に差置くべからず

一旅客に迫り强買をなすべからず

此店則を犯したるものは出入を差止本會々員旅店一般へ通知し且店内へ其氏名を掲示すべし

東京貿入商組合内
商入宿申合會

（以下次號）

明治廿九年十月

廣告料　一段金壹圓以上六回迄拾壹錢同七回以上拾錢

發行所　東京日本橋區通町七番地　東京小間物卸商組合事務所

雜報

◎第二回水產博覽會の準備　第二回水產博覽會は來る九月一日より神戸に開會する筈に付去る二十日より其會場たる神戸楠町北進會跡に同會事務局出張所を設け事務官下啓助、同補大原庄太郎、山田爲太郎三氏外十三名出張して設備中なるが今同會に付聞得たる所を記さんに出品物は之を六部に大別し第一部を漁業、第二部を製造、第三部を養殖、第四部を教育學藝、第五部を機械器具、第六部を水族となし出品物は總て內國產とし內外國博覽會共進會品評會等に出品して既に審査を受けたるもの明治二十八年十二月以前の採取又は製造に係るもの、明治廿九年一月以後のものと雖も死亡したるもの、採取又は製造に係るものの發火及び爆裂性のもの他の出品物に傷害を與ふるもの衛生に害あるもの汚穢醜體のもの等は出品を許さざる規定にして其內第六部に屬する水族室は目下兵庫和田岬和樂園內に新築中なるが本月末までに工事を終るとを得べし而して陳列品は總て實物を為すを得べしと雖も開會中は場外に持出すを許さず閉會の後引取るものとす而して去る二十七日までに出品目錄を事務局に屆け出でたるものは概數五萬以上なり又出品の審査は開會當日より始め十月二十五日に終る等にして褒賞は出品人と製產人とを異にすべし而して一人にて數部類に出品し其出品各優等として同種の褒賞數箇を受くべき場合には賞牌は一箇を與ふる筈なりと又水產品に限り會事前に賣店を出すを許す筈にて其場所は事務局より無料にて貸與すべしとい

◎帝國技藝員事見提出　本邦美術は其純正と應用とに於て決して封建時代の思想其儘にて各派皆其所見を異にし眞正なる進歩發達を沮害するのみならず海外文明諸國の模倣するの傾きを有し如何に[illegible]之歐洲各國に於ては却て我長所を採用して逆に我を壓倒せんとするの形勢あり[illegible]も身帝室技藝員たるもの此衰運を默視すべけんやとの趣意にて過般來種々協議する所ありしが這回同技藝員より一片の意見書を共に左の希望を帝國博物館總長九鬼隆一氏に呈出したり

（一）本邦の美術は各派に分岐し偏執に流れ其美の眞意揆一せざるの弊あるを以て之が統轄を圖る道を講ずる事

（二）各專門調査員を選任し時々全國に就き調査する事

（三）專門技藝家及學識家を美術評議員に任命し公平なる評議を為す事

（四）特殊の製作品の出るある時は　帝室に奏請し相當の待遇を賜はらん事を希望す

（五）美術の摸範品ともなるべき品あれば之を買收し永遠保存せられ度き事

（六）美術大學を創設せられん事

（七）美術博物館を創設せられん事

（八）奈良御寶庫を始め古社寺及各博物館等の保存品を美術家に限り拜觀の殊典を與へられん事を希望す

（九）美術奬勵上其功績顯著なる諸協會には展覽會に際し相當の手當を下賜せられん事を希望す

◎巴里大博覽會出品奬勵　大隈農商務大臣は去廿八日午後三時より森村金田松尾等の實業家十數名を官邸に招き來る三十三年佛京巴里に開く萬國大博覽會はシカゴ博覽會の比にあらず戰後の日本は殊に各國の視線を惹くと放特に美術工藝品の國光を發揚するに足るべきものを成るべく多く出品されたし之を奬勵するに諸君の盡力に在りとの意を以て政府の出品奬勵に關する方針を演說せられ實業家諸氏も之を承諾して奬勵を勉ひることを約したりと云ふ

◎東北商業會議所聯合會確定意見　東北商業會議所聯合部會に去る二十五日協議會に於て本會議にて決定したるものを更に各商業會議所委員のみにて調査を為し之を確定意見とすることを決議したるが此決議に基き各商業會議所委員のみにて協議會を開會し會議に於て奬勵したるものに付調査を為し多少修正を加へたるものに二者稅率を對照すれば左の如し但し上は本會議（商業會議所委員にあらざる有志者をも加へて決議したるもの）に決議したるものにて下は各商業會議所委員にて再調査を修正したるもの即ち確定意見なり

業名	稅率	稅率
物品販賣業	賣上金額	萬分の七
銀行業	總資金	千分の六
金錢貸付業	貸付金額	萬分の十
料理店業	收入金額	千分の十
席貸業	收入金額	千分の八
旅人宿業	物品貸付業	千分の六
寫眞業	收入金額	千分の六
保險業	倉庫業	千分の四
運送業	貨物運搬業	千分の四
船舶發動機業	運河汽船業	千分の四
印刷業	製造業	千分の二
運送業	收入金額	千分の二
土木請負業	請負金額	萬分の十
勞力請負業	請負金額	萬分の十
周旋業	利益金	千分の八
客引業	報償金額	千分の八
荷物取扱業	報償金額	千分の十
仲買業	賣立金	千分の八
會社組織にして株式を以てする營業	利益金	千分の八

●東京の機業界　東京市內に於ける機業界は昨年以來一般に概して不振の景況なり即ち王子の東京製絨株式會社小名木川の綿布會社品川の後藤毛織物製造所の如き大規模の會社に多少の利益なきにあらざるべきも其れも近來物價騰貴の影響として職工の賃錢を引上げたるのみならず職工缺乏の爲めに困難を感じつゝある有樣にて其他小規模の機業家に甚だ面白からず近來東京に於て稍や發達せんとせし彼の肩掛地の如きは昨年末より都鄙ともに婦人用の吾妻コートなるもの空前の大流行を來したる影響を受けて春來賣行捗々しからざりしと一昨年より昨年に跨きて賣行宜しかりし彼のセル地も亦本年に賣行惡しく隨つて是等專門の機業家が不景氣を感じたると一方ならず然れども目下季節物の夏物衣服地たる瓦斯絲織、瓦斯紅梅織千代田織等の類敢て賣行惡しとにあらねども經濟界の前途憂ふべきものあるが近時機業界も金融甚だ逼迫し居るが爲め窮況を見るに至らず稱り綿軟天鵞絨織の市內に於て創業せられし以來新次機業の數を增し其產額も著るしく增加せしと雖も同品に下駄の眞緒或は袋物用其他の需用存外に增加し目下に其產額も船來天鵞絨の倣製以上に達するの狀況を見るに至りしが現今原料綿絲の騰貴せし割合に製品の價格を引上げざる爲め格外の利益にあらざるも賣行に甚だ宜しといふ

●東西銀行の貯蓄業開始　日本橋區橫山町二丁目の同行にては本月一日より貯蓄業を開始し一口十錢以上なれば何程にても預る由尤も十錢以下たりとも預け主の望によりては一錢と五錢との切符を以て之を預り置き其金額の十錢に滿る每に通帳へ記するの方法をも設けんと目下頻りに計畫中なりと云ふ又同行定款に依り來る八日午後二時より日本橋倶樂部に於て通常總會を開き前期の計算及び利益金分配の件を協議し次で取締役幷びに監査役の改撰を為す旨株主一同へ通知したり

●中尾氏店員　は去月下旬より埼玉、千葉、神奈川の三縣に於る各得意先を巡回中なりしが一兩日前歸京したり

◎謝辭

左に列記する諸氏に孰れも當時の實業界中に於て其名聲最も錚々たるの人となるが其熱誠の溢るゝ處又我商報の同業者を益する樂からざるを賞賛せられ加ふるに印刷補助として各金若干の寄贈を忝ふせられしのみならず殊に北海道後志國美國郡船澗村渡邊藤吉氏の如き頗る敏腕有力の人にして此賞賛を受る等に弊組合一同及商報の名譽とする所なり依て茲に貴名を列載して聊か其厚意を深謝す

（記名順序不同御海恕）

信州飯田町　佐久間信太郎君

越後國三條　長谷川新右衛門君

野州安蘇郡馬生町　鶴見貞吉君

上州吾妻郡中之條町　望月藤吉君

北海道後志國美國郡船澗村渡邊藤吉君

駿州大宮町　絶谷政次郎君

本組合録事

六月十二日　役員會を開き重要輸出品組合法發布紀念大會の件に付協議したり

同　廿五日　北海道廳令第廿二號賣藥部外品營業規則施行の件に付臨時役員會を開き種々協議の末同規則及明治廿二年二月廿三日發布警察令第六號幷に同伺指令寫を印刷組合員一般へ配布する事とし直に之を實行したり即ち左の如し

今般北海道廳令第廿二號を以て發布相成候賣藥部外品營業規則を施行セラレ候旨同地より通知有之候に付印刷御配布申上候就テハ本組合員ノ製造又ハ發賣に係ル化粧品ノ内染髮料（めらが染）浸齒料（みしの粉かね下ノ類）及ヒ毛生劑脫毛劑ノ類ハ同規則に據リ取扱ヒ要スル儀に有之候條此段爲念及御通知候也

明治三十年六月　東京小間物御商組合
五二會東京小間物部　事務所
組合員各位御中

（北海道廳令第廿二號）

賣藥部外品營業規則

第一條　賣藥部外品トハ鼠取、鼠除、殺虫劑、毛生劑、脫毛劑、除虫劑、染髮料、浸齒料、防臭劑、防腐劑等其他治病ノ目的ニアラザル製劑ヲ云フ

第二條　賣藥部外品ヲ製造販賣セント欲スル者ハ劑名原料分量ノ製造法用法用料効能ヲ詳記シ第一號書式ノ願書ニ製劑幷ニ原料ヲ添ヘ當廳長官ニ願出免許鑑札ヲ受クベシ其劑名原料分量製造法用法用量及効能書ヲ變更セント欲スル時又同ヲ

第三條　他府縣下及外國ノ製造ニ係ル製劑ヲ請賣セント欲スル者ハ第二號書式ニ準シ其劑名用法量法効能及製造者ノ免許鑑札寫及契約書幷ニ製劑ヲ添ヘ當廳長官ニ願出免許鑑札ヲ受クベシ其劑名用法用量効能及製造人ノ族籍住所氏名ノ變更アリタル時ハ當廳ニ届出ヘ但シ免許鑑札ハ書ノ添付ヲ要セズ

第四條　第二條第三條ノ製劑ニシテ他日有害品ナルコトヲ確見シタル時ハ販賣ヲ禁止シ其製劑ヲ廣告セントスルコトアルベシ

第五條　第二條ノ營業者ハ製劑ヲ容器若クハ包紙ニ容レ之ニ免許ノ年月日劑名用法用量効能及住所氏名ヲ表記スルニアラザレバ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ズ

第六條　第三條ノ請賣者ハ其製劑ノ容器若クハ包紙ニ請賣免許ノ年月日及住所氏名ヲ表記スルニアラザレバ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ズ

第七條　第二條ニ依リ免許ヲ受ケタル製劑ヲ請賣セント欲スル者ハ第二號書式ニ依リ製造者所持ノ免許鑑札寫及契約書ヲ添ヘ所轄警察署ヘ願出免許鑑札ヲ受クベシ

第八條　製造者又ハ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子派出シテ行商ヲナサシメント欲スル時ハ免許鑑札寫ニ行商者ノ族籍住所氏名ヲ記シ所轄警察官署ニ願出免許鑑札ヲ受ケ行商ノトキハ之ヲ携帶スベシ

第九條　製造者營業又ハ販賣ヲ禁止セラレタル時ハ即日死亡ノ時ハ戶主又ハ家族ヨリ五日以内ニ其旨ヲ請賣者及自己ニ屬スル賣子ニ通知シ尙販賣ヲ禁止セラレタル時ハ請賣者ノ住所氏名ヲ所轄警察署ニ届出ベシ

請賣者前項ノ通知ヲ受ケタル時又ハ營業ノトキ即日死亡ノ時ハ戶主又ハ家族ヨリ五日以内ニ自己ニ屬スル賣子ニ通知スベシ

第十條　請賣者賣子等ニシテ販賣禁止ノ通知ヲ受ケタル時ハ即日販賣ヲ止ムベシ

第十一條　營業者販賣禁止營業又ハ他府縣ニ轉居シ若クハ身上ニ異動ヲ生シタル時ハ左ノ手續ヲナスベシ

一　販賣禁止セラレタル時ハ製造免許鑑札ハ即日請賣鑑札ハ十日以内行商鑑札ハ一ケ月以内ニ返納スベシ

二　請賣者行商者第九條ノ通知ヲ受ケ其販賣ヲ止メタル時ハ五日以内ニ請賣行商鑑札ヲ返納スベシ

三　營業又ハ他府縣ニ轉居シタル時ハ製造請賣鑑札ハ五日以内ニ行商鑑札ハ一ケ月以内ニ返納スベシ

四　營業者死亡ノ時ハ戶主又ハ家族ヨリ製造請賣鑑札ハ五日以内ニ行商鑑札ハ一ケ月以内ニ返納スベシ

五　營業者轉居改氏名等免許鑑札面ニ異動ヲ生シタル時ハ五日以内ニ書換ヲ願出ベシ

六　賣子死亡解雇轉居改氏名等行商鑑札ニ異動ヲ生シタル時ハ五日以内ニ營業者ヨリ鑑札返納又ハ書換ヲ手續キスベシ

七　營業者轉居改氏名ノ爲メ賣子行商免許鑑札面ニ異動ヲ生シタル時ハ一ケ月以内ニ書換ヲ願出ベシ

第十二條　免許鑑札ヲ毀損亡失シタル時ハ五日以内ニ其事由ヲ記シ更ニ下渡ヲ願出ベシ

第十三條　免許鑑札ハ貸借スルコトヲ得ズ

第十四條　當廳長官ハ臨時主務官吏ヲ派遣シ製劑ヲ檢査セシムルコトアルベシ

但シ檢査ヲ爲シ指揮シタル藥劑ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ズ

第十五條　本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ願屆書ハ所轄警察署ヲ經由スベシ

第十六條　第二條第三條第九條第十條第十一條第十二條第十三條ヲ犯シ又ハ第十四條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ一日以上

過船弊店に於て發賣致候右新意匠懷中高等器物入、香水、麝香水、薄荷油、レモン油の儀發賣以來其日猶淺きにも拘らず時季に適したるを以て意外なる好評を博し日に需用者を增し月に販額を加へ候は是全く品質の善良意匠の斬新なる結果に有之然る處此頃該品が斯く拔扈を極るを羨み頗る粗惡の類似品を販賣する者往々有之候に付何卒御購求の節は山田篤三製瓢簞形高等器物入一名十ケ年保險附の文字に御注目の程奉願候

追白　該品發賣に先ち農商務省へ意匠の登錄を出願致候其要部は瓢簞形の懷中器物入に鈥を附たるを要部と致候尤も是は登錄濟次第更に廣告可致候得共此段豫め申添候也

東京市日本橋區通塩町　各種石鹼問屋　山田篤三

大改良新製のまげ形

今樣東京流行とう去ん入まげ形製造廣告

燈眞入別製　自慢形　とうしん入り

燈眞入ゆんしゆちん製　音羽形　尾上菊五郎好

とうしん入り　三橋形

とうしん入り　新東京形

とうしん入り　やまと形

燈眞製御白入　麝香形

紋縮子特別製　福助形

燈眞入り　さくら形

とうしん入　花王形

新橋柳橋流行　眞燈入　いさみ形

とうしん入　新橋形

別製　柳橋形

とうしん入　一乃字形

右之外御注文に應じ何形にても製造仕候に付何卒御注文を乞ふ尤も當工場へ年中各地方より御注文立込居候間御品切の前に可成御ナ越被下度候

東京日本橋區横山町三丁目壹番地　三橋商店まげ形製造部

別製　白粉　小間物問屋　本舗　三橋兎喜次郎

●埼玉○千葉○神奈川三縣下同業者諸君へ謹告す

過日貴地へ弊店店員伊藤宗吉參上之節は種々御配慮に預り弊店の面目不過之候就ては一々謝狀を差出可申の處何分にも多數の御得意樣に付き御尊名伺ひ漏れも可有御坐と奉存候間乍略儀當紙上を以て御厚禮申上候猶舊倍の御愛顧の程伏而奉願上候

明治三十年七月五日　東京日本橋區馬喰町一丁目　水町本店　平尾賛平

十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ仍ホ無免許ノ製劑ニシテ有害ト認ムル者ハ製劑ヲ廢棄セシムルコトアルベシ

附　則

第十七條　本令ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス

第十八條　從來ノ製造者及請賣者幷ニ他府縣下及外國ノ製造ニ係ル製劑販賣者ニシテ引續キ製造販賣セント欲スル者ハ明治三十年六月三十日迄ニ本則第二條第三條ノ手續ヲ爲スベシ

（第一號書式ノ一）

賣藥部外品製造販賣願

一劑名

原料分量

製造

用法

効能

右製造販賣仕度候間御檢査ノ上免許鑑札御下渡シ相成度製劑幷ニ原料相添ヘ此段奉願候也

何郡何町何番地住（寄留）

何府何郡何町何番地士族（平民）

何縣何區何村何番地華族（平民）

年　月　日　氏名　何年何月何日生㊞

北海道廳長官及氏名殿

（第一號書式ノ二）

賣藥部外品劑名又ハ何々變更願

一劑名

原料分量

製法

用法

効能

右ハ何年何月何日御檢査濟鑑札御下渡シ營業仕候處今般何々ノ廉左ノ通リ改正仕候間鑑札御書換ヘ被下度此段奉願候也

記

一改正ノ廉ヲ詳記スベシ

何郡何町何番地住（寄留）

何府何郡何町何番地士族（平民）

何縣何市何村何番地華族（平民）

氏名㊞

年　月　日　何年何月何日生

北海道廳官氏名殿

（備考）

原料分量製法ヲ變更セントスル者ハ其製劑幷原料ヲ添ヘキモノトス

（第二號書式）

賣藥部外品請賣願

一劑名

製造者何郡何町何番地氏名

右製劑今般請賣仕度候別紙所持ノ免許鑑札寫幷ニ契約書相添此段奉願候也

何郡何町何番地住（寄留）

何郡何町何番地士族（平民）

何府何縣何區何村何番地華族（平民）

氏名㊞

何縣何郡何町何番地華族（平民）

何警察部長官氏名殿

○警察令第六號（參照）

賣藥部外品營業規則

左ノ通相定メ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス但從前營業スルモノハ明治二十二年二月二十八日限リ出願スベシ

明治二十二年二月十三日　警視總監　東京府知事男爵　折田平内　高崎五六

賣藥部外品營業規則

第一條　賣藥部外品トハ販賣ノ目的ヲ以テ藥品ヲ配伍シ製造シタル鼠取、蠅取、蚊ヤリ、蚤取、虱取、髮料、浸齒料、防臭劑、防腐劑其他醫治ノ目的ニ非スシテ薬品ヲ配伍シ製造シタル者ヲ云フ

第二條　賣藥部外品ヲ販賣セントスル者ハ名稱配伍品分量製法用法効用等ヲ記載シタル書面ニ製劑ヲ添附シ東京府廳ニ願出テ免許鑑ヲ受クベシ但他管ニ於テ製造シタルモノト雖モ當府下ニ於テ販賣セントスル者ハ本文ノ手續ヲ爲スベシ

第三條　免許ヲ受ケタル賣藥部外品ノ名稱配伍品分量製法用法効用等ヲ變更セントスルトキハ第二條ノ手續ニ據ルベシ

第四條　賣藥部外品ノ營業ヲ他人ニ讓渡サントスルトキハ双方連印ノ願書ヲ東京府ニ差出シ免許書ノ書換ヲ請フベシ

第五條　賣藥部外品ノ營業者氏名ヲ變換シタルトキ又ハ其相續人ニシテ營業ヲ繼續セントスルトキハ東京府廳ニ屆出免許書ノ書換ヲ請フベシ

第六條　免許ヲ毀損亡失シタルトキハ其仔細ヲ記シテ東京府廳ニ屆出再ビ免許鑑ヲ受クベシ

第七條　賣藥部外品營業者廢業若クハ死亡シタルトキ又ハ他ヘ移轉スルトキハ免許鑑ヲ返附スベシ但管内ノ轉居ハ其時々屆出ヘシ

第八條　本則第二條第三條ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第九條　本則第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

右警察令第六號ニ付其當時ノ東京藥業組合頭取ハ東京府衛生課長ニ相伺候處左ノ通リ御答辨有之候

（伺）警察令第六號賣藥部外品營業規則第一條ノ明文ニ無之匂袋、白粉、香水、香油、煉香、線香ト洗粉ヘ齒磨等ノ品類モ同規則第二條本文ノ手續ニ據リ願出免許証ヲ受ベキモノナルヤ

（答）質疑ノ八種ハ免許証ヲ受ルノ限リニ非ズ併シ醫治ニ類スル効用書ヲ附スルモノハ出願スベシ

右ノ通人民ノ伺指令ト異リ組合頭取ノ資格ヲ以テ伺ヒタルモノニ對シ衛生課長ノ資格ヲ以テ答ヘラレタルモノナレバ東京藥業組合員タルモノニハ之ヲ証スルノ効アルモノナリ

明治廿二年三月

天ノ與ヲ取ラズ反テ其咎ヲ受グ　頑固ナル御主人公

京都紀念博覽會ニ於テびんつけ、すきあぶらニ進歩銅賞牌ヲ得タルハ獨リ弊店ノミ

專賣特許

香蠟（びんつけ、すきあぶら）ニ告條

從來世に行はるゝ香蠟（びんつけ、すき油）は木蠟と植物性油にて合製せしもの故寒さの時分に凝り固まり暑さの時分は腐敗を來し甚しきは一種の惡臭をさへ發生し貴女紳士の躰面を汚すことあり本邦髮附の翻類多しと雖も唯舊來の製法を墨守して敢て進歩せず故に未だ一も以上の缺點を免るゝものなく顧客の遺憾即ち茲に有り今や弊店發賣の香蠟（びんつけ、すき油）は右の缺を補ひ參酌上衛生上の實益を示す眞に髮付劍世以來の一大發明なるとを確信せ之れ特許保護の榮を享受したる所以也

本品の特色

○熱に遭ふも酸化の憂なし腐て惡臭を發することなきが故に衛生上殊に有益なり

○寒冷に遇ふて凝固せざるを以て使用甚便なり

○原油の特性により頭垢の生ずるを防止するの効あり

歐米芳花の香料を含ましめれば其香ひ新高尚なり

○髮附の形狀に於ても特に意匠を凝らし舊習を一洗して使用上の便利と其体裁を優美にせり

○相當代價及び小包郵便料共相當郵便切手加封御申越し次第迅速御送達可致候

○地方請賣望の方ハ本支店便宜の方へ至急ヲ込ムベシ

香蠟（びんつけ、すきあぶら）の原料

パテント油　特性

透明ニシテ淡黃色無臭

發火点華氏三百七十五度

比重、八八五

暑熱ニ遭フテ酸化セス

寒冷ニ遭フモ凝固セス

右パテント油ハ文明進歩の寵兒として此びんつけ、すきあぶら社會に生れ來れり今や斯業社會に於ては更に香料部を設置し充分原品の撰擇に注意し徒に呼價の低きを衒ひんが爲に品質を顧みざるが如き世流に反し同業者と競爭する只一位を占め從來本邦輸入製造家當業諸君へ御ヲ越し次第定則代價表等御送達ヲす可し

種油白絞油の如き價高き加之寒暑共に凍酸の憂ある不完全なるものハ全然必用なきものとなれり

○びんつけ、すきあぶらに要する一切ノ香料亦從來正當なるもの少くして常に製造家諸君の遺憾とせらるゝ處なれば今般弊店社會に於ては更に香料部を設置し充分原品の撰擇に注意し徒に呼價の低きを衒ひんが爲に品質を顧みざるが如き世流に反し同業者と競爭する只一位を占め從來本邦輸入製造家當業諸君へ御ヲ越し次第定則代價表等御送達ヲす可し

純正なる原料を紹介し斯業上の御便宜に資せんとするの素志に外ならず

尚歐米香料社會に於て亦從來本邦輸入品中最も信用を有する處の英國倫敦ヲルコーツ一位を占め

尾上菊五郎發明意匠
全世界無類懷中持水白粉

定價　壹拾二錢

表　白地墨画
裏　紫　赤　無地
　　縮緬　結

右懷中持水白粉之義は驚て御風廻致置候處今般製造相成候て右雛形御覧に供し候就而は臨積鬼外堂へ御注文之程奉願上候敬白

意匠發明者　東京新橋　尾上菊五郎
製造場主任　野田藥劑師
伊東鬼外堂

特約店
横山町二丁目　佐々木
横山町一　江川支店
馬喰町二丁目　大和屋
花王堂
見屋
横山町三丁目　平尾
柏田屋
都屋

ライオン齒磨の特効

本品は化學作用により多年實驗して好成績を得たるに依り一層原料の良質を撰擇して精製したるものなれば從來世に行はるゝ普通齒磨と其質を異にして香氣頗都として口中の汚物と臭氣を去り齒質を雪白潔全なならしむると

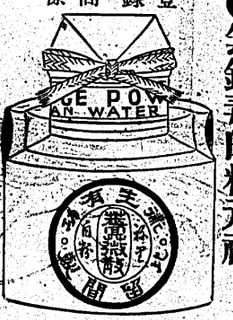
世界無比

にして且藥品を常用れ齒齦膿を治し進て口中一切の病を思ふる無きと發なし是れ本品の特効なり江湖の諸彦積々御試用の上御高評あらんことを乞

東京市神田區柳原川岸廿二號地
電話濱花四九八番
東京特約店　横濱市常盤町二丁目
横濱特約販賣支店　天野
小林富次郎
中村商店
特約店　東京小間物御商組合各店

此美人水白菊の露は其昔藥舗の祖先が京都に於て發明いたし爾後數代家傳の精製品なり
此御化粧水を常に御用ひあれば御肌へに特効を奏し肌の白きは白菊の露の床しく自ら美しき艶を出すなり又御化粧の後御顔へ御引き成され候は美人水を以て白粉を御とき成され御化粧遊ばされ候て香氣頗都として一層の光澤を增すなり殊に香氣能く不淨を除き邪氣を拂ふなり
愛知縣名古屋市本町電七丁目
製造本舗　柏屋善藏
か、見屋　大和屋小兵衛
鈴木正七製　丸見屋善兵衛
定價　小壜拾錢　金五錢中壜錢七錢五厘大壜錢拾五錢
東京　通旅町橫山町一丁目
橫町四丁目
大傳馬町二丁目
販賣　東南國橫綱町
伊勢屋
汐見屋盛榮堂
吉次郎

宮内省御用
登錄商標



●無鉛毒白粉元祖
●右薔薇水
●白粉ハ是迄●水製●粉製
クミニ有之候處
●煉白粉
●倍薔薇
肉色●煉製特別大瓶入
白色●水製大瓶入
中瓶入
粉製大曲入
小曲入
之御愛顧ヲ以テ
發賣
仕候ニ付何卒
本年上候
陸續
御注文之程伏而
製造元寶丹藥本舗
東京
東京廣山町壹丁目
北留間民藏
元發賣本舗
天野源七
大坂市南久寶寺町三丁目
萩原吉兵衛
開西一手大販賣
特約販賣店
東京小間物商組合中

登錄商標
歌舞伎座
東京
世界
元祖
寶丹藥
東京市神田區位町
各石鹸製造元
特約大販賣
東京市日本橋區本石町四丁目
松澤常吉
芳香藥種問屋
化粧品部
大販賣
東京小間物問屋各店
大坂市久寶寺町三
小栗小三郎
關西代理店
大坂市本町
飯田皆治堂
取次所全國到る所藥店及小間物店に有

日本特約一手發賣元
定價
高尚優美紙包壹入　拾錢
高等彩色燒付壹入　三拾錢
高等彩色燒付壹入　金五拾錢
高等彩色燒付壹入　金壹圓

登錄商標意匠

登錄商標意匠
純良香料
鹿野香薔薇
一名（セスローズ）

○蓮山實

（第十九回）

一眼子稿

用心厳しき視線が鋭く非常門を右に見て一町餘り距りたる納屋の後の蔭迄にヒラリと降り立つ右京之進、脊負ひし太刀の紐を解き確かと腰に手挟みて裏と表の目釘を湿し卒と云へ扱き放し傍へに積める藁の如く死骸を積まんず心猶へ身づくろいさへ勇ましく黒白も分かぬ暗の中をぬき足さし足忍び出で納屋の周囲を一廻りして傍への木小屋の前に立ちひ耳をすまして嵐がへば意見し時より用心かたく表門裏門の両所とも篝火盛んに焚き列ねて固めの人数何十人今が交代の時と覺しく小手脛巻せし兵士ども右に行き左に馳せて見るから事みしき体たらく太刀物の具の響きさへ手に取る如く聞えしかば見咎められじと右京之進は傍へに森々と生茂れる大樹の下を縫ひ〳〵て左りの方なる板塀に沿ひ大きなる建物の後に出れば此處へ馬の嘶場と覺しく前を流れる小溝の側に食を盛りの卯の花は暗にもしろく見ゆるにぞ若しや厩の馬に見知られ嘶かなき騒なぞ立られなば大事をおやまつ恐れありと俄かに後ろに身を退けて更に右の方の森に分入り忍び〳〵に行く程に此處に一ツの構わりて右へ行けば表門の方左りへ行けば中庭より奥の間の方へ行き得らるゝ樣子なれば左りの方へ行かんとする時傍へに茂れる小笹の影に張番をせし一人の兵士スワ曲者といふより早く後より無手と組付きしにア仲業ハッと驚ろきし此處ぞと思へば能と高笑ひ　コレサ何を戯れ拙者の顔を見知らぬか今日俄かに召寄せた所領の者と覺ゆるよ抽者は書家の家の子遠見三平太の親の者若旦那源太樣の樣を戯れする取で源太樣が何處に御坐るか一寸教へてくれるがよいと早速の機轉云黙れば彼方へ少しも驚かぬ事　コイヤ是へ飛だ奥意餘り四方が暗いので[illegible]致して御坐る真中に[illegible]處で源太樣の居さうじやいさすい此處の垣を裏手へ廻り[illegible]郎の間を分けてダラ〳〵降から廊を廻ると向こに見へる書の屋へ丁度今行かしやつた那處へ其處許も承知の通り例の姫御が御坐るから迂闊に内へ道入らうものなら源太樣のお眼玉怖いぞや案内頼んで道入らつしやれと云捨て行かんとす仲業は否じけないと禮を述べ二三歩前へ出てたるが俄かに腰を廻らして今行かんとする兵士の後より一刀引ぬき横歐打に首も飛べよと切拂ひしかば不意を打れてなにかは堪らん武士は胴首二ツに分れてキャッとも云はず倒れたり仲業血刀押拭ひ死骸を傍への藪に押込み一生じて置いて事の破れ不便ながらも手に掛けた迫て吊らんと取らすがと云置き其儘築垣の裏手より那の葵の屋の陰へ行きしに薄の火影戸を漏れて内にハ繊弱き女聲聞えた

ば書の[illegible]取りけりと驚ろき默頭さ面戸に耳を押付けて内の樣子を窺かんとなる[illegible]源太景季が被衣の氣配さに打驚立ち　高被衣[illegible]イヤサ女[illegible]

太刀をぬき放し[illegible]源太樣へ[illegible]れ[illegible]被衣へ少しも驚ろかず景季が[illegible]せといつかな動かぬ[illegible]心見る[illegible]景季立上り「ヨシ夫ならば空み[illegible]ばうと[illegible]てやると[illegible]なる[illegible]被衣の[illegible]

[illegible]ろかず景季が[illegible]

[illegible]

[illegible]

最近登錄商標摘要

●品名、紅、白粉、顏料其他染料數種　一線を以て縱長方形の欄を劃し欄内に種々の草花を集めて縱楕圓形狀の内欄を設け其内に角形の畫上に賓冠の下部に布片を置き其上に中央に同様の曲線形に刺りたる楯形を置き其内に B、A、& 形の左右側に軍服を著したる各々二人の人物が各々槍を持ち雙手を楯の一端に掛け體を正面に向けて立ち又内欄の上部左右に各一羽の鳥が翼を張りて止れるを畫き其中欄に兩端曲折せる弧狀の布形を置き又内欄の下部面上に掛けて楯形二個を左右に密接せしめて置き其右方の面内には獅子が体を左方に向け鎖を捕きたる楯形に前兩足を掛けて右方を顧みたる圖を顯し又左方の面内には馬が左方に向ひ立上れる圖を顯し其下部に接して左右端及下部一邊を唐草狀に裝飾せる横長方形の區劃を置き其下左右に各々二個の實牌形の一端を重ねたるものを置きたるもの

獨逸國バイエルン、ソーダ製造社
取締役　アドルフ、ハインリッヒ、ブルンク
同　ルヘンス

●品名、同上　一線横長方形欄を設け其内部中央部分を上下二部に區分し其上方の部分に横長方形狀を爲し下方の部分に縱長方形部分の面内には左方に數株の樹木右方に種々の草花を畫き中央に一羽の雉子が左下方に向ひて立ちたる圖を顯し又左右の兩下隅に各々一匹の蝶を顯し上方に兩端捲曲し中央に於て屈折せる一條の布形を横置し下方より左右兩側に掛けて唐草模様を顯し周欄内左右の部分に幅狹き模様ある頓様のものを置き更に其内邊に沿ひて上下に模様ある縱長方形の區畫を設け其右方なる區畫の面には二個の盾形を密接せしめて置き其一面には一頭の奔馬を畫き一面には一個の鎚を有する盾形に前足を掛けて立上れる一頭の獅子を畫きたるもの

仝　人

●品名、同上　雜草を有する廣漠たる原野に三羽の鳩ありて内一は頭を上げて左方に向ひ其後側なる一羽は體を右方に向け左方を顧み又左側の一羽は體を稍々右方に向け頭を下げて餌を求ひる様を畫きたるもの

仝　人

●品名、齒磨、洗粉　「シカゴみやげ」の文字

東京府　安藤福太郎

●品名、石鹸　兩端卷曲せる一條の線を縱楕圓形狀に撓めて欄を爲し欄内下部には頭髮を花形にて裝飾し稍々右方に向つる半身婦人の圖を描き其上方に笠体にて二羽宛二行に配し又欄の後方上下より松枝及羽衣の一部分顯れたる様を畫きたるもの

同

●品名、石鹸　五稜形の内に菱形を畫き内に羅馬字エスの一字を配したるもの

東京府　鈴鹿保家

●品名、刷子、髪　直立せる二人の軍人

神戸居留地獨逸國　ホルム、パウル

●品名、白粉　片假名交り楷書「アサヒ白粉」の文字

大坂府　森平兵衛

●品名、染料、顏料一切　二人の喇叭卒が蓙形を爲せる大の字狀の臺上に背向して立ち臺の中間に獨逸徽章を顯したる雪輪狀のものを掛けたる圖

神戸居留地獨逸國　ホルム、パウル

●品名、紅、白粉、顏料其他染料數種　縱長方形欄内に輕業師の圖を畫きたるもの

獨逸國バイエルン、ソーダ製造社
取締役　アドルフ、ハインリッヒ、ブルンク
同　ルヘンス

●品名、同上　縱長方形欄内に圓形を劃し中に「ライプスタイン」城を畫き下に楯形中獅子及馬を畫きたるもの

仝　人

●品名、同上　横長方形欄内に唐草を置き獅子及馬等を畫きたる楯形の圖

仝　人

●品名、白粉、石鹸、其他藥劑數種　曲尺形の下に片假名「ツの字を配したるもの

東京府　淺井保、其衛

●品名、石鹸　「ヒチヲリル石鹸」の文字なり

東京府　松澤常吉

●品名、香油、髪膏、香袋、香水、炷香、線香、煙香、化粧下、粉末香　唐草にて囲みたる稍々方形なる欄を設け此欄内に華字体なる羅馬字チー、エム、の二字を組合せて配し唐草の欄外下方には両端曲折して三面を顯せる一條の布形を横置し其上に各々一頭の飛龍が相對立し各前足を唐草形に懸け又唐草欄外上部には一匹の蝙が両翅を張り稍々左向して止りたる圖を畫きたるもの

仝　人

●品名、石鹸、其他藥劑數種　要部前に同じ

仝　人

●品名、石鹸　縱長方形欄内に地球儀を置き其下に種々の花及軍人を畫き上部に「全世界」と配したるもの

東京府　熊田善藏

●品名、髪膏　山松の下に鶴を畫きたるもの

同　鈴木源吉

●品名、香油、髪膏、香袋、香水、炷香、線香、煙香　一線圓形欄内に羅馬字エーの字を配したるもの

横濱及神戸居留地獨逸國
エストマン商會代表者
エル、ボブシン

●品名、石鹸　馬字エスの一字を配したるもの

東京府　鈴鹿保家

●品名、刷子、髪　直立せる二人の軍人

神戸居留地獨逸國　ホルム、パウル

●品名、白粉　片假名交り楷書「アサヒ白粉」の文字

大坂府　森平兵衛

●品名、染料、顏料一切　二人の喇叭卒が蓙形を爲せる大の字狀の臺上に背向して立ち臺の中間に獨逸徽章を顯したる雪輪狀のものを掛けたる圖

神戸居留地獨逸國　ホルム、パウル

●品名、紅、白粉、顏料其他染料數種　縱長方形欄内に輕業師の圖を畫きたるもの

獨逸國バイエルン、ソーダ製造社
取締役　アドルフ、ハインリッヒ、ブルンク
同　ルヘンス

●品名、同上　縱長方形欄内に圓形を劃し中に「ライプスタイン」城を畫き下に楯形中獅子及馬を畫きたるもの

仝　人

●品名、同上　横長方形欄内に唐草を置き獅子及馬等を畫きたる楯形の圖

仝　人

袋入●箱●詰●鐘詰●壜詰

袋入●箱●詰●壜詰

口中一切之病不生生涯齒患不知
精製御齒磨
古今改正寶香
東京東南國橋新町
伊勢屋吉次郎製

登録商標
本家
伊勢屋

《齒磨改良廣告》

弊店製造齒磨の儀は往年亀先創業以來累世連綿該製造法を極力研究し長年の苦心に有功無比なるを以て大に世人に歓迎され既に安政年間横濱開港先して歐米各國へ輸出し爲に海外人の賞賛を得て今に毎々多額を輸出致候のみならず内國勸業博覽會に於ては其出品毎に有功賞牌又褒賞等を拜受し殊に同開會に於て縱覽者に出品中の優等を撰拔投票を求られ候砌は其投票の多數に依て最良品と認められ中時事新報社同社より特に金牌を賜られ候等弊店の名譽幸甚不過之候間之を全く平素御愛顧賜君の御高配に等因り候間と深く感謝する所に候因て弊店の是の御厚意に奉酬候爲に益々勉励致すべし茲に一大改良を加へ品質を撰擇し職工を督勵し急々進て佳良の製品を專らにし且價格も可成丈低廉に販賣致候猶賞牌附寶香の儀は明治の初年弊店祖先傳來の方法を改正せしを以て尋常白堊なるべし一度口中に含ませば速に口中に實効ある藥種數品を撰て配伍精製致候儀故常に此齒磨を御使用あらば口熱を去り粘液を除き又含嗽の後其粉末の口中に止る等の此寶香の最も特色とする處に有之故に需用諸君の御信用を蒙り販路日に月に增進し多額の御注文被仰付罷在候然る處昨年來桐箱職工の拂底にて容器の間に合兼候より折角御注文被仰付候も自然出荷に延引を來し個數も御注文丈出來致兼候爲め不本意ながら一時只御間に合せ丈丈御送り上候得共目下は夫々手配の上桐箱職工も相增其他の諸般悉く整頓致候故最早何程多數の御注文にても出來候へ勿論御注文の節は迅速出荷可仕候間何卒倍舊の御愛顧陳積御用向被仰付候樣偏に奉希上候

尚々東京小間物問屋各店にても販賣仕候間是亦本舗同樣澤山御注文被仰付度奉願候

賜賞牌

賞書梅香散
齒磨製造所
本家
金袋堂

《告》

東京小間物問屋各店

東京東南國橋新町一丁目
伊勢屋吉次郎謹白

●品名、洗料、藤料一切　眉形を擁じて臥したる鬘子の圖　神戸居留地獨逸國　パウル、ホルム

●品名、齒磨　角字体片假名にて「カツパツ」と列記し其上方に右方の手を握りたる先端を左方に向けて書きたるもの　東京府　大野重吉

●品名、白粉下　鍵書「鶴水」の文字　同　大阪府　井孝輔

●品名、齒磨　縦楕圓形欄内に梅枝と葦とを同形に書き其内に浪花小判藥齒磨と記したるもの　大阪府　辻彌太郎

●品名、紅　櫻花形の面上に花王紅の三字を記したるもの　同　伊藤清右衛門

●品名、香油、梅花油、香袋、香水、煙香「コスメデック」化粧下「炷香」　東京府　村民藏

●品名、香油、香水、髮書　文の字而個を現記して黑黃櫻花を爲し其面形中央に井筒形の中に楷書にて「中」と記したる目印を書きたるもの　東京府　井文助

●品名、紅、白粉、顏料其他染料數種　一匹の虎横臥　神戸居留地獨逸國　ツツツツツツル

●品名、白粉下、香水、艶女水と書下したるもの　相島安久利

●品名、石鹼　其他藥劑數種　東京府　左右に皿各々一箇を垂下し支柱を西洋婦人に擬したる樣衝の圖　私立試驗所業務報告社員　一

●品名、染料、顏料一切　五頭の馬が雜草の生したる地上に立ちたる圖　神戸居留地獨逸國　パウル、ホルム

●品名、同上　壯鹿の首　人

●品名、同上　花を綴り壯麗の書を顯したる袋樣のもの　人

●品名、同上　人

●品名、同上　人

●品名、同上

獨逸石鹼

特約期限

六月中申込

特約

卸直段

廉

左記

獨逸石鹼

特約販賣所

小田善兵衛

大販賣所

改良有功新花粧料

キヒヤ水

白粉

そばかす

吹出物

製造本舗

太島和吉

關西製藥

寺澤覺兵衛

獨逸石鹼便利店

獨逸石鹼

特約

卸直段

廉

左記

獨逸石鹼

特約販賣所

小田善兵衛

代價進呈

比合回限

看板別杜

本舗

太木日哲

卸部

太木

●同業組合聯合の方法　各同業組合は聯合會を組織せんとて運動中の者もあれど新に設多分の經費を要し維持の實迄十分ならざるを以て寧ろ五二會を利用し事業の目的を達するに如かずと云ふ者あり有力なる組合は大抵此説に同意せりと。

●葉烟草買上値段　明年一月より實施せらるゝ葉烟草買上値段に依り政府が買入より買受る葉烟草價格は何程なるべきや既往五六ケ年間の平均價格によれば下等葉烟草百斤五六圓なるも現今の相場は十二三圓なり若し五六年間の平均價格にて買上くる時は耕作者は小作人夫の賃錢肥料代價等に至る迄總て賠償せし今日其不利益を感ずる事大なるべく若し又現時の相場を以て買上くるとせば耕作人の利益莫大なるべし要するに葉烟草買收豫定價格は葉布の日に至らざれば其價格の程度如何に依りて葉烟草の市價に一大變動を生ずるは必然なりと云へり。

▲平尾氏近縣旅行日記（承前）

五月廿八日　水戸上市の都を一郡す同地は人口三萬餘人も知れるが如し夫城郭中第一の市街にして市内頗る繁榮なれば隨て同業者も數十名を下らず重なるもの亦十餘名あり夫より四時發にて卒に至る。

同　廿九日　平町を一郡す同地は人口九千七百に過ぎるも市街の繁盛は實に驚くに堪へたり此地は近年頗る又七千の濃塔を扣へ居れり故に大祭の時は一層盛なりと云ふ而して同業者の重なる者十數名あれども概れも業績にして小間物を以て專業する者は甚だ稀なり

正午、水戸を出立し三時頃水戸に歸り前日廻り殘したる上市の同業者を訪問し及び公園等を見物せし後下市の方へ一郡す下市は上市より狹く隨て上市程の繁榮すれども重なる同業者は數名あり夫より三軒茶屋を經て磯濱に着も該地は人口一萬餘を有すれども商業地なるが故に同業者少く是より一二丁を隔て大洗の海水浴あり後に松林の小山を有し其上に大洗を望み風景頗る佳絶夏季は參客數人其に多しと云ふ

同　三十日　大洗を出發し後町に至る（茨城一里餘）此處は人口一萬餘を有し商業盛なり後町に至る

同　三十一日　太田町を一郡す此地は人口七千五百餘近縁農民の集に繁盛を以て有名なり同業者も十數名ありて最者にて先づ水戸に亞ぐべき繁盛地なり近々太田鐵道の敷設ある由なり。

水戸に歸り直に土浦線の鐵道に乘て石岡に下車す此地は人口一萬二千餘同業者も十數名ありて可なり盛なる地なり夫より土浦に至る土浦は人口一萬千餘あり此地は石岡より猶盛にして前に霞ヶ浦を見、風景絶佳、毎日佐原行の蒸船あり又日本鐵道土浦線の中央にして市街隨分廣く同業者も亦十餘名の多きあり

六月一日　土浦を出發取手町に至る此地の人口凡そ三千九百餘なるも人口の割合に盛なり同業者重なるもの五六名此地より水海道へ行く馬車あり（水海道は都合により後日に譲れり）夫より松戸に至る

松戸は千住を距る僅に三里の地なるを以て多くは千住に取引を為し可なりに盛なり夫より田端を經て午後三時上野に着す。

附言　今回は近縁なれば報告數を以て多くの市街を巡回したるも至る處概ね繁盛地方なりしが故商業に大に寂寞の感ありたり併し旅行中大抵晴天なりしも是も一つの儲け物なりし

太田　[illegible]（畢）

長吉外傳　惡僕直助傳　第五席

（歸著　眞玉譯　今村永郎述記）

直助の立去りし後ろ姿を見て居た八十右衛門は思はず涙を流し、アヽ、愛なつて溢く者は、拠可愛いもので、直助が覺悟を致して大野の屋敷（切り込ひといふ實に實に）ものであると、心の内に思ひながら直助の部屋へ行きさし覗きますると、直助は脇差を投捨て鉢巻襷のまゝで、今度は物置へ這入り込み、炭俵の這入て居る大きな俵を擔ぎ出します。

から、入「コレ〳〵」直助何を致す　直「エヽ旦那様又見て被為入いましたか。今の話に向ひ大勢だから、[illegible]事になるだ[illegible]一番直すのにゝ[illegible]の俵陣を持て行て丁度屋があるから、今夜大野の屋敷（火を[illegible]）でこさいます　入「コレ馬鹿といふな。左樣な事を致さいでも先刻も申す通り又見返す事もあるゆゑサア〳〵此方へ來い」と仰しやる傍からゆ新造も立出で　妻「直やお前其樣なに腹を立ないで。旦那樣もいろ〳〵仰しやるゆゑサア技へ來て一ぱいお酒でも飲んで氣を晴して頂たら宜からう　入「高が酒を持て來たか。夫へ宜い處へ氣が附た。直助サア一杯飲め〳〵　直「是やアゆ新造樣有難うございます。左樣なら思召しを頂戴します」と盃を取上げも、どうも氣が浮ぬ樣子。岡島夫婦はどうか直助の氣を直してやりたいと思召して。當人の氣に入るやうな話を致しますから直助も喜び、ツイ酒が過つたの。其儘其處へ寢て終ひました。八十右衛門殿は自身に布團を持て來て直助の上へ掛てやり　入「高が酒に酔ひつたよ　妻「併し旦那樣此者は見上た者でございますね　入「然れば何處で聞たか樂子といふ事を知つて。年頃の今日まで只の一夜明た事もなし、勝負事は嫌ひなり酒を好むといひながらモ一二合も飲だら此の通り　妻「寝上手と見えまして能く寝て終ひました。ソックリ寝かして置てやれ」とお「爺は居間へお這入んなさる。モ一夜は更て居りました頃寝て居た直助。酔醒の水が欲さに目を覺し見れば。自分の部屋とは違ひ臺所の次の間へ旦那の布團を着たまゝに寝て居た事が分りました

直「ヤ、ハテ[illegible]　然う〳〵乃公が餘まり大野の屋敷へ切込む〳〵といつたのを。旦那樣やゆ新造樣いろ〳〵宥めて。夫から酒を飲して下すつた。夫までは覺えて居たが跡は何にも知らなかつたが。此の夜着は旦那樣のだ。アヽ見ると乃公に屋敷を冒せやうと思召して。お二人の中で拵て下すつたに相違ない。何と結構な旦那樣だらう。夫に[illegible]元が惡いので。ツイゆ召[illegible]屋の[illegible]人中で喜をゆく[illegible]事になるだ[illegible]一番直すのにゝ[illegible]のやうだが乃公ヤア此家を飛出さう。然うだ。文藝ソレでも旦那樣二人の[illegible]金をためたら三年が五年の中にヤア[illegible]出來る。[illegible]したら其金で[illegible]那樣に差上やう。夫が一番近道だと。一ヶ月[illegible]定め[illegible]して有合した眞紙へむばありの書置[illegible]眞正に手習ひをしないと見え字も假名交りで[illegible]捜心願の事で金比羅へ參詣に為り。何れ四五年の中に戻つて來てお詫をするといふ事を書殘しました。上書に俥旦那樣と書のもゆの字は分りましたが。旦那の旦の字が知れませぬゆゑ園子の國の字を認め其書置を坐寝の隅の柱へ貼附け。夜明け中に直助住馴た播州赤穂の神田小路といふ入、岡嶋の屋敷を跡に立出ました。扨直助は固より無所といふ旅費がありて行くでもありませんゆゑ、袖乞をしながら參ります。渡る世間に鬼もないと比喩の通り、何處で貰つたか藁笠に柄杓を持て金比羅詣りとなつて漸く大坂へ這入りました。扨人の話にも其出處へ行て書く居やうと思ふにも、第一に氏神へ參詣をするものだといふ事を聞て居りますゆゑ。天滿の天神へ參りました。參詣も畢り石橋へ腰掛り是から何處へ行うといろ〳〵考へて居る耳へ「テンカン〳〵」と槌の音が聞えるもゆゑ。傍に居る人に聞て見ると。此の天滿の境内に居る刀鍛冶新刀なから當時の名人。大坂正宗といふ評判をされる津田越前守助廣といふ刀鍛冶の仕事場だといふ事を聞き。元の旦那も刀から事の起つた事ゆゑ。當人も行て見やうといふ氣になり。音を慕ひに來て見れば。門口にゝ大勢人が立て居る樣子。家を見ると二人の弟子が長刀の槌を以て向ふへ[illegible]。先生といふのは年頃四十格好。さすが物の上へ立つ人。何と云へ立派な槌を陰の[illegible]やはして。其槌を以て弟子二人を對手となし[illegible]刀を打て居る樣子。陰で聞とテンカン〳〵音[illegible]しますが。決して[illegible]テンカン〳〵ばかりで。[illegible]天下太平五穀成就國民豊かを打込む樣で。十一[illegible]五回と切り返し。[illegible]

●貿易衰頽の病源　我邦海外貿易の事情を熟心に報道し併せて其興衰を講ずる最近の日英貿易雑誌中に在る日清貿易衰頽の病源なる一節を左に摘録せん

病源とは即ち我商界の骨髄として内地に地位勢望を有せる今の所謂紳士豪商の内情なりとす是等就中市井の無頼漢にして巧みに此等水泡事業に向て徒らに名を何々鐵道發起會社若くは何々事業會社に附し其成算の未だ立たざる前早くも唯其私利を貪り一片の歌舞なく半點の感嘆なき我經濟界に於て新事業の株券は彼等が方寸中に屈み其相場の變動を僥倖せしめ坐ながら天下の潤利を網するものにして現に此等紳商輩中にて某銀行頭取として其他鉄道鐵道會社等幾多新事業の社長取締人等或は二十以上驚くべきは百種程の名義を掲ぐるものさへあり是れ其實彼等は唯其名義を假りて自分に壟斷せる新機の勢氣を激じ其度合を計て之を賣飛ばし後其會社の自己が關係したる事業の成否は毫も顧みず去て再び同一の手段を以て新事業を打立て直に之を賣飛ばす實に之れ今回の如き小恐慌を來せる原因にして病源深く我經濟界を糜亂し遂に我商界の奇傑故川田氏をして痛く日本商界の腐敗を嫌惡せしめたり而して彼れ紳士豪商なるものは年一割五分乃至二割以上の利益を壟斷し而も其地位勢望は却て學者の尊敬を悉くに足るを以て何を苦んで特に海外低利の商業に向て獨身的競爭を爲すの愚を學ばんや現に英國米商の如き其清國貿易に於てすら三分五厘以上五分若くは八分に過ぎざるの利を以て滿足[illegible]に非ずや彼の京釜鐵道東京[illegible]の如きに於て官府の責に帰するべき[illegible]れ我内地に金利新の如きの高責は徒らに我商工者をして安坐以て不義の富を貪らしめん亦た邦外に向て將來多々益々弊すべき國富の伸張を圖るの意氣なからしめたりと云へ

●廣告

日本橋區横山町二丁目
株式會社
東西銀行
（電話浅花二八四番）

貯蓄預金　利子一ケ年六分ノ月割ニ
明治三十年七月一日ヨリ開始

動産貯蓄の必要なるは皆人の知る所にして愛に多言を要せずして今の世は金の世の中なれば各々身に金錢の貯へあくてば世に立ちて事を爲し人に交はる事能はず左れば些少の金錢にても無益に費さずして平生收入の幾分を積み貯ふれば知らず識らず多額の金圓となりて商業の資本子女の教育養老の手當其他不時の疾病災難に逢ふも他人の厄介にあらず獨立して生活を全ふすべし當銀行は是等の金錢を預かる爲に最も便利と堅固の方法を以て廣く公衆の求めに應ぜんとする所なり

貯蓄預け金心得

一初めて貯金を御預けの方は金子と印形とを御持參あれば當銀行は御預りの手續をなすべし

但幼年にて印形なき向は父兄又は後見人の御印形を持參なさるべし

一御預け金は拾錢以上なれば何程にても預るべし

一御預り金の經據として姓名金高を明細に記したる通帳を差上可申に付預け入の節は必ず持參なさるべし

一預け金引出の節は通帳と印形とを持參なさるべし當銀行は營業時間中は何時にても拂戻すべし

一御預り金の利子は年六分（即ち百圓に付一ケ年六圓）一ケ月五拾錢となる）ただし毎年五月及十一月の末日を區切りて計算し元金へ組入べし

但利子の割合を變更する時は新聞紙にて廣告すべし

一預け金は其月五日迄の分は當月分の利子を附し十五日迄は半月分十六日以後の分は翌月より利子を附すべし

一拂戻金は十五日以前は其月の利子を附せず十六日以後は半月分の利子を附すべし

一壹圓未滿の金高には利子を附せず又利子の計算は毛以下の端數は之を切捨つべし

一貯蓄奬勵の爲め滿三ケ年經へず預け入一度も引出さざる御預り金は翌年より特別の利子を附し滿五ケ年以上に及ぶ時は更に特別の利子を附すべし

一御預り金は一口拾錢以上の定めなれども預け主の御望により拾錢以下の金高は切符を以て預るべし其切符は壹錢五錢の二種とす

一通帳紛失又は水火盜難に罹りたる時は速に通知なさるべし當銀行にては相當の手續をなし更に通帳を御渡し申すべし

一印形の紛失又は故刻の場合は前同樣通知なさるべし當銀行にては相當の手續相濟まで預り金の拂戻を見合すべし

但住所姓名の變更も同じく通知なさるべし

御預け主より右等の通知なき時は他人に於て其通帳と印形とを以て預け金を引出す事あるも當銀行は其責を受けざるべし

御預け主は元帳の突合せ及利子記入のため毎年一月と七月に通帳を持參なさるべし

當銀行は預け主の御姓名又は金高等決して他に漏さざるに付御心置なく預け入れらるべし

當銀行の營業時間は午前九時より午後四時迄とし毎日曜及大祭祝日の外休業せざるべし

此心得書は當銀行の事務に從ひ更正する事あるべし

東京日本橋區横山町二丁目十一番地
株式會社
東西銀行

頭取　辻久米吉
役員　辻金五郎
長瀬宣郎
山口清七
三輪善兵衛
杉本長兵衛

無限責任

●新發明東京特許
内國勇
雲井織
東京博覽會受賞
一石政良産の子
御婦人用
（花兄紬手刺　伊達ゑり地　帶かけ帶揚　金入り　金なし）
織元　坂根兄弟商會
（京都）
製造一手（江州川邊郡）
販賣元（京都烏丸六角下）
外村新五郎
加納作之助

この雲井織と稱するは織店が多年の經驗と工夫の苦心とを積み新奇巧妙に發明製造せし前代未曾有の織物にして今其体裁を述べんに該品は從來に三浦紬の類なれど其品根を以て編めたるに非ず即ち一種の新發明に依て頗る町嘗に之を織成したるものなれば假令汚塵を或は汚れたる夫清水にて之を洗ふ時は再び元の美麗に立戻るのみなら原絲染料共に充分其精を撰びつくして幾度洗ふとも決して夫が地質を損じ又は伸縮變色等の憂ひは決して之なく殊に價格も廉にして經濟の邊にも適し且其色合流行季節向何れ御好み次第に之なり何卒一度御試用の上陸續御注文を希程伏願本舗

日本橋區橘町四丁目電話浅花四四八番

東京發賣元丸見屋善兵衛
特約大販賣天野源七
（日本橋區横山町二丁目）
特約大販賣喬本支店
（日本橋區横山町二丁目）
特約東京小間物問屋各店

温故知新

▲天保年間觸書の寫し（承前）

（天保十三年五月十一日）

諸色高直にては四民困窮の基に付今度十組上金を始め物価に不拘筋の上金銀共に冥加を以て用相勤候向々駈付人足等迄不殘免之上世話も有之候處諸色直段の儀日用の品に追々引下げ候趣に候得共品柄により一向直下げ等不致分も有之或る品を劣らせ悪目外目等を減じ如何の賣方致候ものも有之哉に相聞不埒の至に候右風聞の通相違も無之に於ては折角世話有之仁恵の趣意不行屆直下げの詮も無之候間銘々城下に安住いたし国恩を以て無異に家業を營候冥加の程を相辨へ質意に立戻り正路に渡世可致候萬一利徳に泥み心得違の者も有之候へゝ密々役人相廻し買上置き嚴重の咎申付るにて可有之候乍去元方直段引下げ方の悪合行屆家無據直下げ難相成譯柄も有之候へゝ元方掛合の書面を以て無滞酌早々月番の奉行所へ可訴出候左候へゝ遠吟味元方不埒の筋も相聞候へゝ嚴重に是又咎可申付候間一同時日を移さず夫々直下げ荷元等の悪合可致候

寅五月

右之通從町御奉行所被仰渡候條早々町中端々迄不洩樣可相觸候

但番屋之ゟ太筆に相認め可張出置候

寅五月十二日　町年寄

（同年同月十五日）

一湯錢の儀此節一人八文に引下げ有之候得共諸色直段御世話被爲在追々引下げ賣鈎り合に不相當に候間大人小人共一錢六文に引下させ可申旨今日南御書所御掛方萬伸渡候間湯錢一人六文の湯屋共表へ張出し置樣御組合限り早々行渡候樣取計可被成候以上

寅五月十五日　市中取締掛

月番

●近世奇跡考（抄錄）

●夢市郎兵衛明石志賀之助の事

市郎兵衛の頭氣の男達、志賀之助に大力の相撲取にて、ともに寛永中をさかりに經たる者なり、おなじ時仁王仁太夫といふ者あり、凡人ならぬ大力にて、其力はかり知りがたし、其頃京都の相撲に、志賀之助と仁太夫両人をめさる、志賀之助兼て市郎兵衛と友たるゆゑ、其相撲の後見をたのみ、連たちて京に上る、東の大關に仁王仁太夫、西の大關は明石志賀之助なり、已に其日にいたり、両人土俵のうちにすゝむ時、市郎兵衛志賀之助に對していはく、今日の後は一代の比れの勝負なり、もしまけなば、直に汝を殺し、我は腹きりて死ぬべし、よく〳〵心得べしといふ、さて行事團扇をとりければ、両人たちむかひ、しばし位を見合せて、やと一聲さけび、たがいに組てもみあふに、市郎兵衛のしばらくも、目をはなさずしてつけまゐる、時に仁太夫力やさしけん、志賀之助を引ひすび、つとさしわけてなぐると見ゆ、見物の諸人手にあせをにぎり、あはやとあふ處に、志賀之助早業の達人なれば、空中にてひるがへり、おちさまに仁太夫が胸を蹴て、土俵のまん中にうちたふす、これより志賀之助（日の下相撲開山と名告る事をもるさる、しかるに、仁太夫かたの悪輩等、これを意恨におもひ、志賀之助を打殺さんとはかるよし、市郎兵衛聞きつけて、志賀之助をかくしのびやかに江戸に下らせ、おのれの黒縮子の羽織の背に、風石（志賀之助）、金糸を以て大文字にぬはせたるを着し、無法者とまぎらかにさて、長き刀をくわんの木におび唯獨京都を發足す、仁太夫がだの者等、此あるさまを見て氣ふくれし、手をひなし（ひとしりなりとか、市郎兵衛老後頓死として播州田村の邊に隱遁しけるが、兄坂駒の四郎兵衛身まかりしと聞き、今の世におもひ殘す事なしとて、閑居にこもり居て食をたち、念佛のみ唱て死去けるとなん「古今俠客傳」に見たり（未完）

全世界無比

またのはだ

登錄商標 匂袋兼用玉の肌石鹸（國專代理貳錢切手七枚）

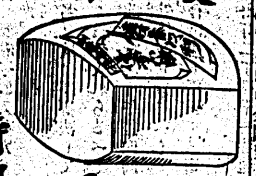
玉の肌は薫香都四方を拂ひ匂ひ袋の代用を爲す日常に必携の高等石鹸なり玉の肌はきめを滑にし色を白くし皮膚一切の病に宜しき衛生唯一の石鹸なり玉の肌は綿良の藥品を撰び精製したる者故毒水にて洗濯すれば美麗なる桐箱入一個金三十錢三個入金八十五錢郵券代用御送付次第御屆可申上候効能及詳報は本品に副書あり

○取次所は全國至る處の藥店和洋小間物及び荒物店等にて販賣せり

本舗 東京市芝區西久保巴町十番地 西洋小間物商 稲生商店

安齋 東京 永谷香 午金製 石鹸 造

優香



三日月

菊印

特約販賣東京小間物問屋各店

帝國唯一人躰垢落し廣告

第一はだをやわらかに色を白く

第二飽を出し眞のやまとはだに

第三そひかさる無類の垢落しなり

定價 小袋六十包入ぬの袋付金十五錢 同廿入紙包金五錢 販賣ご望ノ方ハ御見知次第割引法申進候

製造元 第一工場 尾崎氣樂堂

同第二工場 高木新助

發賣代理店 京都市松原通高倉西エ入 江川支店

關西特約店 大坂南久寶寺町三丁目 海津與兵衛

同 日本橋區馬喰町一丁目 小山由藏

日本橋區蠣殻町二丁目八 田中花王堂

同區蠣殻町二丁目 平尾贊平

同區十軒店角 大橋博愛堂

名古屋鉄砲町二丁目 森本善七

特約 京橋區銀座二丁目 丸見屋善兵衛

佐々木玄兵衛

其他販賣店 東京小間物卸商組合各店及（藥店）

●女中庸（承前）

作者不詳

若夫にすてられ果なび棹を絶たる船の如くよる方もなく浮岩ぬべし心を慎みて萬事につき私なく總て子を我子よりもいつくしみ夫の訓（を受従ふべきこと第一なり

一夫女に先心道ひよく〳〵夫に見もべき事第一なり、姿貌に生質なれば美も醜も力及ばず心と悪動に善もなり悪くもなるものなれば萬慎みて大事にかくべきあり縦ひ夫死しての後も貞心をやぶるべからず一夫に見へんことなるまじき事なり俗間の体を見るに女の夫に別るゝの時にさしあたり歎きの餘り髪をきり衣を染るのたぐひ多けれども日数やう〳〵つもりぬれば逝者に日々に疎く歎きも遠ざかり哀みも早晩しかに笑いて近づく悪縁にひかれて浮名を流し恥を顕はすこと必愛かるべし存生たるとき貞心竭すして死する何の怨みによりて志しを節るべきや縦ひ又存生たる時恨みあり し間なりとも我身の恥を知らざらひや此心を能思ひて身をあらぬ人に寄もるべからず

一新古今集不邪淫戒の意を讃る

さらぬだに重きがうへの小夜衣
我つまならぬ妻なかさねそ

男にでだにいろに恥るゝ現世後の世ともにいと罪おもき事なるに增て女の邪淫たらんに佛も疎みたまひ神も悪み果たまふべくなか〳〵云ふべき方なき仕形なるべし都て女の道は夫ならぬ夫を重んぜざる者あり、望んで見れば、いかにもおもしろき裂にて夫失ければ父母あれども又他夫に配せんと云ひけれ、いかで貞女の道を失はんとて親の言葉に従はでだに寡あり渡りける北家に年来来朝たる燕の一偶ありけるが雄失て雌だに孤眠雄にも偶はで飛あさけり桃玉景その雌に云やう浅き心ゆゑ雄に配偶ことなかれ自から食を啄て自らと同じ清き心にてあれかしと云ひ含め雌燕をもて其足につけて印として念頃に同ならしける

（まだある）

●話　鹿の子餅

作者不詳

◎桃太郎

ひかし〳〵の桃太郎は、鬼ヶ島へ渡り、もとで入ずに多くの寶を取て来たげな、これはと手みじかな仕事にあい、しかし犬と猿と雉子が供をしたとある、おれもきやつらをこまつかるがよいと、かの日本一のきび團子をこしらへ腰につけて行く、向ふの岩ばなに猿が出て居る、はづしてやったりとうれしく、件の團子ぶらつかせ行過るを、猿よびかけ、おまへなにてござる、おれかおれの鬼ヶ嶋へたからを取にゆく「腰につけたの何でござる「是の日本一のきびだんご、猿うかぬ顔にて「こいつうまくないやつだ

◎牛と馬

總たいけだものゝ中で、爪の割たものの道が早い、犀などゝいふやつ、爪が割て居るによつて波をはしると飛んだとつた「ハテナしかし馬の爪がわれでなければ道が早い、あれはどうしたものだ「あれの爪が割て居ぬから、まだ人が乗られる、あれが爪がわれて見やれ、不斷飛ぶやうで、中々人が乗られる物でない「牛もどうした物だ、あいつの爪がわれて居れば道がおそい「おれかあれの爪が割て居るから道をあるく、あいつが爪が割ぬと、だいなし動べこつちやない

◎煙草入

古代の袴にてたばこ入を数〳〵こしらへ、味噌をあげ者あり、望んで見れば、いかにもおもしろき裂にて夫失けれ、此錦にいかう結構なれさうにござります、これはいつ頃のきれでございます「それは貴殿様錦のひたゝれの裏さ「いかさまさうもさきにもさうは、又この蝶のちら〳〵見へます「それこそ曾我の五郎がはん切のきれでござる「して又〳〵に白地のきれに、赤い處の見へまする「そりや牛若の大口のきれ、その赤い處いがきの模様のきれ「扨よくあらためなされ、したと、してから「みんな大形屋で買つて来ました

（未完）

第四回内國勸業博覽會
有功賞牌受領
最良香油
八千代
精撰香油
めしの油

弊店製香油井煉油之廣く世上の好評を得品質の精良香氣の可愛販賣の夥しき既に諸君の御信認を辱する處也

益々勉强御愛顧の厚きに酬ひ奉んとす伏而御用の程奉冀候

東京市日本橋區
田所町十番地
井筒屋香油店

登録商標

●陸海軍御用●近頃非常に名高さはみがき
米國シカゴ府……グレード會社製
象印商標の彼の米國にて世界に其名轟ける齒科醫學博士「ウイルヘム」氏の方劑にして當時シカゴ府に於て非常の名聲を博し紳士貴婦人社會に賞愛せられたる良品なるを以て遥同弊店日本一手特約を結び洽く販賣す其の衛生上有効なる比辱くも左の諸大家の信認と証明により敢て喋々を要せず

シカゴ
はみがき
西洋象印
定價
三錢
六錢
十五錢

米國日本醫科學博士
ウイルヘム大學醫科學博士
試驗委員
東京芝地區
日本橋區
四番地
早稲田
博士
釜田廣信先生御信認
マクナルド先生御証明

一手販賣
日本
東京鋼
安藤井筒堂
井筒屋香油店
天水町
宮前

特約販賣店

東京
本郷三丁目
佐々木玄兵衛
横山
田中花王堂
佐野
小林
柳原
石川
常吉
通り
小兵衛
水谷
横山
宗次郎
佐野
宗兵衛
七
名古屋
馬喰町六丁目
國錦
末廣町
會津
松
甲府
二丁目
小田原
北
村
柏
内
星
阿
大
東
道
横町
新田
水谷
仁三郎
札幌
南一條西三丁目
京都
四條柳馬場
信州
松本町
福島
十丁目

鹿印煉齒磨

良質佳味ニシテ衛生上最効能アリ使用後精神ノ爽快ナルハ本品ノ特色ナリ

發賣元　東京馬喰町二丁目（電話浅花九一二二）
花王石鹸本舗　長瀬富郎

花王石鹸

花王石鹸ハ品質最モ優良ニシテ特ニ皮膚ノ美艶ヲ主ト且衛生上大ニ特効アルハ畏クモ

宮内省陸海軍
帝國醫科大學
御用

ヲ命セラレ或ハ博士大家ノ實驗證明ヲ與ヘラレ洽ク内外需用諸君ノ高評ヲ博シタルヲ以テ推知セラレンヿヲ希フ

●賣捌所ハ全國至ル處ニアリ

近來粗製品ニ類似ノ躰裁ヲ附シ販賣スル者有之ニ付本品ノ正圖則登錄商標及長瀬富郎名義ニ御注意ノ上御求被下度候

東京馬喰町弐丁目　電話浅花九二二
造發賣本舗　長瀬富郎

天下敵

婦人社會ニ信用ヲ博セリ

登錄
雪の艶
商標

定價
壹錢賣
壹錢賣
壹錢賣

元祖 おなじみ……あせらす……**本舗** 東京鎧橋 **德田多助**

容顔美麗香水 お中幽門 元祖あせらす 德田多助製造

●あせらすの御かた
●綿てあせもを直し
●御湯あがりのとき
●客扱の御婦人に必要
●諸げい御つとめの人
●匂袋の代用に最も妙

一個 三錢五厘

此あせらす……は正眞の麝香を最も高尚の匂ひある優美の御打粉なり

偽物御用心

德田のあせらす……にて御求願……賣捌全國到處小間物店賣藥店等に有り

◎体裁及能書等本品に摸倣したる類澤山有之候間御注意を乞

卸賣特約 小間物問屋賣藥問屋にて勉強販賣仕候

東京德田多助氏製造に係る元祖改良御打粉登錄商標あせしらすの義自今下店に於ても特約の上大に擴賣致候間全國御同業の各位樣多少に不限御注文奉希上候

大阪三久堂製造に係る一名天瓜粉あせしらすの義は本日限り製造及び一般發賣を廢止致候間此段廣告仕候也

明治三十年六月十日　大阪南久寅寺町三丁目　三久堂商店

懷別嬪印 中百日香水

定價十五錢の物全形六分の一圖

濃厚製大瓶 磨香製定 五拾錢
普通製小瓶 磨香製定 拾五錢
すみれ製 磨香製定 拾五錢
遠國は送料共小瓶にて郵券代用二十錢を要す

意匠登錄

此香水の容器は瓶に非す管に非す一種新案の硝子器にして三個の鈕を添あれば是を携裏懷中袂等適宜の場所へ携帶時は其上方針程の微細口より能壹百日之間美妙の香を發し風和に從ひ身体に馥郁として恰も仙境に遊ぶ思ひあらしめ如斯未曾有の新意匠品にして高尚優美衛生兼備共に完備の珍品なれば江湖の諸嬢士一度御賞驗あらん事を乞

此一瓶を携帶する時は一百日の間馥郁として身体に奇香を放つ

發賣元 東京濱山町二丁目化粧品問屋 **田中花王堂**

●卸賣成規一打以上（圖）十錢●十打以上三圓十五錢●三十打以上二圓十錢（御姓名いろは順）二當分の内五打に付紫色花看板二枚（廣告用引札千枚）宛の割を以て無代價差上仕候

●井筒堂●石田●博愛堂●富岡●大野●大木●尾篠●脇田●亀忠●柏善●岳善●大小●武井●玉蘆●莊國堂●都築●長瀬●村藤●丸善●真金●政木●江川●秋田屋●佐々木●三善●近源●汐見●平尾●森本●炭定●松谷●錦木●留吉

特約店

馬喰町一 平尾賛平
仝 三 長瀬富郎
通塩町 佐野小兵衛
麹町三 田部重兵衛
馬喰町三 篠崎又兵衛謹製
名古屋 都築辨吉 水谷商店

五二會全國品評會 内務省御用達 **キリン香水**

キリン香水ハ品質佳良ニシテ舶來香水ニ優ル 氷ノ如ク都タル芳香ヲ保ツヲ以テ專一トナセリ

ホツケツト瓶ハ懷中用トシテ特ニ便利ナリ

京都紀念博覽會ニ於テ**有功賞牌**ヲ受領ス

伏テ乞フ實際御試用ノ上御引立アランコトヲ

進歩賞牌受領

特約店 及本社合御取引各店へ御注文被成下度奉願上候

東京馬喰町二丁目二番地 **キリン香水**

最上等匂袋定價

百花園 磨香入製縮珍地桐箱一個入七十五錢
國の華 磨香入製縮緬地桐箱一個入五十錢
萬里香 磨香入製縮珍地桐箱一個入五十錢
君の薫 磨香入製縮珍地桐箱一個入拂錢
梅の風 特製磨珍地桐箱一個入廿錢
牡丹 特製縮緬地圓形丈長匂付桐箱一個入十五錢
江戸錦 特製縮緬地桐箱個入十錢

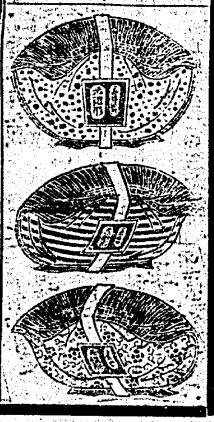
右何レモ小間物卸商組合ニ於テ販賣相願居候ヘハ便利ノ店ヘ御用向ノ程奉願上候

發行醒形之内

登錄商標 各番 小枝更紗 元祖 大和屋惣右衛門

夏季賞用 優美清涼 燈心特製

意匠風流 裏更紗粧 夏季適應



小間物問屋 東京市神田明神下 **大和屋惣右衛門**

東京横山町二丁目 **田中花王堂廣告**

雲南麝香入
式部石鹸
壹個美艶箱入　代金三十錢

麝香入
歌姫石鹸
壹個美艶箱入　代金廿五錢

麝香入
梅ケ枝
壹個代　金拾五錢

麝香入
花の露
壹個箱入　代金拾八錢

理化應用衛生化粧
大日本
壹個代　金拾貳錢

今回弊社ニテ製造ノ石鹸ハ品質善良高尚優美ニシテ其原料及ビ製造法ハ過ル十有餘年間鋭意研究ノ結果ヤ今回精製ヲ終ルニ至リシ者ナレバ當今各種ノ石鹸ニ比シ其優劣ノ如何ハ之ヲ使用シ給ヘバ直チニ明カナリ然ルニ世ノ特製ト稱スル所ノ品ニ云々ノ證明賞狀ヲ有スルモノ等ハ從來ノ例ニ倣ヒ上記ノ品ニ使用シ給ヘバ直チニ明カナリ

諸石鹸發賣元　東京麻布区町二丁目　平谷合資會社

平尾贊平夏期發賣品廣告

元祖

大日本帝國農商務省御免許

東京馬喰町壹丁目　小町水

岳陽堂平尾贊平製

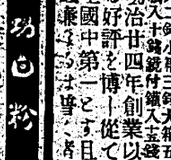
創設廿五年紀念博覽會有功銅牌拜受

第四回内國勸業博覽會出品
全國二等賞拜受
全國五等賞拜受

本品ハ明治廿四年創業以來内外各地ニ非常ナル好評ヲ博シ從テ販賣高之多キ事日本全國中第一トス且品質之純良ト價格之低廉ナルハ尊ク者官リ認ム處也

定價　袋入二錢　小箱三錢　大箱五錢　四形鏡付錫入八錢　十錢鏡付錫入五錢　高等名木箱入卅錢

貴功白粉



本品ハ世上販賣品ト異ナリ我國ニテ合劑セラル効驗藥品ヲ以テ製造シ身體ヲ害スル事ナク第一ひいのくれず●ふけ●たかむし●其外吹出物顔手足●あれ●ひび●ひび●ひび

◎地方制度の擴張

取捨の適當を缺かざるに力り目下の國情と見れば頗る多事多端にして內治の整理は頗る政の整理と相待て要するなれど今更言ふ迄もなく政府に於ても行政整理又は法令整理等に力ひる由なれども此は容易に行ふべからざる事なれば一段に至りては其完全に行政整理の實を擧げ日に至るまで遂に見ることを得ざるに內治の發達は國家の運命に關ひ一日も遲延に附すべからざるは勿論地方行政を刷新して國家の繁榮を一層するの止むを得ざる情況に於ても既に之を認め現に樺山內務大臣は過般の地方官會議に於て現今の地方制度は數年來の實驗に依り往々欠點あることを發見したるに依り早晩改正を加へんと欲す云々との演說を爲したり尙は引續き部長會議幷に目下開會中の典獄會議に於ても同樣地方制度の改良を謀るべき旨を陳べたるに依りて考へれば蓋し若干爲す處あらんとの意あることを知る可し唯心中に如何なる成算あるか苟も現制の缺點を改良し其實業は到底難政の所なりと所なるを以て差當り現制の改良に着手するよりして明年度の現算百餘萬圓は全く之より生ずる經費の增額に充つる目的なりと云ふ而して樺山大臣の意見に依れば制度の利否は運用の方法如何に依るを以て人物の適用は尤も緊要なりと云ふにあるよりして今回縣知事幷に郡長の職級制を廢して進級制となし又地方の警察署長にして指定地にある者のみを任官となし判任官の待遇十八圓五十錢平均なりとして一般に二十三圓許に進め本省に於ては手當の事務官を增員し其他官の俸給を多少增加するの事なるも尙ほ人材任用の手段にして一方には縣知事の權限を重くし責任を以て事務を處理するの餘裕を與へ警察官吏を養成して警察學校を興し獄制の改良を謀り以て天に警察官吏を養成し過般來議會の爲め上奏したる地方官制の改正案幷に其獄制の改良案を以て議會協力すべき旨を以て合したるよし既上の問題を以て樺山大臣は先づ以上の地方に更迭を行ひしが今や略ぼ適任者を得たりと認むるに依り今後

◎地方官の更迭

地方官として其地位に安んじ專ら行政の實を擧げ治績を奏するよし其果して功を奏するや否やは今後の實績に徵して知るべしと云ふ

●全國市町村會

同會は十月廿六日より三日間開會することに決したるに付近日各員會を開き幹事其他に關し協議の上停止へ建議する由なるが大會出席者は戶數一萬に付二名を出さしむる筈なりと

●大坂の減下稅

左なきだに大坂市に於ける市費經濟の年々增加するに殊に本年度より一倉入築港費も負擔せざる可からざる事となりしに付ても何か別に一新事業を興さざる可らずとて當局者に於ても種々考慮の結果差當り數年來問題となりて未だ施行するに能はざる減下稅を本年度より風聞する事となり目下上京中の野田屬は此事に付き內務省に稟請中なるが聞く所に依れば現在樹下坪數一圓五十錢位の賣稅を敢て過當にあらざる可もとの事なれど新稅の制には少くとも十五萬圓の減收を來すべしと云ふ

●米國發明家の大業

世界の大業を成すだけに一有形の經濟に關係し遂に遂へたるものは其實公債は當時總額一億九千八百五十五萬四千百三十八圓に上る左れども債務總額金七千八百二十五萬圓を有するを以て之を引去れば其實際負債額は僅に一億二千萬圓のみと云ふべし又現在に對して仕拂ふ利子は每年七百五十萬圓にして內二百五十萬圓は償還金に繰入れらるゝものとす而して市場の經費は一年五千萬圓にして何は維持改良を除くの外に年々千五百萬圓の增額を發行して之を補ふ然らば如何と云へば千八百九十四年には一億七十九仙、千八百九十五年には一億九十一仙の割合なりしが千八百九十六年には增して二億十四仙となれり之の外市場の外債は年々增加して二億五百三十八萬圓あり其內訳は內債二億三百三十八萬圓にして內債の內訳は內債二億三百三十八萬圓にして內債の內訳は內債二億三百三十八萬圓にして內債の

販賣品廣告

萬屋源藏

橋本町三丁目

學校用品及小兒玩具雜貨卸商　萬屋源藏

神田區橋本町三丁目四番地

注文御問

學校用品一式
和洋給筆類
和洋手帖類

各種帶揚類
各種石鹼類
新形糸瓜細工

文庫針箱類
流行教育手遊類
其他雜貨數品

品質ハ吟味シ價ハ最モ廉ニ勉强可仕候間多少共御用向ヲ希フ

特許　人造瑠璃珠

模掛師　緒ノ及魯玉之部

三分	甲號六十錢	乙號六錢	丙號七錢	丁號七十錢	戊號八錢
三分	甲號七錢	乙號七錢	丙號五錢	丁號三錢	戊號五錢
三分	甲號十二錢	乙號六十錢	丙號四十錢	丁號一圓廿錢	
四分	甲號一圓廿錢	乙號九十錢	丙號八十錢	丁號六十錢	
四分	甲號一圓七錢	乙號六十錢	丙號六十錢		
五分	甲號五十錢	乙號廿五錢	丙號十錢		
五分	甲號六十錢	乙號廿五錢	丙號十五錢		
半分	甲號七十錢	乙號廿五錢	丙號五錢		
半分	甲號一圓廿錢	乙號六十錢	丙號四十錢		
半分	甲號一圓廿錢	乙號六十錢	丙號四十錢		
半分	甲號一圓七錢	乙號六十錢	丙號四十錢		
半分	甲號一圓廿錢	乙號九十錢	丙號八十錢		
半分	甲號一圓廿錢	乙號十錢	丙號八十錢		
半分	甲號一圓七錢	乙號十錢	丙號七

●關税定率并に協定税則

（某經濟家の談話）

我國民が多年希望せる條約改正の事業は、一昨年來着々歩を進め其完成を見るに遂に非さる可し元來改正條約の實施期限は明治三十二年七月以後なれども税權の實施に就ては協定書に特例を設け全結盟國との改正條約成れば右の年限以前に於ても現行の關税則は無効に歸して更らに普通關税則を適用するを得るの定めなり抑も現行の關税則は慶應二年五月幕府が英佛米蘭の四國と締結せる改税約書の運上目錄に基けるものにして該約書は我税權は甚だしく束縛せられ課税の率は從價税五分以内に限られたるのみならず徴税其他の規定に於ても種々不偏の點あり我國の貿易が開國以來非常の增加を呈しながら關税收入の割合に增加せざるも結局關税の欠點多きに因るものなれば改正條約に於て税權を恢復したる以上は一日も速に完全なる普通關税則を制定して其實施を期せざる可らず通般政府が第十議會の協賛を經て發布したる關税定率法は則ち我國の普通税則にして今後協定税則と相俟て實施せらるべきものなり思ふに普通税則を制定せんとならば外國貿易の消長産業の盛衰内外需給の關係を精査して輸入税率に高低を設け收入の增加を謀ると同時に一國經濟の發達を期せざる可らず其至難の業たるや云ふ迄もなし今關税定率法の附屬税表を見るに輸入品を有税品免税品禁制品の三種に區別し有税品には五分乃至四割の從價税を課することゝし税率の等差を設くるに就ては原料品半製品には成る可く之を輕くし既製品には稍や重くし奢侈品には最高の税を課したり凡そ税關率を定むるに當て內國の産業を保護せんとせば輸入品と同種の物品が內國に産出するや否やに依て税率に增減取捨を加へ成る可く外國品の輸入を排斥するの必要あるを以て勢ひ輸入の數量を減じ畢に關税の收入を失ふのみならず結局貿易の利益を見る能はざるに至る可し惡の甚しきものと云はざる可らず關税定率法は內國産業の保護に重を置かんとして收入の增加を注眼とせざるの至當の策に出て今後若し

（朱之）

關税定率并に協定税則

（某經濟家の談話）

我國民が多年希望せる條約改正の事業は、一昨年來着々歩を進め其完成を見るに遂に非さる可し元來改正條約の實施期限は明治三十二年七月以後なれども税權の實施に就ては協定書に特例を設け全結盟國との改正條約成れば右の年限以前に於ても現行の關税則は無効に歸して更らに普通關税則を適用するを得るの定めなり抑も現行の關税則は慶應二年五月幕府が英佛米蘭の四國と締結せる改税約書の運上目錄に基けるものにして該約書は我税權は甚だしく束縛せられ課税の率は從價税五分以内に限られたるのみならず徴税其他の規定に於ても種々不偏の點あり我國の貿易が開國以來非常の增加を呈しながら關税收入の割合に增加せざるも結局關税の欠點多きに因るものなれば改正條約に於て税權を恢復したる以上は一日も速に完全なる普通關税則を制定して其實施を期せざる可らず通般政府が第十議會の協賛を經て發布したる關税定率法は則ち我國の普通税則にして今後協定税則と相俟て實施せらるべきものなり思ふに普通税則を制定せんとならば外國貿易の消長産業の盛衰內外需給の關係を精査して輸入税率に高低を設け收入の增加を謀ると同時に一國經濟の發達を期せざる可らず其至難の業たるや云ふ迄もなし今關税定率法の附屬税表を見るに輸入品を有税品免税品禁制品の三種に區別し有税品には五分乃至四割の從價税を課することゝし税率の等差を設くるに就ては原料品半製品には成る可く之を輕くし既製品には稍や重くし奢侈品には最高の税を課したり凡そ税關率を定むるに當て內國の産業を保護せんとせば輸入品と同種の物品が內國に産出するや否やに依て税率に增減取捨を加へざる可からず成る可く外國品の輸入を排斥するの必要あるを以て勢ひ輸入の數量を減じ畢に關税の收入を失ふのみならず結局貿易の利益を見る能はざるに至る可し惡の甚しきものと云はざる可らず關税定率法は內國産業の保護に重を置かんとして收入の增加を注眼とせざるの至當の策に出て今後若し

（朱之）

改印廣告

小生儀本月十六日於東京市實印紛失ニ付改印仕候就テハ同日以後ニ於テ當印ヲ使用ニ關係無之候右及廣告候也

伊勢國宇治山田町

明治三十年六月廿五日　中山後平

登錄商標

薬用おしろい下

千代田水

正眞麝香入

小瓶三錢五厘　中瓶五錢　十錢以上意匠出願錦瓶入り

此千代田水の佛國パリ府の令嬢貴公子が美人となりて世界にはこりたる化粧品の大王にして今いつれの國にても此一品を使用し美麗を競ふに至れり此特効いかばかりのわれはだ又〳〵色のおしろいも此千代田水を攪用すればいやに化粧めかず天質の如く色を白くしはだのうるはしくなるのみならず此の神劑なりあせもにきびはたけすべてはだをきれひに玉のごとくならしむ歐米各國の諸新聞にても知り賜ふへし依て此原法を應用し初て日本に一手製造の藥用おしろい下千代田水の非凡なるを弘く御用ひあらんことを祈る

同商標

千代田菊

麝香入特製

水おしろい

本品は千代田水の原法を應用せし新製に付御用の白く美麗となるは昨日の方が今日見迹へられしためし多しと歐州の化粧品新誌が唱傳せり希はくは此特製千代田菊を御用ひありて美麗を御餐ひあらんことを

東京深川西元町二番地　井高櫻心堂

本舗　回陽水本舗

特約

化粧品問屋　東京日本橋區通塩町

大和屋小兵衛

全錢町區麹町三丁目

田部重兵衛

紅赤鮭丸本舗

北海道小樽色內町

奥山清左衛門

化粧品問屋　東京浅草區田原町

大阪賣捌所

谷藤兵衛

謹告

各位益々御盛榮被爲在候條奉欣賀候隨テ我々司業者中合セ東京金屬石鹸入組合ヲ設立仕候ニ就テハ自今輸入品ニ改良ヲ加ヘ目下一般原料上銀價ノ折柄ニモ不拘專ラ品質ノ善良ヲ意匠ノ斬新ヲ價格ノ低廉ヲ旨トシ組合員一致協同百事ニ注意可仕候間不相變御引立之程伏テ奉希上候敬具

東京金屬石鹸入組合一同

定價
長入金二錢
小函入金三錢
大金五錢入
高壜入金五錢
高壜大入金十錢
瓶入金三錢

廣告

世界の親玉雪の友

衛生齒磨

砂石ノ粉末ヲ用ヒ以テ瞞着スル者ト異ナリ

世間有腦タルト雖モ世人ナリ

雪の友

オブテン氏

齒科專門醫今里先生

改良セラレタル善良ナル神氣ノ容解質ニシテ化學的能ク齒石ヲ除キ齒牙ヲ爽快ナラシム

齒磨ノ具實ニ方劑ニシテ齒色ヲ潔白ニシ口臭ヲ除ク

眞ニ衛生齒磨ノ名ニ背カス且ツ其價世間ニ比ヒ無比ナリ

又其廉價

世界親玉

雪の友

光澤ヲ顯ハシ眼ニ入ル所ノ塵埃ヲ中外ノ華客諸御試用アランコトヲ

製造本舗

東京銀座一丁目

箱崎千太郎

大阪賣捌所

谷藤兵衛

●勸業銀行條例　●勸業銀行は飯田延太郎代橋本長兵衛氏日本銀行頭に引移り開業の期は追て公告すべし

●東京商業會議所の建議二件　同會議所の議決に依り會頭渋澤栄一氏より去廿九日、大蔵、逓信、農商務の三大臣に提出したる建議書二件の左の如し

●株式會社に關する商法の規定中改正の建議　株式會社に關する商法の規定中改正を希望すべき點少からずと雖も中書社登記の期及當初拂込の株金額を改むるの今日の急務なるを信ずる故に本會議所は株式會社に關する商法の規定中左の趣意に依り改正を加へられんことを望む

一創業總會を開くべき事

一株金十分一の拂込を終るにあらざれば株券を發行するを得ざる事

一株金十分一の拂込前に於ける株式の譲渡は會社に對して無効たる事

前記の如く株式會社に關する商法の規定を改正する以上は私設鐵道株式會社に關する法律も本文の趣意に基き改正すべきは勿論なり

●商業會議所の合併に關する建議　商業會議所の合併に關し銀行合社法を除くの外は我國現行法律中特に規定せられたる法文なきを以て會社の合併せんと欲する者は必ずや商法規定に依り一風解散の手續を履行して後合併せざる可からず斯の如きは蓋し其手數の煩に堪へざるのみならず解散の一事は會社の名分上事業の進行上共に甚だ不利なる所たり故を以て眼前合併の利益を觀むるものも躊躇して之を決行せざるに由り今日の實況なりしを是實に國家經濟上の大恐と謂はざる可からず本會議所は既に數年前より明治廿九年九月廿四日を以て會社合併に關する法律を制定せられん事を閣下に建議せるも未だ同法の制定を見るに至らず然るに經濟社會の進歩を考察すれば同法の制定は一日も忽にす可からざるものあり既に銀行に對して合併法を設くるに必要あるとし興論之を是認し政府之を是認せられたる以上は一般商業社會に對しても亦合併法を設くるの必要あるは論を待たざる所にあらず本會議所の微衷を採納せられ速に商業社會合併法を制定して一國經濟機關の發達を謀らんことを

●伊國繁榮博覽會日本陳列場　博覽會場は公園内に在り日本陳列場は其入口奥富りの一段高き處にして場内上等の場所を占め英、獨、墨國米等の各國の陳列場は其前面右方に露、伊及び諸國、丁抹等各國の陳列場は其左方に在り我國列場は大抵を背にし最も眺望好き好位地なりと云ふ

●東京及び大坂市の電話　本年度内に架設すべき東京市内電話は明治廿七八年中に申込の分千五百名にて内八百名は浪花分局七百名は本局に於て架設することに決し若々工事に取掛りし由なるが右の千五百名分は總て複線とす筈にて尚ほ在來線二千二百五十本は複線に改造する筈なるを以て都合五千二百五十線を本年度に於て新に架せざる可らざる故に工事俄かに膨脹の表あり繁忙思ひ遣るべし前年の例に依れば工事は豫期より遅るるの常なるを以て本年度に於て充分竣功の設計を立て注文の發機に甚しく遲延せざる限りは來年三月中にも必ず架設し終るべしと云ふ又大坂市の電話八百名分も局舎の建築工事の捗樣次第にて迎くも來年四五月頃迄には竣功すべき見込なりと云ふ

●貿易視察　加奈陀政府に於ては日本、加奈陀間將來の貿易に關し調査を要するものありとて

アンダーソン氏を本邦に派遣する趣き在倫敦加奈陀第二等領事より報告あり加奈陀の如き未だ建設の域に達せざる國にして貿易の一事は會社の名分上事業の進行上共に甚だ不利なる所たり故を以て眼前合併の利益を觀むるものも躊躇して之を決行せざるに由り今日の實況なりしを是實に國

○貴嬢紳士必用の香料

真正人造麝香

雲南製麝香水

人造麝香水

人造麝香水

新形麝香水

新形麝香水

新形

（一）　明治卅年七月十五日　（第六拾四號）

遞信省認可　明治卅六年八月一日

東京小間物商報

廣告料　五號活字廿二字詰一行三回迄一回金拾錢　四回以上六回迄拾貳錢　七回以上拾錢

發行所　東京小間物卸商組合事務所

謹告

我東京小間物卸商組合各店は孰れも斯業に熱血を濺ぎ其體異なるも其心は一なり是を以て製品確實價格低廉殊に天下の流行に先ち又頗る意匠を凝せり今や全國到る處滊車滊船郵車の便あり輸送爲めに自由自在焉ゞ土地の遠近に因て利否を說んや冀くは全國同業者諸君益々氣脈を通じ交情を厚ふし以て相互の幸福を計り給はんことを

東京小間物卸商組合　一同敬白

雜說

●奉公人をして旅籠屋を廻らしむるの利害（承前）

骨皮道人

其東防を計畫しつゝある矣先へ金大僧小僧の撰擇て來ること日毎夜毎に多しと雖ども之れ故に是でい場ちゆと云ふ處から食を發表するに至る

たるの事實い即ち我が小間物商組合の店員有志數名が店員相談會なる迚ゝ開て以て彼の他組合の店員にして云ふに忍ぶべき横着と驕奢と同一觀せられさやう厳に一定の徽章を帶し眼に一定の帽を冠り彼の名刺を持參せよ提燈を携帶せよと云は先から自ら流中の逐たるを表示せし一事を以ても分かなりと夫れ然りとして彼の宿屋仲間が常に顔をしかめる處の店員い如何なる品行であるか又如何なる有機であるかと云ふに素より遡く問ふと云ふ問ふは云ふまでもなく既に旅客を欺騙して料理店に一杯を飲み或は北里南廓に一興を極め遊ぶ甚だ戯に至つては客の交際を名として已れ一人でテクノ出掛る事わり或ひい是等の荒國に於て殊に商品を忍ばせて特に現金の大安賣を爲せる者等のあるより旅客の坐敷なとして若し時計袋中物の他物品の紛失せし時の如きは先づ第一番に不品行者に嫌疑を當てるもの、如く左れば之を彼の中合會規則中に「旅客他出中の空室に出入すべからず」との一項を設けたるものと推測せらるゝ故に亦口惜からずやせ併しながら此等へ論外の事とも云ふ可き小僧なり大僧なり旅籠屋を廻ると云ふ事は既に主人又は公然これを命ぜし者にあらざるか故に主人番頭の指令を有するか故に又店に居て主人番頭の苦をしの顔と白眼ッ敲をする工合に比べて外出して番茶にはつき歩く方が氣樂なるが故に日か暮れ直ちに編編と共に飛出すなり而して此小僧が果じていつても正直に旅客を騙し其任務を全ふするかと云ふに强ち然らざるなれども時と場合即ち己れの旗手に依て此が寄宿に隨りてんで知られ或は番茶屋にパシ付て服下しの原料を仕入れるか爲めに行く

雜報

（禁轉載）

●硝子簪類

●天神さし、玉付、紋付、鳥、團扇、あさがは、其他各種流行物賣口よし

●角簪類

●細物白足、玉付、紋付、彫足、向ふ差物、すかし物、琴柱、祇園、撥葉足の類新形物の向よろし

●鋼足簪類

●螺貝玉、瑪瑙玉、花付、透し、菊、菱、其他彫足花物向ふさし新形物各種いづれも賣行あり

●鯱足簪類

●螺貝玉各種夏向物賣行あり

●モール根掛類

●菊、牡丹、茨、水玉、金魚、鯉瀧の類大流行、同藥玉物、房付、大、中、下、其他つまみ物及び生花の類いづれも房付もの相變らずの流行

●硝子玉根掛類

●水晶、淺黄、琥珀、肉、青、及びゴム粉物、上、中、下共向よし

●本ゴム根掛類

●白杢入最も向宜しけれども併し赤色其他の物も相變らず賣行あり

●針金根掛其他

●針金根がけ、金銀物各種いづれも賣行あり

●稚兒丸ぐけ、房付及び花付、東結び、繩ひすび、内記各花付、結び掛大房物、上、中、下新形流行

●紙製、吉原捻、小町結び、新四段、金銀角捻、金花山、霞さき等向よし

●繩引、及び木綿資、瀧川、葛引、上中下、相變らず賣口よし

●内記打、銀物、房付、房なし、上中下、種々新形、縮緬友禅、太、中、細、無地及び袖付など大流行

●絹丸ぐけ物、右同樣の流行なり

●水引物、有平、中捻、先ばち、中結び、千鳥、霞、其他無地いつれも夏向物賣口よし

●色元結、右同斷、

●洋銀一文字

●無地、彫付、形付、すかし、石入、桃目の類いづれも白あがり物向よし

●兩天類

●角袖付兩天、弁に彫付、ゴム兩天、各彫付物上中下、耳付二徳の類賣行あり、アルミ兩天、無地、彫付各種、上中下、ゴム張、白及び肉、桃色、無地、袖付、張子袖付、自由上中下、是亦相變らずの賣行なり

●象牙類

●政子、お初、髮櫛、いづれも上中等、撫ひ物及びはなれ物共賣口よし

●指環

●アルミ、洋銀、本銀、いづれも無地、彫付、石目、桃目、平目打、石入、眞珠玉入、上中下共賣行あり

●匂ひ物

●香水、麝香水、匂ひ袋、腕輪、人造麝香等、いづれも上中下共季節物とて中々賣行あり

●石鹸

●各店製造匂ひ入上等物相變らずの賣行あり尤も並物へ三四〇より七八〇位まで向よし

●楊枝

●角楊枝、上中、及び黒、水牛、舌さき付、上中等相變らずの賣行あり

●佐野善作氏の名譽　本組合員佐野善作氏の賢行は既に本紙に掲載せし通り氏は米國に優等を以て高等商業學校を卒業し米國に渡り同校の助教授と爲り尚ほ東京工業學校の講師をも兼ね托業務しつゝありしが今度文部省より商業學研究の爲め米國及び英國へ留學を命ぜられ本月五日横濱解纜の米國便船コプチック號にて米國に向け出發の由實に同氏の名譽と謂ふべし

●東西銀行　同行は既記の如く去八日日本橋倶樂部に於て通常總會を開き前季營業報告を爲し利益配當等を年七分に確決の後引續き臨時總會を開いて取締役及び監査役の滿期改撰を行ひしに滿場一致を以て何れも重任を決議せり

●厨燈一名即席焜爐　今度横山町二丁目脇田盛具堂にて製造發賣せる專賣特許の即席焜爐と云へるハ極輕便なる金屬製にて且つ上品なれば如何なる坐敷又は珍客の前に用ふるも決して卑しからぬのみならず旅行の際汽車滊船に携帶し或ひは花見遊山などに持行くも一寸カバンの中へ入るゝを得て而して湯を沸し物を煮るにも普通の五分の一しか掛らぬと云ふ實に經濟の新發明器なり

●ダイヤモンド工場　彼の有名なる平尾賛平氏製造販賣の齒磨ダイヤモンドの工場ハ從來同店の裏にありしが追々製額の增加するに連れて大いに狹隘を感ずるに至りしを以て孫て神田岩井町川岸へ更に宏大なる工場の新築中なりしが最早落成したれば近日全部を移轉すると同時に猶ほ職工をも增加して益々奮張を計ると云ふ

●又　同品の功能書ハ是まで日本文のみなりしが近來は歐米諸國及び支那地方よりも續〻注文あるに至りたれば今度更に英文漢文の二種をも新調したる由實に盛んなりと謂ふべし

●艶の水と艶の花　神田佐柄木町柳屋徹次郎氏の製造にて馬喰町加藤盛花堂の發賣に係るやの水（化粧下）つやの花（ねり白粉）の二種ハいづれも品質純良にして佳香兼に優れ其功能も亦迚も凡品の及ぶ所にあらずとて大いに需用者の喝采を博しつゝあるが殊に夏季に向つてハ平時に數倍するの注文ありと云ふ

●新世換券の印刷　本位貨の變更と共に公換券にも異動を來すべきハ當然なるが本邦の公換券ハ法律を以て一に日本銀行に一任したるに依り其樣樣變更の如きも同行の意思如何にあり唯本位貨の移動より今後の紙幣ハ金貨を以て引換ふる旨を記するの差あるのみ從つて日本銀行にては從來の模樣を襲踏し目下五圓新貨幣のみを印刷局に依頼して印刷せしめつゝある由

●新金貨鑄造　大阪造幣局にてハ去月初旬より新金貨の鑄造に着手し居り其種類は五圓十圓にて日々四十萬圓を鑄造する由其鑄造豫備金塊ハ目下六千萬餘圓なり

●絹物販路の擴張　本邦より輸出する絹物の多數ハ北米合衆國にして英獨佛等ハ至て少かりしに其最も多き米國は今度重税を課せらるゝことなりし爲め當業者は絹物の前途に就て大に憂慮し居る模樣なれど横濱居留地百九十八番館等に送りたる通信に依れば歐羅巴に於ける本邦の輕目物は直段の安き所より漸次販路擴ひ到る處歡迎せられつゝあり就中近來著しく注文あるは瑞西、露國、埃及等にして又南米ブラジル、智利等へハ佛國より再輸出を爲し前途頗る多望なりと云へり

●車數　其筋の調査によれば府下十五區八郡内に現在する人力車ハ一人乘三萬二千九百二十五輛二人乘六千四百六十三輛合計三萬九千三百八十八輛なりと

○謝辞

左に列記する諸氏ハ孰れも當時の實業界中に於て其名聲最も錚々たるの人々なるが其熟誠の篤き處又我商報の同業者を益する擧なからざるを賞賛せられ加ふるに印刷費補助として各金若干の寄贈を添ふせられし段幣社合一同及商報の面目之に過ぎず依て茲に貴名を列記して聊か其厚意を深謝す

（記名順序不同銀海恕）

北海道江差中歌町　杉江藤兵衛君
同小樽港永井町　東條喜太郎君
加州大聖寺本町　濱本宇平君
野州宇都宮　鈴木屋清迫君

本組合錄事

●新加入　左の諸氏は今回本組合へ加盟の旨屆出ありたり

日本橋區馬喰町三丁目二番地　西ノ宮悅太郎君
同　區通三丁目　安田宇三郎君
小石川區江戸川町十八番地　高橋靖之助君

●營業稅の新徵收　本年より實施せられたる營業稅法に依り政府の收入すべき豫算ハ五百八十七萬四千百六十八圓四十八錢七厘にして爾來民間の苦情斷えざりしが愈々同法に依る徵收ハ本月を以て第一回の徵收を實施せらるゝ事となれり其結果の如何は先づ以て大に注目すべき事なり

●臨時博覽會評議員會　美術工藝調査委員會は去九日開會前回の決議に基き買上品圖案調査及び美術工藝家指名注文等の件に付特別調査委員を互選することとなり左の諸氏當選して散會せり

陶磁器部　濱田眞、諸川愚助、松尾儀助
漆器蒔繪部　前田健次郎、松尾儀助、田原榮
牙木彫刻、象眼類の部　岡倉覺三、高村光雲、鹽田眞
刺繍織物部　前田健次郎、松尾儀助、山口務
西洋室內製飾品　豪本清、鹽田眞、高村光雲、松岡壽、岡倉覺三
日本室內製飾品　前田健次郎、福地復一、田原榮、松尾儀助

●商業會議所近畿部會　營業稅法改正の件に付大阪に於て開會したる同會の調査委員は各會議所提出の意見を左の如く取纏め去る六日午後總會に報告せり

第一
課稅標準を資上に採らんとする者
之を放棄に採らんとする者

第二
區別を非とする者
會社の課稅標準を利益に採らんとする者

第三
貸賃價格を廢せんとする者
之を存せんとする者

第四
從業者を除外とする者
同上を存せんとする者
調査委員を設けんといふ者
之に反對する者
稅率の輔導調査を担ふとする者
稅率に意見を定めざる者

高知、伏見、京都、大津、堺
神戸、大坂
高知、京都、堺
京都、伏見
京都、神戸、大坂、高知
伏見、堺
高知、伏見、神戸、大津、堺
大坂
京都
高知、神戸、大津、堺、大坂
伏見、徐件付、京都
高知、伏見、神戸、堺、京都
大坂
大津
高知、伏見、神戸、京都
高知、神戸、大津、堺、大坂
小賣と卸賣との區別を立
伏見、京都
高知、神戸、大津、堺、大坂
之を正別せんとする者

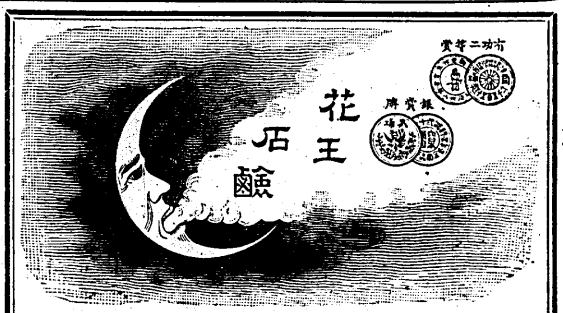
議員に意見ある者
さらんとする者
之を正別せんとする者

されど期の如く意見尚ほ區々分れ居ることゝて議論百出容易に纏らず更に同一の委員に附して再調査を遂しむる事に決し委員は翌七日午前より集合の上種々討議する處ありしが午後四時過に至るも決定せず遂に大體の方針のみを左の如く假決し來十五日迄に大阪商業會議所に於て此方針に基きて一案を起草し日々午前委員會を開き午後總會を開きて決議する事に決定し其儘散會したるよし

一物品販賣業は賣上金を以て標準とし其稅率は同金額の萬分の十五より五迄
一製造業印刷業、寫眞業は收入金を以て標準と爲す其稅率物品販賣業に同じ
一會社組織のもの及銀行保險の二業は各純益金を以て課稅標準となす其稅率ハ純益金の千分の十五
一物品貸付業は收入高の千分の十
一金錢貸付業は貸付金額の千分の一
一運送、倉庫、運河、船渠、橋、船舶碇繫業は收入金額千分の五
一土木勞力受負業ハ受負金額千分の二
一席貸業は收入金額千分の二十
一料理店は收入金額千分の十五
一旅人宿は收入金額千分の十
一周旋業、代辨、仲立人、仲買業は報償金額の百分の一
一建物賃貸價格及從業の課稅は一切廢止

●磐城平町の人口に就て　過般來當紙上へ連載せし平尾氏近縣旅行日記中磐城平町の人口相違の旨同地の某氏より照會ありし趣きを以て平尾氏ハ左の回答書を寄せられたり

（前略）先般貴紙上へ御連載相成候小生の近縣旅行日記中磐城平町の人口を七千五六百と記載致候處今般平町商人と云へる御名前を以て同地の人口ハ二萬餘の由御申越相成候得共右は明治廿九年七月の官報號外內務省告示第五十八號明治二十八年十二月三十一日市町村現住人口調にて磐城平町人口七千四百三十七と有之候に基き即ち七千五六百との大休を記載致候儀に有之乍併若し每戶に就て詳細に取調べ候得ば或ハ昨年一月以來一萬三千有餘の增加に相成居候哉も難計候云々

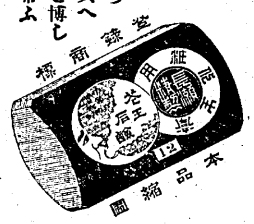


花王石鹼

花王石鹼ハ品質最も精良にして特に皮膚の美艶をまし且衞生上大に特効あるハ畏くも
宮內省陸海軍
帝國醫科大學○
其他各病院の御用を命せられ或ハ博士大家の實驗證明を與へられ洽く內外需用諸君の高評を博したるを以て推知せられんとを希ふ

●賣捌所ハ全國至る處にあり

近來粗製品に類似の狀裁を附し販賣する者有之に付本品の正圖則登錄商標及長瀨富郎名義に御注意の上御求被下度候



東京馬喰町弐丁目　電話浅花九二二
製造發賣本舗　長瀨富郎

海外電信モ便利ニナリ又茲ニ始メテ到着ノ
ホンチヤウチン……十萬億士ノ……電信ヲ……御覽クダサイ
印石蠟ハ美麗デ清淨デ光リガヨクテ經濟ニ德用テ、シゴクヨロシイ、ミナサン、ヲツカイナサイ、佛モ我、否、鬼モ……コロコヒヤス
デンワナニワ九百二十二番……十挺ウエハ市內ニ限リスグトヾケマス
東京馬喰町二丁目花王石鹼本舗長瀨富郎製造ノ

美人社會に高評博したる化粧品大王

西洋各國にて大流行の實に奇妙なる「無毒せる御獨化粧」別嬪おしろい一名透明水白粉

定價　大瓶二十錢　中瓶十四錢　小瓶七錢
別製　五十錢　三十錢

◎此別嬪おしろいハ一目見れば只の清水の如くなれども不思議にいろを白くする事雪の如く玉の如し行水湯あがりかゝみを用ひずして其場ですぐに用ふるとも決してむらにならず○あせボ○ふきでも物は立所にさるがゆゑにこれを用ひ玉はゞ人一倍の光彩を放つ

化粧品小間物齒磨問屋
東京市日本橋區橫山町三丁目一番地
白光散本店
特約代理店
東京日本橋區橫山町一　天野源七
同馬喰町一丁目　平尾賛平
同馬喰町四丁目　丸見屋善兵衛
同橋通鹽町　山田武三郎
同馬喰町三丁目　龍翁
同神田區鍛冶町　大木口哲合名會社
全國至る所の小間物店及び藥店に販賣所あり

●伊太利國美術博覽會

ニス領事より其筋に達したる報告は左の如し

伊太利ヴェニスに於る萬國美術博覽會は四月廿八日を以て開會式を擧行し當日は皇太子殿下、同妃殿下の行啓及び文部大臣の臨場等ありて盛況を極たりき、夥多出品國の中伊太利、佛蘭西、白耳義、英吉利、瑞典、獨乙、デンマーク、露西亞、亞米利加、日本の各國は最も有名なる美術考證品を出陳したるものにて同博覽會へ之が賞金に充る爲最に四萬フランを要意したり而して日本の出品區は殊に好評を博し文部大臣の開會式演說中にも日本美術品に對して甚だ稱賛の辭あるを見る其要領に曰く

本會に出品せる各國美術品の意匠を十分に理解せんには各國民の文學を熟知し彫刻繪畫の表面に發動せる彼等が內部の感情を通曉せざる可らず（中略）日本人がダンテの詩を讀も其腦裏に十四世紀の歷史なければ（伊太利のフロレンスを云ふ）其妙味を解すべからざるが如く今日の歐洲人も亦豫て東洋人種の心髓を研究したる後に非れば日本繪畫の妙味を解する事を得ざるべし然すんば彼天地萬物人世の活動を寫たる北齋の狂畫の眞味を解する能ざるべし自ら老狂と呼たる此天眞翁は樹木、山川、動物、美術の微妙を求め自ら思らく繪畫は活氣なかる可らずと翁は年既に老て尙宇宙無限の萬物即ち幾何學の諸線に至る迄も之に生命を與る無形の神力を發見せんとするの知心を抱きたり北齋の畫は物の形、色最も明確にして驚くに堪たり是北齋が世界最大家の畫人中に列せらるゝ所以なり然れども彼れ少年の時より濃腔の精神を擧て之を目に注め即ち目を先にし想像を後にしたるが故に彼の畫に就てミケルアンジュ又ハレチナンドの如き深遠高尙なる感動を求んとするも得べからず要するに北齋の畫へ常に無意の裏に成こと恰も草木の花を開き禽鳥の鳴吟するが如きものなり

●世界博覽會と美術育英會

佛國に於ける來三十三年の世界博覽會にハ大奮發を以て美術品の見事なる品々を出さゞるべからず上下一般の計畫なるが既に美術育英會の如きハ會員の奮起をして數百圓宛を

●伊太利國美術博覽會の模樣に關し在ヴェニス領事より其筋に達したる報告は左の如し

伊太利ヴェニスに於る萬國美術博覽會は四月廿八日を以て開會式を擧行し當日は皇太子殿下、同妃殿下の行啓及び文部大臣の臨場等ありて盛況を極たりき、夥多出品國の中伊太利、佛蘭西、白耳義、英吉利、瑞典、獨乙、デンマーク、露西亞、亞米利加、日本の各國は最も有名なる美術考證品を出陳したるものにて同博覽會へ之が賞金に充る爲最に四萬フランを要意したり而して日本の出品區は殊に好評を博し文部大臣の開會式演說中にも日本美術品に對して甚だ稱賛の辭あるを見る其要領に曰く

本會に出品せる各國美術品の意匠を十分に理解せんには各國民の文學を熟知し彫刻繪畫の表面に發動せる彼等が內部の感情を通曉せざる可らず（中略）日本人がダンテの詩を讀も其腦裏に十四世紀の歷史なければ（伊太利のフロレンスを云ふ）其妙味を解すべからざるが如く今日の歐洲人も亦豫て東洋人種の心髓を研究したる後に非れば日本繪畫の妙味を解する事を得ざるべし然すんば彼天地萬物人世の活動を寫たる北齋の狂畫の眞味を解する能ざるべし自ら老狂と呼たる此天眞翁は樹木、山川、動物、美術の微妙を求め自ら思らく繪畫は活氣なかる可らずと翁は年既に老て尙宇宙無限の萬物即ち幾何學の諸線に至る迄も之に生命を與る無形の神力を發見せんとするの知心を抱きたり北齋の畫は物の形、色最も明確にして驚くに堪たり是北齋が世界最大家の畫人中に列せらるゝ所以なり然れども彼れ少年の時より濃腔の精神を擧て之を目に注め即ち目を先にし想像を後にしたるが故に彼の畫に就てミケルアンジュ又ハレチナンドの如き深遠高尙なる感動を求んとするも得べからず要するに北齋の畫へ常に無意の裏に成こと恰も草木の花を開き禽鳥の鳴吟するが如きものなり

●世界博覽會と美術育英會

佛國に於ける來三十三年の世界博覽會にハ大奮發を以て美術品の見事なる品々を出さゞるべからず上下一般の計畫なるが既に美術育英會の如きハ會員の奮起をして數百圓宛を寄附せしめ即ち之を株金として積金となし此金圓を美術家に貸與して種々の品を製作せしめ若し出品の上其品の賞殘りたる節は相當の評價を以て寄附者の寄附金高に應じて之を分配する法を定め寄附募集に着手する事となり既に其趣意書、規則書等も出來せし由而して恰も好し大隈農相へ該博覽會の爲め府下幷に橫濱の有力者を集めて大に勸誘する所あり是等の人々中にハ美術育英會の會員も多く旁々茲に一致團結して先づ東京、橫濱に於て金十萬圓、名古屋及び關西地方、北越地方等にて十萬圓都合三十萬圓の資金を募集する事に內決し近々之を發表する筈なりと云ふ

●農工銀行資本額の注意

此頃へ各府縣知事が地方官會議を終へ夫々其任地に歸着したる頃なれば漸次農工銀行設立に着手するならんが既に鳥取縣の如きハ其設立委員の認可を大藏大臣に申請したりと聞く只此際特に各地方の爲に注意を要する點へ該銀行資本額の決定なり銀行が濫に政府交付金を成べく多く獲んとして必要もなきに資本額を巨大にせんとすれば法律に特許したる農工債券發行の利益を減ずるものなり今一例を示さんに茲に三十萬圓の交付割當を受べき地方に於て農工銀行資本を百萬圓とやれば素より上記交付金全額を請求し得べき筈なれども其地農工業者が實際に需要する資金へ三百萬圓位に過ざるとき資本の五倍即ち五百萬圓の債券中三百萬圓の債券發行權へ無駄となるべし此場合にハ二十萬圓の交付金を受て資本へ六十萬圓に止め之に對して三百萬圓以內の債券を發行すれば資金運轉に不便を感せず債券發行上にも損失なきを得べし此等へ其營業區域を一地方に限られ居る結果止むを得ざる所なれば能く注意すべきことなりと云へり

●臺灣樟腦の暴騰

臺灣總督府が曩に樟腦取締規則を厲行し數多の密製造人の釜を破壞したるを以て忽ち香港市場に騷擾し本年の產額若し減少すべきを見込み俄然百斤に付五六弗方暴騰し四十六七弗の珍直を顯はし隨つて臺灣相場も三十二三弗に引上げたりとゝ

元祖……あせらず……本舗　東京鎧橋　德田多助

一個　金三錢五厘

●あせせうの御かた
●總てあせもを直し
●御湯あがりのとき
●客扱の御婦人に必要
●諸げい御つとめの人
●匂袋の代用に最も妙

此あせらず……は正眞の麝香と最も高尙の匂ひある優美の御打粉なり

偽物御用心

德田のあせしらずと申て御求願……賣捌全國到處小間物店貸藥店等に有り

○体裁及能書等本品に摸僞したる類澤山有之候間御注意を乞

卸賣特約へ小間物問屋賣藥問屋にて勉強販賣仕候

東京德田多助氏製造に係る元祖改良御打粉登錄商標あせしらずの義自今下店に於ても特約の上大に擴賣致候間全國御同業の各位樣多少に不限御注文奉希上候

大阪三久堂製造に係る一名天瓜粉あせしらずの義は本日限り製造及び一般發賣を廢止致候間此段廣告仕候也

明治三十年六月十日

大阪南久寶寺町三丁目　三久堂商店

世界一麝香入石鹼

（定價一個金卅五錢）

此世界一麝香入石鹼ハ其ノ名ニ背カズ多量ノ麝香ヲ以テ精製シタルモノナレバ一度使用スルトキハ其香氣馥郁トシテ使用後衣服ニ滿イ匂袋ノ代用トナリ且香水ヲ使用スルノ要ナシ

發賣元　東京　小林富次郎　電話浅花四九八番

特約販賣店

村花王堂藤近源
平谷尾岡崎屋
脇谷木谷杉山一
佐木田政友鶴谷
大和堂
大中小
田平孝
中木
定

◉莫大小製造卸賣廣告◉

小間物屋さん仲間へは特別に働て賣升

肌著　靴下　各種　めりやす　手袋　品々

東京　鈴木製

東京市日本橋區横山町三丁目八番地
莫大小製造卸問屋　鈴木卯兵衛

純良精製
花の君
御おしろい

東京橋町四丁目小間物問屋
善　丸見屋善兵衛
善　歯磨粉　花の君
商標の添附は本舗製造の正品

大箱　濃。淡。化粧粉製　小箱入　一包十個入　一個金六錢五厘
改良包　一個入　一包十個入　一個金三錢五厘
同桐箱　一包入　一個金五錢五厘
改正紙包　桐箱　廿包入　一個金四錢五厘
同紙包　箱　十包入　一個金五錢五厘
別器　同　一個入　一個金三十錢
大瓶　同　一箱十二入　一個金二十錢
中瓶　一箱十五入　一個金五錢
小瓶　一箱十五入　一個金四錢
◎水おしろい　正味五合入。三合入。二合入。各種
別器入　一箱十本入　一個金八錢
大瓶入　一箱十本入　一個金四錢

商標　善

小間物問屋
丸見屋善兵衛
日本區橋町四丁目
電話浪花四四八番

○婦人小間物。高等蒔繪彫刻。
○櫛。笄。簪。根掛類。新形流行品各種。
○逍歩賞翫讀（モロー）板生地。
○有筒生地及び製品各種。
名化粧細管生品類特約保證販賣

本品の特色

普通品に比し價格低廉にして量多し
光澤艶麗にして而かも永くはげず
太つけるもつきにくわるられひなし

製造元　遠陽山名町
東京日本橋區橋町四丁目小間物問屋
本舗　善　丸見屋善兵衛
電話浪花四四八番

○貴嬢紳士必需の香料廣告

人造麝香
高級　ムスク　ジンロル

○大瓶價六拾五錢　○小瓶價三拾五錢　○其他香具原料に用ゆる七匁五分入及び壹匁入あり

新製品の人造麝香は佛國製造元より特約輸入し他に比類なき純良品にして高尚優美の芳香を放ち方今世界天下に高評を博したり常に此人造麝香を携帯せられば總ての惡臭を防き他人に對し身の省慎となり惡疫の感染を豫防し衛生的夏季最も必用の佳品なり近來處々に之似の贋製品あり御求の際は登録商標および東京日本橋區伊勢町十七番地染谷問屋の名義に確と御注意あれ

特約發賣元　星野與兵衛
電話本局九百三十九番

東京市内特別大販賣所

京橋區銀座三丁目　松澤八右衛門
牛込區築土八幡前　尾澤良助
神田區鍛冶町大通　大木合名會社
日本橋區本町三丁目　圓城半右衛門
同區元大阪町　高木與兵衛
下谷區池の端仲町　守田治兵衛
日本橋區馬喰町　平尾賛平
京橋區銀座一丁目　佐々木玄兵衛
日本橋區通一丁目　中田支店
同區本町二丁目　杉村鎌次郎

市内は勿論全國各地の藥店又は小間物店にて賣捌候○取次賣捌望の方は御申込あれ

麝香水　麝香精　麝香散

大中小各種

麝香散　麝香水　麝香精

特約店　東京小間物問屋各店

◉麝香の獣は寒南の産を上等とす　此三品は豊南麝香を以て製したる品へ芳香長く保とと確實也

亦片にしめし簪等の中に入れおけば又衣類に振りかけてしみになるとなし

●本年は二層冷味精製仕候間不相變御愛顧を請ふ
●取次御望の方は各地小間物問屋又は左の特約店へ御注文被下候へば本舗同樣相働き申候

衣類に好匂ひうつる

麝香水　白粉問屋　東京市神田區佐柄木町　山本逸造鑑製

麝香水之元祖

登録商標

さくら石鹸

定價　櫻石鹸　蜂蜜石鹸　一個十錢郵税二錢
一個十五錢郵税同

○肌を濃にし色を白くし皮膚の荒を防ぎ艶を出しにきびはたけしもやけあせも水むしできものの其他皮膚病一切に大功あり注意近來類似の麗品を販賣する者有之い間商標を名篤と改め上洛求被下度候

東京市芝區金杉川口町廿二番地
麝香入里設林石鹸製造
數虫防疫洗濯石鹸　本舗　鈴木保五郎

蜂蜜石鹸

醫學士稲生悌先生新方

越　菅谷爲吉
東京市日本橋區通鹽町四番地

卷莨用パイプ
薄荷パイプ材
ライスペーパ
各種製造元
舶來パイプ問屋

○蓬山霞（第二十回）

一嶺子稿

跡見送りて仲業ハ穩なき彼奴のうろたへ樣よと口の内に咬やきながら拔き持つ太刀を逆に枕つき今し也首をうな垂れて觀念の眼を閉ぢ居たる綾衣の傍へ進み寄り　仲「綾衣どの〳〵右京で御坐る仲業で御坐ると聲をひそめて呼びたるを夢心地に聞く綾衣ハ右京といひ仲業といひ世を代ふるとも忘れがたきいとし可愛の人の名を二聲まで耳に入りしかハ不審の念ハ晴れやらず靜かに閉ぢたる眼を開き聲せし方を見上ぐれば思ひきや右京之進さいと甲斐〳〵しき扮裝をなし己が傍へよイずめるより夢かとばかり打喜こび「ヤア貴方ハ右京之進さまと思ハず知らず口に出すを仲業ハ手もて押どゞめ一層聲を低ふして　仲「何はしかれ綾衣どの先以て御身に恙なく重疊至極に存じ申す拙者是へまゐつたは和田殿畠山殿仁田殿等の御内意に依り御身を救ひ出さう爲密かに忍ひ參つたもの今の源太めに見當らば事面倒に相成るゆゑ此間に早くお支度なされて大江殿邸まで御一緒にお出なされと聞くより綾衣ハいとゞ嬉しく其身ハ荒繩ゑ縛しめられて起つ事ならぬを打忘れ起上らんとして夕ず〳〵〳〵思はす所居に堂となるを　仲「まづお待ちなされと手に持てる太刀を床の上に突さして手早く繩を解き捨てつ手を取つて引起せしかと前の夜から此夜まで白粥一滴口にせず身体は緊く縛られて疊は終日夜は終夜唯泣き暮せしのみなれバ氣力顏る弱り果て足さへ頓には運ばれず僅かに仲業の手に凭れて二三歩あゆみ出たる樣ハ不便とも痛いしとも譬ふべき樣なかりける仲業ハつく〳〵見て　仲「氣合でも惡ふ御坐るかな　綾「イエ何どの御坐りませぬ唯氣に掛るは父上の御身　仲「イヤ夫ならバお案じなさるな御父上結城殿にハ那の夜さり梶原が雜兵を對手に暫し戰かひ[illegible]れたれど對手ハ名もなき端武者なれバ傷一ツ負ひ給はず恙なく大江殿邸に

おいてお身の行くを待つて御坐る唯不便なハ敷妙と田鶴、敷妙ハ肩口に痛手を負ひて今ハ鶯谷に手當中、田鶴は例の三平太めに裏庭に於て斫倒され敢なき最期を遂げたるが其敵の三平太めは其場を去らせず引括り今大江殿の調べ濟んで明日は河原に刑罰さるゝ筈其外申度き事數々あれど今の源太の郎黨めが取廻り蚤さへ暗き下闇を手探りつゝ忍び出で以前見て返さば一大事早く〳〵と急し立て有合ふ短桒を綾衣ハ小脇に抱へ今ぞヒラリと身を躍らし塗塀の上へ飛移らんとせし時生憎に厩の馬邸の騷ぎに眼さましけむ聲高らかに嘶なきしかど搦手を固めたる數十名の朗黨どもスワ曲者は厩の裏ぞと一斉り綾衣を背に負ひて能と元來し所は遥らず鬱蒼の木立の影を彼方此方へ翻ひ〳〵て小高き崖に蹲踞される松の木影に身を忍ばし邸の中を見廻せば内は上を下の騷ぎと見え篝火幾明煌き照し身を隠ひし數多の武士右に左に走りまどひ曲者を覓むる樣子なれば見咎められとと仲業は崖の裏手の方へ斯くとは知らぬ源太景季は唯曲者の入りしとのみ綾衣は奪ひ取らるゝとは驚だも思ひ設けざりしが曲者の所在知れぬにつけ綾衣の上心元なく獨り對の屋へ取て返せバコハ如何に今までありし綾衣は何れへ行きしか影も留めず傍へにありし短桒さへ横さまに倒れて消え居しかば是はと計り仰天し四方キヨロ〳〵見廻す所へ又もや一人走り來り「唯今裏手の樹場に於て曲者を取圍み斫結んで居りまする早々お越下されいといふに源太は又もや周章ふためき一散に裏手に走り行き暗にきらめく刀の光り兵士の呼ぶ方を見遣り　曲者は綾衣を盜みし賊を必らず右京ゆに相違あるまい綾衣に傷付けず右京之進めを搦め取れ者ども脱落な〳〵と聲潤るまで呼はつたり

時にとつと寄せ來りぬ

＊　＊　＊　＊　＊　＊

●各國の人口と生産力

統計家最近の調査ゑ係る最近各國人口と其農工商上の生産者及び農工用蒸氣機關の生産力との割合を推算したるものを聞に左の如し但女子は生産者中ゑり悪く之を除く

國名	每一人の爲め働くべき生産力	一生産力を以て養ふべき人口
英國	四、五	〇、二二
合衆國	三、四	〇、二九
獨逸	二、三	〇、四二
佛國	一、九	〇、五二
澳地利	一、一	〇、九一
匈牙利		
日本	〇、二	四、三〇

見るべし海外各國に於ては其國民一人の爲め働くべき生産力多きは四人半少きは一人以上なるに我國は僅に二分即ち每五人に付唯一人の生産力を有するのみ畢竟我國は不生産者多く加之外國の蒸氣機關甚だ多きに反して一に人力に依賴するの多きに由りてなり若し彼等の應用する風力水力電氣諸機關を加へなバ彼我の差一層甚しきものあるべし我實業家と稱し紳士と稱するの士願て將來ハ充分學理を應用し正則に機關力を使用するにあらざれば我國富は決して諸外國と同調の進歩を望む可からざるなりと或實業者は語る

●關税定率并に協定税則（承前）

現に米國にて保護貿易策を施し税率を増加する時には必ず從價税を從量税に改め以て詐欺を豫防するを見ても從價税の下に詐欺の行はるゝを證するに餘ある可し左れば歐米諸國にても從來の經驗に鑑みて大概從量税を課するの方針なりと云ふ則ち從量税は微税を簡便にするの利あれども元來物品の數量を標準として課するのなれば價に種々の差等ある物品に課すれば勢ひ負擔の不公平を免かるゝ能はざれども之を避るには自から方法あり即ち從量税に多少從價税の主義を適用し物品の種類性質に從て種々の階級に分ち税率に等差を設るにあり又輸入品の價は爲換相場の變動と共に常に高下するを以て始め一定の從價税率に基き算定したる從量税も物價變動の爲に之と符合せざるに至る可し現に現行の税則に定めたる從量税の如き慶應二年改税約書締結の當時には從價税五分に應じて算定したるものなれども其後輸入品の價は常に變動したるに拘らず一回も改算を爲さゞりしを以て實際從價税五分以下に當るもの多く之が爲に關税の收入に非常の減額を來たるは明白の事實なり政府も斯る不都合を避んとの意なるや日英追加條約に於て該條約に定めたる從量税は三年毎に改算す可き旨を規定したり要するに從量税の改算は當初算定の基礎とせる從價税と符合せしめんが爲に必要なれば今後定率法の從價税を從量税に換算するに就ても必ず日英追加條約に於ると同樣の規定を設て從量税の改算を豫定するの必要ある可し又定率法か課税の價格を定めて物品の仕入地產出地若くは製造地に於る原價に運賃運送費保險料其他輸入港に到着する迄の諸費を加たるものと爲たるは我關税則に於る一進歩にして現行税則にて物品の仕入地製造地產出地に於る原價のみに課税するものに比すれば關税の收入に二割内外の增額を見る可しと云ふ

左れば我國の普通關税定率法は現行の無主義の税則に比すれば非常の進歩を示せるものにして我輩が論述したる方針に基き今後改良を加へたらんには完全のものと爲すも敢て難に非る可けれども爰に注意す可き數右關税定率法の適用が日英日獨兩改正條約の協定税則に依て制限せらるゝの一點なり日英條約には三十八種日獨條約には五十九種の物品の税率を協定し定率法の税率に比すれば遙に低率の税を課する事とせり而して是等の協定税則は唯に英獨兩國のみならず最惠國條款を有する全締盟國の輸入品にも適用せらるゝものにして之が爲に定率法は其適用を妨らるゝなり政府が協定税則を採たるゝ敢て難ず可きに非ず普通關税則の主義を破ざる限は條約締結の便宜上協定税則を採るは米佛兩國の如き極端の保護主義を施す國を除き歐洲諸國中屢々見る所にして實際便利の場合も少からざる可けれども日英日獨兩改正條約の協定税則に就て我輩の最も遺憾とするゝ我税權に對してゝ種々の制限ありながら英獨兩國の税權に就てゝ何等の制限を置ず兩國は我國より輸入品に對して如何なる重税をも課する自由を得るの一點なり我國は從來税權に就て非常の束縛を被れるを以て一旦税權の自由を得れば大に税率を引上るやの掛念もありたれども英國の如き自由貿易の國が我國に税率の協定を求たるも當然の事なる可し而して我國が英國の税權に制限を加ざりしは條約改正の談判上已を得ざるに出たるものなる可けれども英國は多年自由貿易策を施し假令今日一部の政治家學者の間には帝國聯盟（英國と殖民地との間に同盟を組織し同盟間には貿易を自由にするも外國に對しては保護貿易を施さんとするの制）の必要を唱るものなれども英國が斯る大業を全ふするゝ到底短日月の内に期す可き所に非ず英國が今日の如き收入主義の關税を課する以上ゝ我輸出品中課税せらるゝは煙草茶等に過ぎざれば英國の税權に制限を加るも加ざるも我國には別段利害の關係なしとして大に安心するを得べけれども獨逸は全く英國と其國情を異にし多年保護貿易策を施す國なれば今後如何なる重税を我國の物品に課するやも知る可らず斯る國の税權に制限を付ざりしゝ條約改正の談判上已むを得ざりしや否やは別問題として我國貿易上の利害より見て返すゝも遺憾の極なり假令完全なる普通關税則にして制定せらるゝも協定税則に斯る欠點ありては實際關税制度の完成を期する能はざる可けれども今後此邊に就て改正を加ふる事甚だ必要なる可し（完）

顔の艶を白美にする妙劑
●米國大醫ハッナッン氏發明
男女共用
艶顔水
BUTIQUIA BEAUTIFIER
有効保證
定價 大瓶廿錢中瓶拾錢小瓶六錢
○男女共顔の色を白くきめをこまかにあかぬけ殊に大奇効あり○日にやけて眞に櫻色となす神の黒斑きは三四日間用ひて必脫け治し
不思議日にやけるとあしそのひび
●あせぼ●ふき出物等速治す●かしろいやけ立所に治す●あたの人長く用すべし●いかなるあれ性の顔又あぶら顔にても此水を用れば鉛毒を消
おしろい下に用ひなく天然の倘皙中あせにてはげぬと妙なり
はだのあれを白美に
麗しき艶を現はし
艶顔水特約大販賣店
東京横山町二丁目　同横山町二丁目　同通鹽町　同馬喰町一丁目　同馬喰町四丁目　同日本橋通二丁目　同銀座一丁目　同神田多町七番地　同大伝馬町　同大傷寺町　同尾張町　同大坂市　同名古屋市　同京都市　同廣島市　同福岡市　同熊本市
脇田眞盛堂　花王堂　大和屋小兵衛　平尾賛平　金城堂　丸屋善兵衛　富岡初次郎　若松町　大谷名會社　佐々木玄兵衛　玉井金八　大村瀬作　谷三郎　河合兵衛　森山本勉　玉林堂　分店　仁壽堂　株式會社　資生堂　嬰姫資　遊武入　渡邊七　第一商店　金澤辰三郎　小川原町　博多嶋屋本町　安藤藥品　同市道修町三丁目　同市心齋橋二丁目　同市心齋橋筋八丁目　同市心齋橋筋三丁目
上の外三府各縣地方至處高名なる
和洋小間物店又は藥店にて特約代理發賣致候
●受賣の方へ引札廣告紙澤山及び看ばん等進呈可仕候間御申込みあり度候也
本舗　東京本所松井町三丁目十二番地　森下喜野

理化應用衛生化粧
大日本
壹個代金拾貳錢

麝香入
花の露
壹個箱入代金拾八錢

麝香入
梅ケ枝
壹個代金拾五錢

麝香入
歌姫石鹸
壹個美艶箱入代金廿五錢

雲南麝香入
式部石鹸
壹個美艶箱入代金三十錢

今回弊社發賣ノ右五種石鹸ハ品質善良高尚優美ニシテ其原料及ヒ製造法ノ如キハ數年間萬國未曾有ノ石鹸ナリ精製セント欲シ大ヒニ奮發シ艱難辛苦ヲ嘗メ漸ク今回精製シタル者ナレハ驚ク高官博士等ノ証明賞讃ヲ明スルハ時勢ノ然ラシムル所トハ云ヘ恰モ一流行品ナリ弊社ハ証明賞讃ヨリモ優等ノ信用ト云フ確實ナル証明ヲ有スルヲ以テ從來ノ原料及製造法ノ異ナルヲ知リ御希望ノ方ハ御効ヲ驗セラレンコトヲ願フ

諸石鹸發賣元　東京堀江町貳丁目　平谷合資會社

●將來の度量衡器　來る三十三年は度量衡器定期檢定期なるを以て主務省ハ過般度量衡掛員の會議を開き檢定方法を協議したるが愈〻檢定を行ふ曉には舊器ハ全國を通じて檢定に合格するもの一もあるなかるべし現今度量衡器製作の實況にてハ其供給ハ到底需用を充たすこと能はざるべし蓋し第一三十三年に至り供給を充分にせんと欲せバ勢ひ今よりドシ〳〵製造して以て之を積置かざるべからず第二縱し三十三年に至れバ需用者のあるとハ判明なりとも目下格段の需用者なきに驚しく之を積置ことハ一個人或は二三の小會社にてハ實行しがたきと第三ドシ〳〵製作して積置かんとするも之に專ら從事する職工に乏しくして行はれざること等の故障あればなり然れども若し現今の儘放擲して是れに應ずる策を講せざる時ハ三十三年には一般人民市場に至り新器を買入れんとするも販賣品なきを如何せん不得止不知不識舊器を使用し甚しきハ夫れが爲め刑罪に觸れる者續出する等の恐れなきかと過般來大日本度量衡會にてハ大に憂慮し主務省に意見を建議し或ハ度量衡製作に關する百般の事項を調査し以て其方法を講究中なりと云ふ

●日本に對する米人の感情　米國ハ其東北部と西南部とは大に事情を異にし相互に融和投合せざるの事實あり蓋し東北部は拓殖早く資本亦豐裕なると雖も地味薄瘠農業に適せず故に其人民は夙に製作工業を勤め西南部ハ之に反し土地の膏腴を利用して主ら農業を勉ひ是を以て保護税の必要少き農産物を主とする西南部には制限ある自由貿易を政綱と爲す所のデモクラット黨斯方面に根據を有し製作工業上他國と競爭の必要ある保護税を主張するレパブリカン黨ハ東北部を占有し從て金貨本位論の此部に多く銀貨本位論の西南部に多きを敢て怪しとせざる所以ならんか而して更に進んで細に東部と北部と並に西部と南部を比較すれバ北部は東部に比し工業尚未だ幼稚にして資産亦薄少なるが如く南部の勞働者ハ賃銀低廉の黑人なるも西部ハ之に若かざるの差違あり今是等地方の事情を異にする所より我邦に及ぼす影響如何を顧るに西部地方ハ事物悉皆創始に風し勞働者を要する夥多なるがため距離の近き波航の便ある東洋諸國人の出稼する者專ら此方面に多く南部に稀なり從て我邦人に對しても惡感情を惹起し盛に移民排斥を主張するも東、北、南部に於ては單に我邦製造品排斥の聲あるのみ即ち今回の税法案の如きも是等地方に占據せるレパブリカン黨よりの提出に係る所以にして之を略言せバ西部地方は我邦の勞働に反對し東北地方ハ製造物品の排斥に力むるものと云ふを得べし是等の感情ハ各〻其所由を異にすと雖も孰も皆我邦の實況を知らざるに職由する者なれバ能く我國情を了解せしむるハ最も必要なる事なりとす盍し我邦の製作工業は猶米國と爭鹿の位地に達せず又我勞働者は支那人と逸ひ自奉に厚くして自人勞働者と殆ど徑庭なく結局當今の薄給に甘心せざるものなれバ勞働競爭ハ自然消滅すべきこと等の事情を知悉せしめバ現今の斯感情ハ從て煙散霧消すべきなり彼の我邦勞働者排斥の事に附き東北及び南部の人民は彼等自ら我邦人に接するあらずして西部人民の所說に雷同し又我邦製作品排斥に關して西南部の人民其實否如何を知らずして東北部人民の所論に唱和する等皆是れ我邦の眞況を了悉せざるの致す所ならざるハなし今や斯誤想を正すハ實に我邦人の務なり左れバ星公使ハ同國巡視の第一着手として本年一二月の交先づ南部地方に旅行し本邦へ輸入する米國棉花の產地たるアトランタ、ニツオルレアンス、ガルヴエストン、セントルイス等の各市に於て親く其趣旨を說話せりといふ

●輸入外商の思惑　本邦在留外國輸入商等ハ帝國が各國と條約を改正し本年下半季にハ海關税を增額する由を傳聞し戰後の際運と此關税に思惑を立て一ヶ年位は品物を寐かすも利益ありとなし昨年末より當春に掛け洋織物其他貨等を輸入せし額少なからず横濱居留地内外倉庫に山積しあれども是氣ハ存外惡しく又新關税は何時より施行するや目的も立ず何れも思惑違となり大に困難し居れりと

株式會社 東西銀行第二期報告

自明治三十年一月至同年六月

●貸借對照表

貸

當座預金	二、一八九、〇一六、三五
別段預金	二、二一、〇五四、〇六五、〇〇〇
仕拂送金手形	九、六、八七八、五〇〇、〇〇〇
再割引手形	六、四九、〇二〇、〇〇〇
借入金	二、〇、〇〇〇、〇〇〇
他店ヨリ借（四ヶ所）	六、〇四二、〇〇〇、〇〇〇
後期分既收利息	一、五八四、〇七八、二五三、〇〇〇
後期分割引料	一、五五一、八一一、八二二、〇〇〇
定期預金未濟利息	三、一七九、〇二五、〇〇〇
當期利益金	二、〇〇〇、〇〇〇
資本金	二、〇〇〇、〇〇〇
合計	三五、三四、四四、〇〇〇、二一四

●資產

割引手形	一三五、八三七、〇〇〇、〇九
貸付金	二二七、五七七、一一〇、〇〇〇
當座預金貸越	一、七五、一三、九五〇、六〇〇
他所割引手形	六、三二四、九五二、三〇〇
他店ヘ貸（七ヶ所）	一、四〇五、〇四〇、〇〇〇
公債證書	二九七、〇五〇、一一〇、〇〇〇
家屋	一、一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
什器	二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
證券印紙	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
拂込未濟資本金	二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
預ケ金	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
銀勘定	二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
合計	三五、三四、四四、〇〇〇、二一四

●損益勘定

前期繰越金	一、六八二、三一〇、〇〇〇、〇〇〇
當期總益金	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
合計	一、六八二、三一〇、〇〇〇、〇〇〇
內	金六千九百九十五錢四厘
內	金六千九百三十八圓二十五錢五厘
差引	金一千四百九十三圓八十三錢三厘
當期總損金	金四千四百四十四圓四十二錢二厘
當期純益金	金一千圓、
積立金	金一百圓
所有物積立金	金四百四十圓
役員賞與金	金二千八百圓
株主配當金	金四百四十二錢二厘
後期繰越金	金一千四百四十二錢二厘

右之通相違無之候也

日本橋區横山町二丁目十一番地

株式會社 東西銀行

頭取 辻久米吉

取締役 辻金五郎

同 瀨富七

同 長兵衛

同 山口清兵衛

同 三輪善兵衛

同 杉谷庄兵衛

同 川口與兵衛

同 松林理助

（年七宋）

明治三十年七月

前記之各項調査ヲ遂ケ其正確ナルヲ保證候也

監査役

●貸借對照表

債

定期預金	二、一八九、〇一六、三五
當座預金	二、二一、〇五四、〇六五、〇〇〇
別段預金	九、六、八七八、五〇〇、〇〇〇
仕拂送金手形	六、四九、〇二〇、〇〇〇
再割引手形	二、〇、〇〇〇、〇〇〇
借入金	六、〇四二、〇〇〇、〇〇〇
他店ヨリ借（四ヶ所）	一、五八四、〇七八、二五三、〇〇〇
後期分既收利息	一、五五一、八一一、八二二、〇〇〇
後期分割引料	三、一七九、〇二五、〇〇〇
定期預金未濟利息	二、〇〇〇、〇〇〇
當期利益金	二、〇〇〇、〇〇〇
資本金	三五、三四、四四、〇〇〇、二一四
合計	

●損益勘定

前期繰越金	一、六八二、三一〇、〇〇〇、〇〇〇
當期總益金	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
合計	一、六八二、三一〇、〇〇〇、〇〇〇
內	金六千九百九十五錢四厘
內	金六千九百三十八圓二十五錢五厘
差引	金一千四百九十三圓八十三錢三厘
當期總損金	金四千四百四十四圓四十二錢二厘
當期純益金	金一千圓、
積立金	金一百圓
所有物積立金	金四百四十圓
役員賞與金	金二千八百圓
株主配當金	金四百四十二錢二厘
後期繰越金	金一千四百四十二錢二厘

●損益勘定

前期繰越金	一、六八二、三一〇、〇〇〇、〇〇〇
當期總益金	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
合計	一、六八二、三一〇、〇〇〇、〇〇〇
內	金六千九百九十五錢四厘
內	金六千九百三十八圓二十五錢五厘
差引	金一千四百九十三圓八十三錢三厘
當期總損金	金四千四百四十四圓四十二錢二厘
當期純益金	金一千圓、
積立金	金一百圓
所有物積立金	金四百四十圓
役員賞與金	金二千八百圓
株主配當金	金四百四十二錢二厘
後期繰越金	金一千四百四十二錢二厘

右之通相違無之候也

日本橋區横山町二丁目十一番地

株式會社 東西銀行

頭取 辻久米吉

取締役 辻金五郎

同 瀨富七

同 長兵衛

同 山口清兵衛

同 三輪善兵衛

同 杉谷庄兵衛

同 川口與兵衛

同 松林理助

（年七宋）

明治三十年七月

前記之各項調査ヲ遂ケ其正確ナルヲ保證候也

監査役

●玉のつやハ縮毛をしなやかにする事妙なり

●玉のつやハ常に用ゐれバ毛髮育ます

●玉のつやハ水油の代用をなす經濟品なり

●玉のつやを用ゐれバ髮のムけを去る事妙なり

●玉のつやを用ゐれバ芳香馥郁して惡臭をのぞき

●惡病流行の時などハ傳染の豫防となる

●玉のつやハ用法輕便にして稱生上無比の品なり

本舗　東京日本橋瀨戸物町（電話九百六十八番）玉置金八

神田南神保町二番地　玉置分店

淺艸藏前森田町　玉置

日本橋區馬喰町　平尾賛哲

兩國米澤町　大木戸

京橋區銀座一丁目　佐々木玄兵衛

大坂東區道修町　賣株式會社

●此外全國藥舗賣藥店小間物屋に販賣仕候

定價

一袋　三錢

四袋入　十錢

十袋入　廿錢

送費郵各二錢宛

郵券代用苦からず

イリス粉石鹼發賣廣告

粉名ハ本邦ハ弊舍多年ノ經驗ニ依テ製造セシ化粧洗料ニシテ已ニ歐米諸文明國ニテ專ラ御用セラルヽニ至レリ品質ノ善良ト香氣ノ佳快ナル他製品ノ及ブ所ニアラズ加フルニ藥品配合ノ宜キヲ以テ常用トセバ敢テ皮膚ノ皺襞ヲ保全ス又容器ハ經便ナルガ故ニ旅行携帶ニ尤モ適ス

意匠登錄出願中

登錄商標

イリス石鹼製造元　安永舍

發明藥劑配合所　東京日本橋區横山町一丁目　松澤化粧品部

大販賣　天野源七

●東京小間物卸商各店にあり

○營業稅法調査の成行　東京商業會議所に於ける營業稅法調査委員會へ去九日午前八時より十一時頃まで開會せり出席委員は中野、末延、井上、朝吹の諸氏にして東京海運船會社の代表者たる田中氏も出席して同稅法改正の企望を述べ散會せり又過般會議所より所員を派して府下各區の賃借價格標準等を取調べたる結果稅吏の認定を異にし例へば製造所を販賣所となすが如き相違もあれや標準價格、營業稅法に關して反對の聲高きを以て其後大に改正を加へたる點もあるよし思ひし程の相違はなかりしと云ふ

▲最近登錄商標摘要

●品名、顏料染料一切　櫻樹の下に婦人が象に乘り書狀を見るの圖　神戸居留地獨逸國

●品名、同上　扇地紙形の內に菊の折枝を描きたるもの　仝

●品名、同上　兩翼を張りたる鷲の圖を有せる楯形を一匹の左向して鷲中に臥せる獅子が握れるもの　仝

●品名、同上　右向して競走する五頭の競馬騎者の圖　仝

●品名、石鹼其他藥劑數種　獅子が羅馬字「エム、エル、エンド、ビー」の結合字形を顯せる楯形を押へて臥したる圖　仝

●品名、同上　花を盛り牡鹿の首を顯したる袋樣のもの丶兩側に裸體の小兒が對向せる圖　仝

●品名、染料顏料一切　數多の煙突より各々煙を吐きたる大小數十棟の製造所の前方水面に帆綱を張りたる諸種の楯を畫ける圖　仝

●品名、同上　日除を吹流せる帽を戴ける洋裝の西洋婦人が馬に乘りて左方を顧み右手に鞭を持ち左手に手綱を操りて右向して走れる樣を畫きたるもの　仝

●品名、同上　進行中の蒸氣車及左方に向ひて驚き走らんとする二頭の馬の圖　仝

●品名、同上　類瑛を嵌め前兩足を水判に掛け半身を立てたる一頭の猫の圖　仝

●品名、同上　一匹の鼠が左向して前兩足及後左足及尾を唐辛子に掛けこれを喰はんとする圖　仝

●品名、同上　一匹の左向せる獅子裝中に坐して前足を以て「シー、エー、アイ、ビー、シー」なる五羅馬字の結合せるものを顯せる楯形を擁せるの圖　仝

●品名、同上　體を左方に向け翼を張り爪を有する右前足を揚げ尾を彎曲して背上に靡し耳を聳て目を開き舌を出したる怪獸を畫きたる圖　仝

●品名、同上　數多の建物を有する製造場と其後方に遠山の景を畫き其周邊に葡萄蔓纏の樹枝を繞し其上方に出たる左右の枝に鸚鵡樣の鳥が止りて相對向したる圖を畫き下方に∩該圖形の面に掛けて種々の草花を顯したるもの　仝

●品名、香水　七個の齒狀のものを連列したるものを中央に畫き其左右に布形狀の物より成る方形內に雜草中に一羽の鷲を顯したるものを畫きたるもの　ラングマン、エンド、ケムブ業務擔當組合員　米國　エドワード、ケムブ

●品名、染料顏料一切　唐草摸樣の附飾及三角の緣ある圓形內上部に王冠樣のもの丶下方に一羽の鷲の兩翼及兩足を張り頭を左方に向け胸部に楯形を附したるものを描きたる圖　神戸居留地獨逸國　パウル、ホルム

●品名、同上　四頭立四輪の郵便馬車が貨物と各々洋裝せる鞭を持てる馭者と他三人とを乘せ左行して進行せる樣を畫きたるもの　仝

●品名、同上　一歐人が綬章を懸け帶劍し左手に手綱を持ち左向して乘馬せし圖　仝

●品名、同上　一頭の獅子が左向して臥し其右足を揚げて面內に羅馬字「エム、エル、ビー」の花文字を畫きたる楯形を握りたる圖　仝

●品名、紅、白粉、其他染料顏料　胴に半出太陽を畫きたる太皷の圖　アグチエン、ゲゼルシャフト、フユールトアロリン、フハブリカチヨン取締役獨逸國　同　アルバート、シユーバード　ダブルユー、エー、マーチンス

●品名同上、天人王冠及圓形欄內高樓の圖　仝

●品名、同上　一個の寶袋の圖　横濱及神戸居留地獨逸國　ヘンレー、ペヤ

義士外傳　忠僕直助傳　第六席

銷城齋貞玉　講演
今村次郎　速記

今助廣が鍛へて居るのを見て居た直助は。氣の毒と一緒に自分も頭を振つて居る樣子。側に居た見物の刀鍛冶の方は見ないで直助の顏ばかり見て居ます。其內に仕事が終つたと見へて弟子共は道具を片附ける。見物の彼方此處へ行つて什舞う。越前守助廣の風呂へでも行く積りか手拭を提げて表へ出ると待て居た直助の。助廣の後から聲を掛け　直　旦那少々お願ひがございます。といふ聲に振返つて見れば。モウ九月だといふに肩の抜た單物。草鞋もはかず鬱笈に柄杓を持て居る金比羅詣りゆゑ　助　扨にやア持合せがないから宅へ行て貰て行な　直　お手の內でいでございませんで。私しは播州赤穗の者でございますが。どうか刀鍛冶になりたいと存じて遙々ゆ名前を便りに參りました者。何卒弟子にして下さいますやうお願ひします　助　然うかへ夫ゝ失禮をした。餘まり扮裝が立派だからツイ乞食と間違た。刀鍛冶になるつもりかへ　直　左樣でございます　助　夫ゝ大第に依たら弟子にもしやうが何處に居なさる人だエ　直　此處に居ます　助　イヤサお前の居なさる所は何處だへ　直　此處に蹲踞で居ります　助　分らねへ男だな。お前の寢泊をしたり身分に就て何事も引受やうといふ人ゝ何處の何といふ人だか夫を聞のだ　直　私しゝ赤穗から參りまして。まだ大坂でゝ泊つた處ゝでございません。第一身分を引受る者なんぞは此大坂には一人も居ません　助　冗談云つちやア行ねへ人ゝ生身といふものやアねへか。何時病煩ひの無とも限らない。其時引渡してやる家がなけりやア何處で世話をするものか　直　ヘエ左樣なら受人とか人主とかいふ者が無れば大店へ奉公も出來ませうか　助　大店處とやアねへ。どんな家でも受人がなくつて置く處があるものか。と云れて直助も途方に暮れしたが。是は自分が拾子から岡嶋氏に拾はれ仲間をして居た男ゆゑ受人。人主といふものには少し氣が付ずに赤穗を立出ましたが。さういへば知らねへ處へ奉公をするのには身元引受がなければならぬか。と今更思ても便る處ゝなし赤穗を出る時に氣が付たら手紙の一本も人を頼んで貰つて來たものをと思へども。如何とも仕方がありませんもの。先立ものは涙とやら。ポロリ〳〵と男泣に泣て居るのを見て助廣ゝ　助　チイ〳〵其樣なに泣なさんのは能々困んなすつたと見える。嘘に涙の出るものやアねへ何しろ今夜は乃公の家へ泊てやるから此先考へるが宜い　直　有難うございます。左樣なら今晩だけでもお願ひします　助　待なよ。乃公ゝ時々伊勢詣りや金比羅詣を引張込ひで家の者が變に思て居るから厭うしやう。播州赤穗だといふなら丁度幸ひ。乃公も赤穗へ行た事があるから。其時師弟の盃をしたといふ事にして來ねへ。シテ名ゝなんといふのだ　直　直助と申ます　助　直助さんか。然んなら其積で來るが宜い。嘘も方便といふから道中で煩つたとか又ゝ胡麻蠅に金を取れて此樣な姿になつて參りましたとかいつて來が宜い。併し餘まり汚ねへからせめて髮でも結て湯へでも這入て來なへ　直　然う致しませう　助　湯錢や髮結錢ゝ持て居なさるか　直　夫やア搾りながら　助　あるかへ　直　エヘヽございません　助　無へのに憚りやア餘計だ。サア之を持て行て來なと袂にあつた端た錢を直助に渡してやりました。直助も喜んで押戴き　直　左樣ならお跡から參ります　直　乃公やア風呂へ這入て直に歸るから前も早く來るが宜い　直　此の鬱笈と柄杓ゝ何う致しませう　助　夫やア何うでもするが宜い　直　左樣なら。お土產に持て參りませう　助　其樣な物を土產に持て來られて堪るものかと笑ひながら右左へ別れました。越前守助廣ゝ浴湯をして先へ歸りましたが奥に居ては直助が這入り憎からうと思ひ。故意と店先へ坐り込み煙草盆を引附て。パクリ〳〵と煙草を吸ながら女房弟子共を對手に。四方山の話しをしなから直助の來るのを待て居りました

第四回内國勧業博覽會受賞

新發明專賣特許

雲井織

御婦人用　一名政良髪の子

（花元結手拭　浮世絵入り地帯かは帯揚）　金入り　金なし

織元　京都　坂根兄弟商會

製造一手（江州川並）　外村新五郎

販賣（京都烏丸元六角下ル）　加納作之助

この雲井織と稱するは弊店が多年の經驗と幾多の苦辛とを積み漸やく技に發明製造せし前代未曾有の織物にして今其体裁と効用の大略を述べんに該品は從來に於ける三浦絞の類なれ共器械を以て縮めたるに非ず又絞りたるにも非ず即ち一種の新發明に依て頗る叮嚀に之を織成したるものなれば假令油染と或は汚れたり共清水にて之を洗ふ時は再び元の美麗に立戻るのみならず原絲染料共に充分其精を攫ひ故に幾度洗ふとも夫が爲め地質を損し又の伸縮變色等の憂ひは決して之なく殊に價格も廉にして經濟の道にも適ひ猶且其色合も流行季節向何れも御好み次第に之なり何卒一度御試用の上賜續御注文の程伏而奉願候

日本橋區横山町一丁目

東京發賣元丸見屋善兵衛

日本橋區横山町一丁目

特約大販賣天野源七

日本橋區横山町二丁目

特約大販賣森本支店

特約東京小間物問屋各店

其他本圖到る處の小間物店に販賣仕候

登録商標

新發明　黒髪を白くする法　本舗　東京大傳馬町二丁目　丸見盛榮堂製

抑々婦人の齒を染るは我國古代よりの風俗にして只其容器を粧ふのこならず第一口熱を去り齒の根を固め平常も用ひ給はゞ幾萬代も口中の患を覺へず故に拙家發賣の（かめぶし）は多年品質に心を凝し發明せしものにして染つきの速なるに容易なる事なく其効驗の著しきは實に天下無二の良品にして是れ迄世間に有りふれたる「ふー類」の及ぶ可き品に之れなし希はくは世の婦君方神代の教を守り永く皇國の美風を忘れざらん事を願ふ

賣捌所に全國到處の小間物店に販次有之候間も最寄にて求の程奉願候

專賣特許　人造珊瑚珠

根掛部	緒〆及簪玉之部
丸分 甲號一個廿錢	三分 甲號六十六錢
丸分 乙號廿五錢	二分 乙號廿三錢
丸分 丙號廿五錢	三分 甲號六錢
三分 甲號十二錢	丸分 乙號三錢
丸分 乙號十錢	丸分半 丙號廿五錢
丸分 丙號十錢	丸分 甲號一個
丸分半 甲號一個廿錢	丸分 乙號廿五錢
丸分半 乙號六十錢	丸分半 丙號廿五錢
丸分半 丙號四十錢	丸分半 甲號一個
四分 甲號一個八十錢	丸分 乙號五十錢
四分 乙號九十錢	丸分 丙號四十錢
四分 丙號六十錢	丸分半 甲號一個五十錢
丸分 乙號十錢	丸分半 乙號十錢
丸分 丙號七錢	丸分半 丙號十錢
四分 甲號三個七錢	四分 甲號廿錢
四分 乙號一個廿錢	丸分半 乙號十五錢
丸分半 丙號九十錢	丸分半 丙號十錢
丸分半 甲號五十錢	丸分 乙號
丸分 乙號二 四	丸分 丙號
丸分 丙號十五錢	上候物御注意願

東京神田須田町　長岡商店

笠甲珊瑚珠類小間物商

特約發賣元

日本橋區橋町四丁目

小間物問屋

汲花電話四四八番

善

丸見屋善兵衛

特許商標願　專賣許　渡三先發明　部吾生

耐水

金剛顔字紙

筆記帳　懐中手帖　フーエスカウスルー　作文はがき類

●此耐水顔字紙ハ先生カ多年研究ニ依リ成効セシ處ノモノニシテ諸種ノ金屬ヲ以テ（鐵鋼ハ破スル少シ）筆ニ代ヘ自由文字及ヒ圖畫等ヲ筆記シ得ルノ一大發明品ナリ尤モ鉛筆ニテモ差支ナシ●此紙ナ所持スル時ハ墨筆又ハ鉛筆等ノ持合セナキ場合ニ於テモ金銀銅眞鍮等何ソ一種ノ金屬片サヘアレハ假令ハ煙管貨幣ヨリ指輪ナリ發口ノ金具ナリ下ッテ足袋ノこはぜニテモ之ヲ用ヒテ筆ニ代ヘ自由ニ筆記スルコトヲ得ベシ●而シテ用フル處ノ金屬片ナリ尖針ナラシムルトキハ鉄絲網ヨリモ尚ホ細キ線ヲモ不同ナク判然ト書クコトヲ得ルヲ以テ細密ナル製圖上ニ於テ其極度鉛筆ナリ削リ尖カラスルノ繁ナク省ガ故ニ諸工業隆盛ノ今日製圖用紙ニハ極メテ適當ナリ●而シテ諸種ノ金屬ヲ用ヒテ以上ノ如ク奏効スルヲ以テ鉛筆ノ如ク磨滅折損ノ虞ナキヨリ演說筆記等ノ速記用紙ニ最モ適當トス●而シテ其効力ハ只ク一回ノ奏効ニ限ラス極メテ濕潤セル布片ヲ以テ徐々字蹟ヲ拭ヒ去ルハ尚ホ屢次使用スルコトヲ得ベシ●以上効力ハ長時間水中ニ浸潤シ置クモ更ラニ其効力ヲ異ニスルコトナキノミナラス之水中ニ於テ使用シ得ルガ故ニ軍時ハ勿論屋外業務ノ野帳等ニハ須要欠ベカラザルー大有益品ナリ

注意（特許出願中ヲ幸トシ類似品ナ模造セル者有之候トモ効用大ニ異ルニ付自然眞贋判明可致候へ共兎ニ角商標御見知被爲置候樣奉希候）

製造發賣元　東京下谷練塀田壹番地　鶴凌堂

帝國唯一人躰垢落し廣告

第一はだをやわらかに色を白く　飽を出し眞のやまとはだに　とひかざる無類の垢落しなり

定價　小袋六十包入ぬぬ袋付　金十五錢　同廿入紙包　金五錢　販賣侍望ノ方ハ通知次第割引法申進候

製造元　第一工場　尾崎氣樂堂

同第二工場　高木新助

發賣代理店　江川支店

京都市松原通高倉西エ入

關西特約店　海津與兵衛

大坂南久寶寺町三丁目

同　小山由藏

日本橋區馬喰町一丁目　平尾贊平

同區十軒店角　大橋博愛堂

名古屋鐵砲町三丁目　森本善七

特約店

日本橋區横山町二丁目　田中花王堂

同區橋町四丁目　丸見屋善兵衛

京橋區銀座二丁目　佐々木玄兵衛

其他販賣店ハ東京小間物卸商組合各店又ハ賣藥店ニ賣捌仕候

●電信擴張の經費　通信事業の不振は一般に認むる所にして殊に電信の如き東京より大坂乃至九州邊に至る電報は早きも四五時間を要し輻輳の際は殆んど十時間を費すことあり是れ畢竟電線の不足より來る結果にして全國各地凡そ三十分間位にて達する迄に擴張せんには現在數に倍する電線を架せざるべからず而して其經費は殆んど二千萬圓を要すべきを以て遞信省にては此度び其成案を省中の會議に附したれども尚十分に審査し場合に依ては繼續事業となし三十一年度の追加豫算として要求するに至るべしとなり

●八王子火災義捐金の總額　其後追々諸方より寄送せしものを併せ合計一萬零々六十一圓十四錢七厘に達したりこれに　兩陛下の御下賜金四千圓を加へ總計一萬四千零六十一圓十四錢七厘となりしが彌〻近々分配するといふ

●銀行家の氣慨　凡そ事物の新施設ある毎に各自利害を異にする點より自然便不便を感ずるは是非も無き次第にて夫の日本銀行が從來の慣例を打破し個人取引を開始したるが如き其方法が自家の意に滿たざる者あるより往々之を非難するの人士あるも經濟界多數の輿論は兎に角銀行業進歩の一樞機として之を歓迎するものゝ如し中央銀行既に斯の如し一般銀行者の覺悟ハ如何從來の慣習として銀行ハ普通の金貸或は質屋同然に心得甚しき機關銀行等と自稱し小資本を以て開業し單に自家が中央銀行へ融通を需むるの一便法に供し剰へ尚他にも幾多同一のものに關係し即ち甲銀行株券にて資金を得乙丙の株金拂込みに宛て居るもの等に至つてハ其危險なる事實に風前の燈と一般なり且つ實力と信用とを以て骨髓と爲す銀行者にして自家獨立の氣概に乏しく中央銀行のみを唯一の頼みに一意暫取りを己の本分とし夫の華族を株主として豐富なる資本を擁する所の十五銀行すら時に中央銀行に援を求め或ハ手形を賣出す等の事從來は珍らしからずと云へは他の小銀行は推して知るべきのみ斯る形勢を以て擁務せば銀行業者の眞價ハ何れの時に顯るゝや殆んと知る可からず將來は各自獨立の計を爲し成る可く小資本者を合同せしめ銀行家の本分たる信用と勤勉とを以て世間の資本を吸集し同時に誠眞なる取引者を求むる可からず夫の英國の如き中央銀行イングランドの外私立銀行にて之に對し遜色無き大資本と信用を有するものありて平時中央銀行に援を需むるが如き事ハ自行の利益を樂るも寧ろ愧ぢて之を爲さずと聞く我邦の如きも漸次斯る美風を奏成せざる可からず然らざれば昨秋一地方に於る商店の破綻より遂に全國に大波動を及ぼし醜態を暴露するに至りしが如き事件は續々運を接して起るべし要するに今後ハ自家の資本と信用とに重きを置き一も二もなく中央銀行を煩はす事ハ廢止するの決心無かるべからず斯くすれば中央銀行も自ら餘力を生じ内地の金融は成る可く自治に任せ自然海外の大銀行者と提携して海外に於る大金融場裏に馳聘する事をも得るの機會に遭遇すべし何時迄も小天地に跼蹐し居るは我邦資本家の爲め餘り喜ぶべき現象とは言ひ難かる可し兎に角今日は銀行家改革の時節に際會したる次第なれば當業者たるもの大に警省する所無るべからずとは某銀行老練家の語る所なり

●煙草商の計畫　諸外國との條約改正成就し國定稅率を輸入烟草に課せらるゝも最早遠にあらざるべく愈々實施の曉にハ烟草直輸入商が至大の影響を蒙るべきハ論を俟ざる次第なるが夫等の爲に同商中或人々ハ米國烟草製造會社の資本に供給を仰き我内地に一大米國烟草製造會社を起し米國より技師を聘し從來の輸入品と同一のものを我國に於て製造し内地に於て販賣するは勿論支那朝鮮露國及南洋諸島へも輸出を爲んとするの計畫ある由江副廉藏氏が先般亞米利加萬會社の日本支那部の支配人ヴューダフユーリー氏が歸國せるに際し相携へて渡米したるハ之が爲なりとの說もあれど米國萬會社が果して其相談に應ずるや否覺束なきのみならず我國に於て製造し從來の品位と異らざる烟草を製出すると頗る困難なるべしと云ふ者あり

各大醫實驗證明

獅子印

二王石鹼

二王石鹼ハ全國至ル處普及セザルハナク至ル所高評ヲ博セザルハナシ人若シ有効無比ナル石鹼ト謂ハ必ス二王石鹼ヲ指示スル事ヲ斷言スルニ憚ラザルベシ何トナレバ其効驗ノ確實ニシテ各醫大家ノ實驗證明幷ニ品質ノ保險ハ無限責任ナルヲ以テナリ故ニ益々其製額多キヲ致ス決シテ偶然ニ非ザルナリ乞フ内外ノ諸君子世上普通ノ石鹼ト同視セラレズ益々信頼ヲ賜ハランコトヲ

製造元　東京牛込揚場町　安永舍

特約販賣店

（姓名順序不同御海恕）

日本橋區横山町一丁目　近江屋源七
同區馬喰町一丁目　大野金五郎
同區橘町四丁目　田中定七
同區横山町一丁目　杉谷庄兵衛
深川區住町　政木正太郎
日本橋區大傳馬町二　岩出常三郎
同區通油町　清水開花堂
同區橘町三丁目　小原孝次郎
同區通油町　灰谷儀助
同區本石町四丁目　松澤常吉
同區横山町三丁目　田中花王堂
同區通油町　清水八右衛門
同區通塩町　鈴鹿保家
同區橘町四丁目　藤城文兵衛
同區通鹽町　大和屋小兵衛
同區横山町一丁目　大和堂
同區通三丁目　丸善唐物店
同區通油町　荒井伊之助
同區横山町二丁目　脇田盛眞堂
同區橘町四丁目　松林理助
日本橋區通油町　織田三好堂
同區通塩町　山田篤三
同區橘町四丁目　丸見屋善兵衛
同區藥研堀町　吉川屋
同區大傳馬町二丁目　汐見儀兵衛
同區横山町　綱田藤七
同區通油町　村田
同區堀江町二丁目　平谷合資會社
神田鍛冶町　大木合名會社
本所區元町　岡崎屋市太郎
日本橋區横山町二丁目　福見定助
同區馬喰町二丁目　淺井支店
同區馬喰町二丁目　秋田屋岩藏
同區蠣殼町　安藤井筒堂
同區通塩町　堀井長兵衛
同區小傳馬町三丁目　石井勇助
同區小網町　森友商店
同區馬喰町三丁目　武井龍三
同區油町　澁井
臺灣代理店　臺灣臺北城内府前街一丁目　商店

○○○○賣捌所ハ全國至ル處ニ有リ

反古ちらべ

●近世奇跡考（抄錄）

●元祖市川團十郎傳

江戸の俳優、初代市川團十郎は、堀越重藏といふ者の子なり、慶安四年辛卯、江戸に生る、重藏は下總國成田の產（或云、佐倉幡谷村の產「役者大全」に云ふ市川村）なり、江戸にうつり住む、曾て任侠を好み、幡隨院長兵衛、唐犬十右衛門等と友たり、團十郎生れて、七夜にあたる日、唐犬十右衛門、彼が幼名を、海老藏となづけたるよし（今の白猿ものがたる）初名を段十郎とよび、後に團十郎と更む、曾て俳諧を好み、曾德翁才歷の門人となり、俳名を才牛といふ、延寶のはじめ和泉太夫金平人形のはたらきを見て、荒事といふことをおもひつきたるよし「俠客傳」に見ゆ、延寶三年五月木挽町山村座、凱歌譽曾我といふ狂言に、曾我五郎の役を始めてつとむ（時に年廿五歲）延寶八年、不破伴左衛門の役を始めてつとむ（時に年三十歲）衣裝の摸樣、雲に稻妻のものすきゝ「稻妻のはしまで見たり不破の關」といふ句に、もとづきたるよし「江戸著聞集」に見ゆ、貞享元年、鳴神上人の役をはじめてつとむ（時に年三十四歲）鳴神を墮落さする女の名を、雲の絕間となづけしゝ、團十郎おもひつきたるよし、これ等を以て、其才の秀たるをはかり知るべし、元祿七年京に上り、同十年江戸に下れり

貞享五年役者評判記「野郎立役二町弓」といふ書に左の如くあり（このころの評判記は、多く半紙本なり、位付なし、元祿の末横切本となり、位付あり）

▲市川團十郎　住所ふきや町川岸

此市川とやすゝ、三千世界にならびなき、好色第一のぬれ男にて、御器量ならぶものなし、丹前の出立とゞに見事なり、せりふ天下道具なり、おはそ此人ほど出世をするゝ藝者、又とあるまじ、實事惡人、その外何事をいたされても、おろかなるゝなし、ことに學文の達者にて、仕組の妙を知らぬものなし、當世丹前役者の元祖、お江戸に於てかたをならぶものなし、威勢天が下にかゞやき、おそらくは末代の役者の鏡ともなるべき人なり、すゑ〳〵なはやはりたまわん歌に

市川の流れの水もいさぎよく
悟りすました藝者なりけり

予おもふに、末代の役者の鏡ともなるべきと、貞享の頃よりかきおきしは、役者の未來記ともいふべし

貞享年中印本「舞曲扇林」

▲江戸狂言作者

玉井樓八　南瓜與惣兵衛　宮崎傳吉
市川團十郎

かくの如く、作者のうちにもかぞへぬ、按るに、貞享元祿中の狂言、團十郎の作おほし

「江戸眞砂」に云ふ、元祿の年、勘三郎座にて、團十郎荒園の役、切狂言に、鎌倉大臣に成て大當りせしが、その委をゑがき、鎌倉大臣團十郎とよびて、ちまたに賣ありく、おのれゝ七八歲の頃、めづらしく、五文づゝに買ひ、それよりやゝ外の役者繪はやりいでぬ云〳〵

團十郎　元祿十七年（改元寶永）二月十九日死、享年五十四、芝三緣山中常照院に葬る、法名、門譽入室覺榮

寶永二年印本「寶永忠信物語」と云ふ草紙五冊あり、これ團十郎一周忌追善の書なり、その書に云ふ市村竹之丞芝居、八島壇の浦の仕組、忠信四番組の狂言に團十郎次信の役をつとひるうち、二月十九日五十四歲にて身まかる、幼名を舛之助といひしよし見へぬ、然れば則ち星合十二段といふ狂言の時死せしと云ふ說は非歟

元祖團十郎實子、二代團十郎柏莚が傳へ、あまねく人の知れる事なれば、こゝにはもらしつ、今己に名跡七代におよぶは、誠に是俳優の名家といふべし

世界の親玉
衛生齒磨　雪の友
トペーパ　世人サ以テ砂石ノ粉末ヲ用ハ世間有觸タル
瞞着　スル者トハ大ニ異ナリ
國醫學士オブデン氏
齒科專門醫今里先生
能ク齒石　ナ除キ齒牙實ナキ
鞏　ノ神氣
眞二衛生齒磨ノ
又　具フ潔齒白ニシテ爽快
雪の友　ノ名ニ背カス且ツ世間ハシ誠ニ無比ナルハ
世界親玉　ダル所也請ハ中外ノ華客陸續御試用アランコト
其廉價　間便利
製造本舗　箱崎千太郎　東京銀座二丁目
大販賣所　佐々木玄兵衛　賣捌所ハ全國至ル所ノ賣藥小間物店ニ有之候

廣告　定價
金壹圓入　大函
金壹錢入　小函
金貳錢入　袋入
高等五錢入　瓶
高等廿錢入　瓶
高等小錢　瓶

●オハヨーサン
齒磨改版廣告

オハヨーサン齒磨ハ發賣日猶淺キモ各位ノ御愛顧ヲ以テ續々御注文ヲ蒙リ難有既ニ數十萬ノ金摺袋紙ヲ出シ盡セリ此際美麗ナル色摺ニ改版致今一層品質香味ヲ改良精撰仕候間倍々御引立ノ程偏ニ奉願上候

追テ瓶詰定價ヲ金拾五錢ト改正仕候間此義併セテ御承知ノ程願上候　敬具

本舗　東京市日本橋兩替町五番地　川口長春堂

●世界無二藥齒磨玉蘭

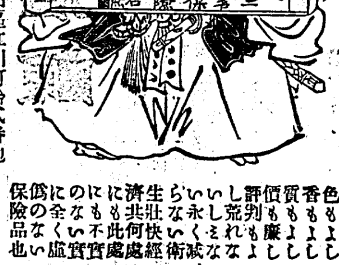
衛生齒磨

東京市日本橋區小網町貳丁目
伊勢屋吉三郎謹製

品質純良ナルヲ以テ廿五年紀念博覽會ニ於テ褒狀拜受

特約大販賣
東京日本橋區馬喰町壹丁目　同橋町
同通旅町　山田篤三
同横山町　三橋鬼喜次郎
同同　嶋村新兵衛
同馬喰町　同銀座一丁目　同横山町
三河屋善兵衛　同通旅町　同橋町
大和屋小兵衛　佐々木玄兵衛　近江屋源七　丸見屋善兵衛　平尾賛平

色もよし　香もよし　價も廉し　評判も宜し　荒れもなし　いつまでも永く減ずる事なし　生壯快經濟此處に何の費も不要　偽なく保險の品也



各有白粉製造元
東京市神田區江川町拾貳番地
澤井栖蝦
特約大販賣
東京市日本橋横山町壹丁目
天野源七

▲天保年間觸書寫し（承前）

（天保十三年五月廿二日）

子供手遊の儀近來増長いたし高直の品買買いたし候趣に相聞幼年の節より宜敷品を見馴自然奢侈を導候基にて不可然筋に付是迄仕入の分ハ當八月限り賣捌九月朔日より銀目は壹匁錢百文を限り右直段より高直の品決して賣出し申間敷候若相背候者之あるに於ていハ役人相廻し密々買上げ吟味の上嚴重の咎可ㇾ付ハ

右之通從町　浄奉行所被仰渡ハ間早々町中端々迄不洩樣可相觸ハ

但番屋へハ大筆に相認可張出置ハ

五月廿二日　町年寄役所

（同年六月三日）

自今新板書物之儀儒書佛書神書暦書歌書都而書物類其筋一通の事ハ格別異教妄說等を取交へ作り出し時の風俗人の批判等を認ハ類好色書本等堅く可爲無用事

一人々家筋先祖の事などを彼是相違の儀共新作の書物に書あらはし世上流布いたしハ儀可爲停止事

一何書物によらず新板の物作者幷に板元の實名奥書に爲致可ㇾ事

一唯今まで諸書物に　權現樣御名出ハ儀相除ハ得共向後急度いたしたる書物の内押立ハ儀ハ　御名書入不苦ハ

御身の上の儀且御物語等の類は相除

御代々樣御名諸書物に出ハ儀も右の格に相心得可ㇾ旨享保度相觸置ハ處都而明白に押出し世上にハ傳へ人々存居ハ儀ハ假令

御身の上浄物語たりとも向後相除ハにハ不及ハ

但輕さかな本等の類ハ唯今までの通り可相心得ハ

右之外暦書天文書阿蘭陀書醫師譯物ハ勿論何の著述に不限總而書物板行いたしハ節本屋共より町年寄館市右衛門方へ可ㇾ出ハ同人より奉行所へ相達し差圖の上及沙汰ハ等に付紛敷儀決て無之樣可致ハ且又彫刻出來の上は一部宛奉行所へ可差出ハ

著書譯にて板行等致すに於ていハ何書物に限らず板木燒捨懸り合の者共一同吟味の上嚴重の咎可ㇾ付ハ

右之通町中不洩樣可觸知もの也

●話稿　鹿の子餅（承前）

作者不詳

●盗人

ぬす人の用心に、親交處に寢る、それでも盗人來て家尻をさり、まづ一人處の内へ入れば、外の一人は、持出す道具うけとる手はづで、しやがんで居たり、時におやち目をさまし、壁に穴の明たるハ咎黙ゆかずと、件の穴よりなたまをさし出したるに、外に居るぬす人「ムヽやくわんから先か

●提灯

夜ばなしの歸り、みち〳〵家來と咄もながらもどれば、家來も咄しが盡て、もし旦那、此提灯にハなせくさりをつけた物で御坐ります「それはひよつと、理不人ものが切たとき、きれはなれぬ用心じゃ」シテ其時ハだれがもちます

●牽牛花

朝とく起て楊枝つかひながら、垣の透間から隣を覗けば、寐みだれ姿の娘ゑん側にこしかけ、あさがほの花をながめて居る、これハかわいらしいと息もせずのぞき居たるに、庭におり瑠璃に咲た一輪をちぎり、手のひらへのせて見る風情、どうもいへず、歌でも案ずるよと、いよ〳〵ゆかしく見て居たるに、今度ハ葉をひとつちぎりたり、何にするゾと見て居たりゃ、チンと鼻をかんで捨た

●鶉

うづら好せたまふお大名、うけたまはり傳へ、聞にまいる者へハ料理くだされ、甚だ悦ばせたまふよし、お出入の宗匠衆を頼み、私もきつい鶉好きと申入れて、聽おきして行た處、さすがお大名の浄手の廻つた事、朝つとからいろ〳〵のうまごと、酒たらふく下されのみくらひして居る内、チヽックツイとの一聲、肝をつぶしてあれハ何でござります。（未完）

登録商標登録意匠
純良香料
鹿射香薔薇
一名（モスローズ）

登録商標登録意匠

定價
高尚優等紙包壜入　金廿錢
高等彩色燒付壜入　金三拾錢
尋等彩色燒付壜入　金五拾錢
高等彩色燒付壜入　金壹圓

日本特約一手發賣元
東京市日本橋區本石町四丁目
芳香藥種問屋
松澤常吉
化粧品部

東京小間物問屋各店
大坂市久寶寺町三
小栗小三郎

關西代
大坂市平野町
飯田皆治堂

大特約販賣
關西代理店

取次所全國到る所藥店及小間物店に有

關西各地御得意樣へ謹告
御禮旁兼て化粧品部店員段雖有奉鳴謝候右製造品販路擴張ヲ以テ追々繁榮ニ赴キ候ハ、弊店化粧品ノ儀ハ御厚情ヲ忝内村養七ヲ以テ相爲何候間何卒御配慮被成下御引立之程乍略儀當紙上ヲ以テ奉懇願候

芳香藥種問屋貿易商
麝香薔薇本舗
松澤常吉商店
化粧品部

全世界無比
たばのまた

登録商標
包袋兼用玉の肌石鹸
（虫刺用瓶鑑切手に貼る）

玉の肌ハ薫香馥郁四方を拂ひ匂ひ袋の代用を爲す日常に必携の高雅石鹸なり
玉の肌ハきめを潤にし色を白くし皮膚一切の病に宜しき術生涯一の石鹸なり
玉の肌ハ純良の藥品を撰び精製したる者故海水にても能く溶解する石鹸なり
玉の肌ハ美麗なる桐箱入一個金三十錢三個入金八十五錢郵雇代用御送付次第御届可申上候勿論及評細ハ本品に副書あり

東京市芝區西の久保巴町十番地
諸石鹸製造所
西洋小間物商
和洋小間物及び荒物店等にて販賣せり
○取次所ハ全國至る處の賣藥店
本舗
稲生商店

○改良蠟引紙壽賀（製造主任）（金板六四）

○御一報次第見本進呈

○積て弊店に於て製造發賣する改良蠟引紙壽賀
○ハ多年の研究と幾多の辛酸に依て漸く今日の
○毎結果を得たるものにして婦人髮掛品として
○美術の二字を以て冠するも敢て自誇百にて
○非さるべし信に近來の半疑に類すと
○人ハ似之あらんも其實世に或は云ふ
○物種ハ故に云ふ驗り
○先試みよ殘品を執て驗一驗せらるゝ南天續き入
○遊改良蠟紙壽賀ハ假令雨天若ハ弊店製証據
●梅中と雖も決して脳氣を滯び或ハ黴生る
●等の臺ひ之なき勿論又何如なる極暑中と雖
●計りに優美を極め且つ高價の品格を備へ是
●を以て他の似非物ハ暑中を避て秋冷を待つ之
●姿あれども此改良蠟引紙壽賀ハ大に在
○反して大暑中を却て愛用せられ
○況んや春秋冬の期に於ては
○函るに以上の御莊用品に掛
○あるの美麗の見本を通昼
●萬一雛色或ハ獄の生しる時は直に替品を
●引替る事と雖も約す希くハ全國同業者諸君
●季の氣候に拘らす物品の多少を論せす續々
●御注文の發を賜ふ事を

（無地段物各十二種あり○一箱百掛入）

●本品の販路益盛大なるに付近頃似て非なる類似品を以て本品の顧客を騙着せんとする者往々有之趣にて候間御購求の際は本店の名義御注意を乞

改良蠟引紙壽賀本舗
東京橋町四丁目
特製引
護謨壽賀本舗
小間物問屋
善丸見屋善兵衛
日本橋區通町四丁目電話浪花四四八番

餘興

▲狂歌

寶井其角

枯尾花ふきな散らしそ窓の戸を　桃の屋
叩く蹄の狄のうは風　塵山人
此人のこのみになれる俳書にい
みあし粟あり類柑子あり　天邊雲人
今もなほたゞしに引かひ三圃の
田を潤はまゝ寶井の水　彌生庵
小便のあとを清めて今もなほ
くみての多き寶井の水　不二の屋
覗かるゝ乞食の家も絶えし世に
梅ゝ昔の香に匂ひけり　錦の家綾人
寶井がたから舘てふ句のなかも
まづ解けにけり雪の曙　大朴園千枝
金屏風けかせし傘の小便を
あらひ清めつ寶井の水　都一庵
我雪と五文字をかける傘の上
かるくもよみて句を殘しけり　濱の屋眞砂
文のには芭蕉の下に知られつゝ
萬代かれぬ寶井の水　九梨園
夕立の句に雷名のとゞろきて
昔たから井は世に開えけり　嘘丸
牛島にはくの畢れを殘しけり
その角を名を呼べる晋子は
垣ひとへ隣に住める儒者を見て　秋の屋
物がたしとや笑ふ梅が香

常陸油繩子　よしゆき

○暮春
おしめどもくれ行く春のとゝまらて
風にみたるゝ山さくらかな

○早夏
夏きぬと見へ渡るらん涼しけに
山もみどりの衣更して

○海上
いちしるくなき渡りける海原を
漕ゆく舟やいかにゆかしき

●おとし話し

○病氣見舞　京橋　喜卯子

オイ熊さん何を考へてゐる「これは差配さんですか、實にね私ちの出入先の[illegible]さんが、此頃狐尻とか貧血とか云ふ病症で、第一病院へ入院してるテーんで、出入中の者は皆な見舞に行きますから私ちも是非顔出しを仕なくッちゃア成らねへのですが、顔出しをするにゃア萬更手浮羅ッ放でも行けねへから、何か宜い見舞物は無いか知らと思つて考へて居る處なんで「夫ゃア感心だ、併し病氣見舞なら鷄卵か又は干菓子の折でも持て行たら宜かろう「處が鷄卵ゝ病院で毎日六個づゝ出ますさうで、夫に私ちも御存じの通りの貧的ですから差配さんの前ですが、實は成るたけ安直にあがる物をと思つて「夫もさうだ、何も先樣が困りなさる家でゝなし、直段の高下には拘らず、只はんのお前さんの寸志を持て行くのだから、寧そ干物屋の折が宜からう、干鱈や燒麩の樣な物なら何程も掛るまいから「ヘエかんべうにふ、夫も病院ぢゃア附ッ切ださうです

○聞違ひ　濱の家順風

或旦那が客と二人で芝居の仕組もいろ〳〵あるが就中曾我の對面ゝ實に旨いぢゃアありませんか夫に筋書も宜いと頻に話して居ると傍に居た早呑込の小僧が「旦那私しも蕎麥が好ですが私しゝ鯛めんや蕎麥かきよりは天麩羅が一番旨ふ御坐います主人「何を意地のきたない事を云ふのだ今の話しゝ蕎麥の事ぢやアない芝居のはなしだ小僧「ホイ失策た語らうの違ひか

○東京見物　神田　瓢錦生

或田舍の人が東京見物に出て案内者につれられ彼方此方と頻りに歩行て居る中田舍の人は案内者に向ひ「モシ東京チウ處ア廣らう綱渡ノク流行とこと見へて何處へ行ても大層針線が引張てありますだアと云ふから案内者は笑ひながら「ナニあれゝ綱渡りの針線ぢやアありません彼の極細くて澤山張てあるのが電話と云ッて各自に自家に居ながら東京中の人と話しが出來る針線、それから其次の電信と云ッて一時間に何百里先へでも手紙の遣取が出來る針線、それから又其次の一番太いのゝ元の器械の處で石炭を焚けば夜になつて自然に燈火がつく電燈と云ふ針線だと云へば田舍の人ゝ感心し[illegible]「ハ、アそんなら手品の種だア

品質の善良なるは今さら喋々せず賣捌店は全國到る處の小間物店及び賣藥店にあり

◉驚くべき有益の日用品賣出廣告

農商務省專賣特許
厨燈（ろんとう）
即席名一

定價
座敷用並製一個金七十錢
携帶用眞鍮組立同金九十五錢
同洋銀組立同金一圓四十錢
厨燈油一瓶十五錢
此新發明即席こと僅か三分間にて湯を沸す事が出來又鳥肉獸肉其他の物を煮焚するにも炭を用ひ火を起す手數なく座

特許
間似合て其時間の掛らざるは恰も圖の如く高尚にして手製の
天狗の早業
の如し但厨燈油は普通の杯に一杯あれば四十分間を保つべし
即席こんろ名
料理燗酒に大愉快
の組立なれば自宅は勿論
を備す事も自由自在又火加減と消す時はふたの用ひやうにて思ふ
極輕便
ひの儘なり
●市内御注文の方は無料配達可仕候
發賣元
東京市日本橋區横山町二丁目
電話番號（浪花四十一番）
阿部考四郎
佐々木玄兵衛
浅草區浅草橋際
京橋區銀座一丁目
日本橋區油町大門通
名古屋市鐵砲町
梅田仙吉
西村善平
旅行中滊車滊船
の中にても物を煮沸す
る事が出來る故道中に
て手品の用ひやうにて思
特約店
大坂東區南久寶寺町三丁目
京都西洞院竹屋町北へ入
靜岡呉服町一丁目
仙臺市大町五丁目
脇田盛眞堂
寺澤覺兵衛
邑瀬安次郎
神谷美妙堂
八木伊造

●比凡の良品　百猫石鹸
切れ味のよろしき
第一色と白く
きめこまやかなる
こゝろ
價一個二十錢
登錄商標
東京　大野金城堂
結果すぐれる科
東京馬喰町
大野金城堂精製
●見本品ご入用の節は郵券貳錢御封入速に呈あれ

都の花

天下無比衛生的顔料優等化粧品
芳香馥郁白美艶麗頗有効靈妙奇劑

製造發賣　東京市日本橋區馬喰町四丁目一番地　東京莊園堂　齋藤泰助

煉白粉價　金六十錢　金三十錢　金二十錢
水白粉價　金五十錢　金二十錢

●此愛さやう香は匂入天瓜粉のたぐへにあらず

愛さやう香

正價金五錢

發賣元　東京銀座二丁目　つや源本舗　電話四百拾卷

佐々木玄碩

各府縣下小間物店又は藥舗にて賣捌仕候御最寄に取次無之節は郵便にて御注文願上候
但郵送費一個金二錢增爲替又は郵券代用にてもよろし

●品質善良ナルヲ以テ第四回五二會品評會優賞拜受

袋入　箱入　全　小　別製　拾錢　二十錢　三十錢
小　大　鏡　六　五　瓶　錢　錢　錢

本品は化學作用により多年實驗して好成績を得たるに依り一層原料の良質を撰擇して精製したるものなれば從來世に行はるる普通齒磨と其質を異にして香氣馥郁として口中の汚物と臭氣を去り齒質を雪白健全なる世界無比にして且該品を常に使用するときは腐れ齒鱗齒を治し總て口中一切の病を患ふる無きと疑なし是れ本品の特効なり江湖の諸彥續々御試用の上御高評あらんことを乞

化粧品小間物齒磨問屋
東京日本橋區横山町一番地　天野源七
同馬喰町三丁目　同武井龍三
同馬喰町一丁目　同神田區淡路町　同井上哲合名會社
同橋町四丁目　其他全國至る所の小間物店及び藥店に販賣所あり
同通鹽町　丸見屋善兵衛
山田爲三

白光散本店
東京市日本橋區横山町三丁目一番地
三橋兎喜次郎製

特約代理店

奏効峻烈新輸入化粧劑

登錄商標

意匠登錄

定價二十錢　小二錢
二十錢　二十錢
遠國は送料共
切手代用

製造發賣元　東京横山町二丁目
關西代理店　大阪佐野屋
帛橋岡谷

田中花王堂
脇田盛眞堂

齒磨之大元帥

名聲輝四海

●水製煉製

甲號大瓶十五錢　大瓶卅六錢　大瓶十五錢　極大瓶二十五錢
乙號大瓶十錢　小瓶七錢　小瓶五錢　小瓶七錢　五錢
中瓶十錢　五厘極

無害性白粉

天下唯一

白粉之大王

芳香卓絶

第四回內國勸業博覽會
宮中御用海外輸出之鼻祖
褒賞拜受

煉麝香

○煉麝香ハ　晨中汗の臭ひ而已ならず種々惡臭を防ぐ故高位貴人に接近御交際廣く諸君の時々少量宛御使用あれば自身勿論顧客に對し爽快を感せしむる佳品也

○煉麝香ハ　未だ天下に類なき新發明の佳品にして多位の麝香を配合しあれば芳香馥郁自ら高尚優美ならしむ尤も夏季衛生上欠く可からざる良品なり

○煉麝香ハ　男女共身体適宜の場所に塗擦すれば佳香馥郁千金の匂ひ袋を所持せるに異ならず取分け悪疫流行の際あるにハ尤も著しき効驗を有する必要品なり

製造元　乙女部本舗　清水清香堂
日本橋區横山町二丁目
化粧品問屋　田中花王堂

發賣元　大坂佐野屋
關西代理店　橋谷角
脇田盛眞堂

●其他東京小間物問屋及ビ全國到ル所ニアリ

●數多數の注文に對しては特別の御相談可仕候

御直段	
一箱	一打以上　七十二錢
一打	十打以上　六十六錢
卅打	以上　六十三錢

定價一錨金十錢

●普通麝香より廿倍匂ひ高き

無雙新發明

改印廣告

小生儀本月十六日於東京市實印紛失ニ付改印仕候就テハ同日以後ニ於ケル當印ノ使用ニ關係無之候
右及廣告候也

明治三十年六月廿五日　伊勢國宇治山田町
中山後平

KOTOSAN
萬國發賣比
高等散
御藥とみかさ
東京市日本橋區馬喰町壹丁目
小間物問屋
賣捌本店
近江屋源七

本品は化學作用により多年實驗して好成績を得たるに依り一層原料の良質を撰擇して精製したるものなれば從來世に行はるゝ普通齒磨と其質を異にして香氣馥郁として口中の汚物と臭氣を去り齒質を雪白健全なる世界無比にして且該品を常に使用するときは腐れ齒鱗齒を治し總て口中一切の病を患ふる無きと疑なし是れ本品の特効なり江湖の諸彥續々御試用の上御高評あらんことを乞

東京横山町壹丁目（近江屋號）
小間物問屋
製造本舗　天野源七

全國到る處に取次販賣店あり御最寄にて御求を乞

平尾賛平夏期發賣品廣告

●全國御同業諸君に謹告

弊舗製造貴功歯磨ダイヤモンドの儀各位の御愛顧を以て日に月に販額を増加致候段難有奉深謝候然る處此名聲の追々海外にまで轟き候にや昨年來歐米諸國及支那地方等よりも續々注文有之候より該品功能書も從來の和文のみにて大に不便を感じ候に付今般更に英文漢文の二種を調製致候就ては全國各得意先に於て諸外國へ御差出の節は英文漢文何れにても相違可申候間御注文の際其由御申越被下度此段爲念謹告仕候也

元祖

大日本帝國農商務省御登録御免

東京馬喰町壱丁目

小町水

岳陽堂平尾賛平製

貴功白粉

水白粉　高等十製　壱錢
煉白粉　特製十錢
共　大瓶　壱錢
共　中瓶　三錢
共　小瓶　二錢
共　二十瓶　五錢
共　十二瓶　銀

獄井保藤

登録商標

名妻雪おしろい

ダイヤモンド

製造元東京平尾賛平

本品ハ世上販賣品と異あり我國にて合剤せざる効驗藥品を以て製造し身體を害する事なく第一ひゝ●そばかす●はたけ●たむし●其外吹出物顔手足のあれ●こしわ●のばし●夏日に焼ず●あせも●かくひ等の憂なく眞に潔白美艶なる肌となし

ダイヤモンドの命名に背かず請ム試用上効能を知り賜へ

●弊店製造の各種石鹸は創設廿五年紀念博覽會に於て有功銅牌を受領せり

帝國新物産　那須野

●除虫粉　一名のみよけ

定價　大鐘八錢　中鐘五錢　小鐘二錢五厘

右弊店ノ發賣ニシテ輸出ヲ増シ輸入ヲ防ク國益的貴品ナリ加フルニ品質ノ點ニ至リテハ翌年ニ至リ功力ヲ失フナク且價格低廉ト功能ノ確實ナルハ弊店ノ保証スル處ナリ

ダイヤモンドローション香水●三A香水ハ舶來摸造形ニシテ品質純良價格低廉ナルハ本品ノ特有也

●煉香水當

●割引　小器十打以上六掛　五十打以上五掛　大器十打以上五掛　百打以上五掛

商標

芳香優美

煉香水

●定價●大器十錢●中器六錢●小器四錢●煉香水ハ四季必要の品にして衛生と經濟に適合し品質純良香氣馥郁携帶に便利なるが故に普通の香水に優る事幾百倍なるか御使用上御認定願度候

製造本舗

東京市馬喰町三丁目

武井龍三

平尾賛平

一手販賣

今回弊舗に於て新製賣せし前記四品の器ハ從來世に有屬たる陳腐の瓶類に違ひ實に高尚優美なる新意匠にして形狀にも腹のあたるに緒括りあるが故に之を懐中し又は袂に入れ置くも頗る携帶に輕便なり殊に四品孰れも最上極製にして滿一ヶ年の保險を附せり何卒不變愛顧を乞ふ

製造元

東京馬喰町一丁目

山田篤三

平尾賛平

一手販賣

特約大販賣

京橋銀座佐々木玄兵衛
日本橋通油町村田藤七
同橋町四丸見屋善兵衛
同横山町一　松林堂理助
同横山町二　近江屋源七
同　杉谷庄兵衛
同　柏屋善藏
同　嶋村新五兵衛
同　花玉堂
同　脇田盛眞
同　江川支店
同　橋兎喜次郎
同三丁目三

同馬喰町二　長瀬富郎
同馬喰町三　武井龍三
同瀬戸物町二　都築金八
同本石町二　森谷欠郎
同通三丁目　丸善唐物店
同神田鍛冶町　合名會社
此外小間物組合　木村屋
同通塩町　若松屋
同通油町　大和屋小兵衛
同馬喰町一三　河植草屋良助
同馬喰町二　長瀬富郎
同馬喰町三　武井龍三
同通塩町　富岡初次郎

新意匠懐中高等器物入

一名一年保證器物入

香水

麝香水

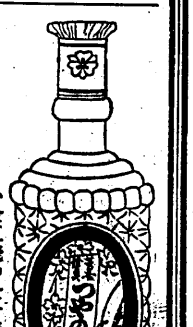
薄荷油

レモン油

穴を開ケニハ小揚ケカ汁ニテツケバ容易ナリ

廣告

弊店に於て豫て製造販賣し滿天下男女諸君の大喝采御愛用を博しつゝある艶の水（化粧下）艶の花（煉白粉）の二種ハ今更物珍らしく申さずとも何れも遠くの昔しから御存じの通り世にも稀なる祖先傳來の製法を元とし之に近世歐米各國に流行する化學的作用の新法を配合精製したる品なれば艶の水ハ敢て女子に限らず男子にして之を用ふるも色を白くし艶を増し又にきび、そばかす、あせぼ其他の吹出物を全治せしむるの奇効を奏し艶の花ハ未だ世人の知らざる秘密品數種を用ひあれば其香氣馥郁として鼻を衝くのみならず何ほど濃附るとも汗の爲に流れず又衣類半襟等を汚す事なく皮膚の荒を防ぎあぶら多き人にても決してひらを生せず殊に硫黄賣の溫泉に浴するも更に變色等の憂ひなきハ此艶の花の最も特色とする所なり左れば此艶の水、艶の花をまだ御存じなき御方々は一度御試用ゆつて其効能及び製法の奇々妙々實に不思議なる事を知り給へ



定價

小金五錢中金十錢大金二十錢
特別製金五十錢金壹圓

製造本舗

東京神田區佐柄木町

柳屋敬次郎

東京日本橋區馬喰町

發賣元　加藤盛花堂

取次販賣店（イロハ順）

○伊勢幸○富岡○尾張屋總太○脇田○鼠忠○花王堂○柏善○大小○大伊○中喜○村藤○山形屋○丸善○萬金○藤田龜鶴堂○江川支店○三善○森本○丸炭○其他全國各地至所小間物店及賣藥店ニアリ

毎月五日十五日廿五日三回發行　登録番號第金壹錢五厘一
年分前金五十錢（全國無郵稅）　廣告料金一面壹圓郵便
編輯兼發行人　西森武城
印刷人　藤崎吉之助

●巴里萬國博覽會出品聯合協會設立願書及び規則

巴里萬國博覽會出品聯合協會の發起人前田正名氏外數十名の諸氏より農商務大臣へ差出したる同會設立願書及び同規則を得たれば左に掲げて同會出品者の參考に供す

巴里萬國博覽會出品聯合協會設立願

謹而惟るに明治三十三年佛國巴里府に開設せらるへき萬國博覽會たる戰後の日本か海外貿易上に一大聲價を博するの好時機たるのみならす美術工藝農産等百般の事物に於て國光を宣揚するの盛舉たり萬一にも此盛舉を誤らば實に言ふへからさるの難境に陷るや明なり政府大に見る所あり從來の慣習を一變し整々列國の間に一旗幟を樹つるの方針を採らるゝに吾々の敬服する所なり而して吾々等亦多年苦心同業の國體を組織し又聯合を謀りたるの結果着々一致共同の實を擧くるに至れり今や各種類毎に全國を共通する協會組合等稍や整ひたるも甲の協會乙の組合と互に衝突相爭ふ時い僅に一寸を進めて十尺を退くか如き不幸に陷るに至らん故に豫め之か團滑統合の責に當るへき機關を造らさるへからす依て巴里萬國博覽會出品聯合協會なるものを組織し以て統一整理を謀らんとし別紙規則の通り發企人連署を以て出願に及ひ候間御認可被成下度候也

明治三十年四月

巴里萬國博覽會出品聯合協會

發起人

前田正名　大谷嘉兵衛
森村市左衛門　山本龜太郎
松尾寛三　早川龍介
内貴甚三郎　飯田新七
能川登　中安信三郎
紹美栗祐　並川靖之
池田清助　伊東陶山
内藤小四郎　西村彦兵衛
今西平兵衛　西村總左衛門
宮本儀助　石角喜三郎
中井三郎兵衛　佐々木清七
伊達虎一　安盛善兵衛
勝田甚吉　吉村太助
富岡音七　錦光山宗兵衛
高木文平　辻忠良兵衛
丹羽圭介　船橋繁之助
荒川宗助　三輪善兵衛
平尾賛平

臨時博覽會總裁
商務大臣伯爵大隈重信殿

巴里萬國博覽會出品聯合協會規則

第一章　總則

第一條　本會ハ明治二十九年十二月二十六日發布農商務省告示第二號に基き明治三十三年巴里萬國博覽會出品規則第十三條第十四條に準據する所の協會又ハ組合の間に立ち相互の關係をして圓滑ならしめんが爲め全國各實業團體の意志を代表し協同一致を以て組織す

第二條　本會は我國産の販路を擴張し貿易事業の進捗發達を期せんが爲め臨時博覽會事務局の指揮を受け出品に關する諸般の完成を期し出品者の便益を謀るを以て目的とす

第三條　本會ハ巴里萬國博覽會出品聯合協會と稱す

第四條　本會の本部ハ東京市芝區芝公園第十四號内に設け支部を京都市上京區堺町通押小路下ル扇屋町第廿二番戸に置く

但し必要ある場合には各地に支部若くは出張所を設くることを得

第五條　本會の存立は巴里萬國博覽會閉會後事務を完結し諸報告の終るを以て期限とす

但し會員の議決に依り名稱を改め繼續することゝなるべし

第六條　本會は營利の目的にあらざるも會頭理事は本會に關する一切の責任を負担す

第二章　會員

第七條　本會は出品人及び本會の主旨を贊成する者を以て組織し特別會員通常會員の二種に分つ

一　特別會員ハ會費として一時五十圓以上を出すもの

但し此會費は滿期の際返戻するものとし會費ハ通常會員同樣たるへし

一　通常會員は毎年會費金參圓を出すもの

第八條　本會へ入會せんとする者ハ出品人及び各實業團體員は直に入會することを得其他の者は會員の紹介を得て申込み本會の承諾を受くべし

第九條　本會を退會せんとする者ハ其旨を會頭に屆出つ可し

但既納の會費を返却せさるハ勿論會費も亦滿期に至る迄ハ返却せさるものとす

第十條　本會の會員には會員章を交附すべし

第三章　役員

第十一條　本會に左の役員を置く

會頭　一名
理事長　二名
理事　十名
常設商議員　五名
商議員　若干名
渡航委員　若干名
事務員　若干名

懷別嬪印　中百日香水

濃厚製大瓶　五拾錢
香料すみれ製定價　拾五錢
普通製小瓶
廉香料すみれ製定價
遠國に送る小瓶にて郵費代用二十錢共に要す

定價十五錢の物全形六分の一圖

此一瓶を携帶する時は一百日の間覆都として身体に奇香を放つ

此香水の容器は瓶に非す一種新案の硝子器にして一個の鈔を添れば是を襟裏懷中袂等適宜の場所へ携帶時は其上方針程の微細口より能壹百日之間美妙の奇香を發し風和に從ひ身体覆都として恰仙境に遊ム思ひあらしむ知斯未曾有の新意匠品にして高尚優美衛生經濟共に完備の珍品かれば江湖の諸嬢士一ト度御實驗わらん事を乞

東京麻山町二丁目化粧品問屋　田中花王堂

發賣元

●卸賣成規　一打以上一四二十錢●十打以上一圓十五錢●三十以上一圓十錢（御請求應一回限）一當分の内五打に付紫色布着板二枚（廣告用引札千枚）宛の割を以て無代進呈仕候

横濱　西尾甚之助
静岡市　鈴本本店
静岡市　山下久兵衛
駿州嶋田　松村平吉
遠州濱松　棒屋藤吉
名古屋　伊藤重藏
名古屋　村上庄造
同　近藤太兵衛
同　森本善七
同　熊本市
四日市　城定助
同　鹿兒島
玉樹甚兵衛
脇田盛眞堂
大坂　合作兵衛
大坂　川寺澤三久堂
同　宇都宮市
同　藤川屋新七
仁壽堂分店　水戸市
飯田皆治堂　吉田屋三平
東京麻山町二丁目化粧品問屋　田中花王堂

明治卅年七月八日

東海幾内山陰山陽四國九州各御得意樣へ謹告

夏氣甚敷相成候處倍々御愛顧奉欣賀候偖先般來御伺申候節ハ意外ノ御優待ニ預リ弊店ノ面目不一々謝狀差出可申ノ處作略叢當紙上ヲ以テ御禮申上候尚自然敗多ノ御得意樣故道順ニヨリ御伺漏等モ可有之ト奉存候間不悪御了承被成下度候先ハ御禮迄如斯御坐候頓首

壯丹精白粉　水本店　田中花王堂

東京麻山町二丁目十二番地　店員　板倉春三郎

百日香水取次店

横濱　西尾甚之助
静岡市　鈴本本店
静岡市　山下久兵衛
駿州嶋田　松村平吉
遠州濱松　棒屋藤吉
名古屋　伊藤重藏
名古屋　村上庄造
同　近藤太兵衛
同　森本善七
同　熊本市
四日市　城定助
同　鹿兒島
黒井淺太郎
同　結城
同　本善七
同　熊本市
同　鹽松
同　秋本商店
同　秋豐堂
同　仙造
同　高崎市
同　高崎市
同　高崎市

第十二條　會頭、理事長、理事、商議員ハ名譽職とす
但し時宜に依り相當の手當を給するとあるへし
第十三條　事務員ハ有給とす
第十四條　手當、給料、旅費支給規則等は商議員會の決議に據り別に之を定む
第十五條　會頭は會員之を撰選す
第十六條　理事長、理事は特別會員中より商議員は會員中より會頭之を撰選す
第十七條　渡航委員ハ商議員會に於て候補者を定め會頭之を囑託す
第十八條　會頭は本會を代表し本會全般の事務を統轄す
第十九條　理事長ハ會頭の指揮を受け商議員會の決議に據り百般の事務を處理し會頭事故あるときハ之を代理す
第二十條　理事ハ理事長を輔佐し諸般の事務を分擔處理するものとす
第二十一條　商議員は會頭の招集に應し本會一切の事務を商議し又は三分の一以上の同意を以て會頭に集會を請求することを得
商議員中より常設委員五名を互選し緊急の事件を審議決定し及ひ理事の執務を監視するものとす
第二十二條　渡航委員の事務規程ハ別に之を定む
第二十三條　事務員ハ重役の指揮を受け事務を處理す

第四章　事務

第二十四條　本會は會員の出品は勿論一般出品者の出品依囑を受け出品の整頓輸送陳列說明保管販賣積戻し及ひ渡航者等に關する一切の事務を處辨するものとす
第二十五條　出品手續及ひ委托取扱に關する規定は商議員會の決議を以て別に之を定め臨時博覽會事務局の認可を受くへし
第二十六條　本會は臨時博覽會事務局の指揮を受け事務局と各協會組合又は出品人との間に立ち相互の意旨を通し事務をして敏捷ならしむることを勉むへし
第二十七條　本會は出品陳列の爲め役員又ハ專門の技術家を各地に派出し出品物若くは出品手續に關し注意をなすものとす
第二十八條　本會は會場地の景況及ひ該地に於ける各國の準備を視察する爲め役員を渡航せしむるものとす
第二十九條　本會は博覽會開設地に於ける各國の出品に就き精密の攻究を遂け及び本邦重要物に關せる品位の良否嗜好の適否需要供求の程度等を調査報告するものとす
第三十條　本會は特に適當の人を選み審査の際出品物說明の任に當らしめ遺漏なからしめんことを勉むへし
第三十一條　本會は出品に對し注文あるときは各協會組合又ハ出品者に對し紹介取次を爲すものとす

第五章　總會

第三十二條　本會は每年兩度東西兩京に於て隔次に總會を開き諸般の協議を爲し會計上の報告を爲すものとす
但し必要の場合は臨時總會を開くことを得

第六章　會計

第三十三條　本會の出納は商議員會の評決を以て豫算を定め處理するものとす

第七章　雜則

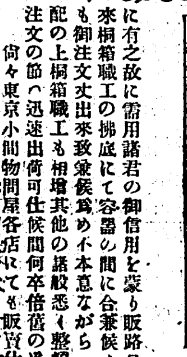
第三十四條　本會事務細則は商議員會の評決を經て之を定め臨時博覽會事務局の認可を受くへし
第三十五條　本會規則は必要ある際し商議員會の評決を經て之を總會に提出し修正することを得
第三十六條　本會は規則幷に事務細則を修正したるときハ臨時博覽會事務局の認可を受くるものとす
右の通り發起人に於て協定す依て各自左に署名捺印するもの也
明治三十年四月
巴里萬國博覽會出品聯合協會
發起人
（記名前に同じ）

○廣告

●髮掛類
●内記房付……丸形物……
●金銀水引……物……
●羽二重丸……物……
●木すが蠟引……物……
●針打……物……
●寒冷紗絞物色々……差……
右品物製造仕新流行物出來上り候間何卒御引立ノ程奉願上候
東京淺草區茅町一丁目七番地
製造本舗　星野卯三郎

袋入●箱●語●操

袋入●箱●語●鎖●語●操



袋入●箱●語●操

《吉》齒磨改良稟告

弊店製造齒磨の儀は往年祖先創業以來業世連綿製造法を繼續營業し廣く全國に販賣致居候處幸に有功無比なるを以て大に江湖諸君の高評を博し既に安政年間横濱開港以來他に先して歐米各國へ輸出し爲に海外人の賞贊を得て今に年々多額を輸出致候のみならず內國勸業博覽會に於ては其開催出品每に有功賞牌又褒賞等を拜受し殊に同開會中時事新報社に於て縱覽者に出品中の優等を撰拔投票を求れ候砌は其投票の多數に依て最良品と認められ同社より特に金牌を贈られ候等弊店の名譽幸榮不過之是全く平素御愛顧諸君の御高庇に等因り候儀と深く感謝する所に候て弊店ハ是爲益々亟勉怠らず茲に一大改良を加へ品質を撰擇し職工を督勵し愈々進て佳良の製品を專らにし且價格も可成丈低廉に販賣致候猶賞牌附寶香の儀は明治の初年弊店祖先傳來の方法を改正せしを以て尋常白堊ハクセイ製なるへハ遠ひ口中に實効ある藥種數品を撰て配伍精製致候儀故常に此齒磨を御使用あらハ口熱を去り粘液を除き又含嗽の後其粉末の口中に止る等の事なきハ此寶香の最も特色とする處に有之故に需用諸君の御信用を蒙り販路日に月に增進し多額の御注文被仰付罷在候然る處昨年來桐箱職工の拂底にて容器の間に合兼候より折角御注文被仰付候も自然出荷に延引を來し個數も御注文丈出來致兼候爲め不意ながら一時只御間に合せ丈ヅヽ御送り上候得共目下ハ夫々手配の上桐箱職工も相增其他の諸般悉く整頓致候故最早何程多數の御注文にても出來候ハ勿論御注文の節ハ迅速出荷可仕候間何卒倍舊の厚愛願陳續厚用向被仰付候樣偏に奉希上候
尙々東京小間物問屋各店にても販賣仕候間是亦本舗同樣澤山厚注文被仰付度奉願候

賜賞牌

特約販賣所　東京小間物問屋各店
東京兩國橫綱町一丁目
伊勢屋
寶香梅香散
齒磨製造所　本家　金袋堂
《吉》齋藤吉次郎謹白

發行所　東京市日本橋區藥研堀町七番地　東京小間物卸商組合事務所　編輯兼發行人　西森武城　印刷人　後藤清之助

遞信省認可　明治廿八年一月廿六日　明治卅年七月廿五日　（第六拾五號）　（一）

東京小間物商組報

廣告料　五號活字二行二錢　二行三錢　三行四錢　以上六回迄拾錢　同七回以上拾錢
發行所　東京日本橋區蠣殼町七番地　東京小間物卸商組合事務所

謹告

我東京小間物卸商組合各店は孰れも斯業に熱血を濺ぎ其體異なるも其心は一なり是を以て製品確實價格低廉殊に天下の流行に先ち又頗る意匠を凝せり今や全國到る處滊車滊船郵車の便あり輸送爲めに自由自在焉ぶ土地の遠近に因て利否を說んや冀くは全國同業者諸君益々氣脈を通じ交情を厚ふし以て相互の幸福を計り給はんことを

東京小間物卸商組合　一同敬白

雜報

●教育の振作

去廿七日帝國教育會講堂に於て高等教育會議員島田三郎氏は現時の教育學政に關する一場の演說をなせり現時の教育及び現時の改革施政に對し氏は如何に觀察するかを知る可きものあれば左に其大要を記載す

補充の急なるを說く補充より急なるにあらず然れ共教員既に足らず必ずや其由なくばあるべからず其根本の由來を問はずして而して徒らに教員の補充を謀ず何ぞ夫れ本末を誤るの甚しきや如何に教員を養成すとも有爲の人物を得るなく而して又獻身的に教育に從事するの決心ある者を得ずば是れ寧ろ厄介者を增せるのみ厄介者今の教育社會に何の要かある今人又動もすれば教員の待遇の到らざるを說く然り待遇增進へ缺くべからざる教育振作の一因なり去りながら此も亦區々の小刀細工のみ判任に帰じたれば之て將た年功を以て勤位を與へたれば之て惠澤とする所果して幾何ぞ之を以て滿足せしめ此を以て教育の振作を計らんとするが如き寧ろ兒戲の小計たるを失はず教育振作の大本は國家施政の大方針と相聯關す施政の方針先づ教育の振作を計るに在らざれば百年の後教育の隆興を見んこと極めて難し而して今の國家施政の方針の存在する處奈何必ずしも教育を輕侮すと謂ふべからざるも而かも又決して尊重せる者と言ふ能はず見よ地方官の地方議會に臨ひ手加減へいかにも內務費を讃するに際して彼等全幅の精神を傾け盡すが如きあるへ即ち彼が最も內務省を恐るゝが故に非ずや其之を恐るゝ甚しきへ即ち彼が內務費に於ける失敗へ直に內務の不認可を蒙るの恐れあればなり然る教育費に於てへ此如き患なし故に又文部省の不認可を受くべき患もなし抑も是の如きは乃ち豈國家の政針內務に重くして而て却て教育に輕きの結果に非ざるなきを得んや教育果して輕んずべき乎實業果して重んずべき乎夫れ生產へ物を造り教育は人間を作る人間と品物と孰れが重くして孰か輕きや

教育不振の現象を言へば日も亦足らざるべし而して其特に明確なる者實に教育社會の權利と利益とを代表する機關なきより甚しきはなし文部省なる者は形式に於て固より教育社會の權利と利益とを代表すべき者然るにも拘らず今の文部省へ何ぞ之を代表せざるなる代表したるひとなき所以の者は何ぞ之を代表するの機會なきが爲め乎否や曾て記す米國區附の債金二萬之を比

補充の急なるを說く補充より急なるにあらず然れ共教員既に足らず必ずや其由なくばあるべからず其根本の由來を問はずして而して徒らに教員の補充を謀ず何ぞ夫れ本末を誤るの甚しきや如何に教員を養成すとも有爲の人物を得るなく而して又獻身的に教育に從事するの決心ある者を得ずば是れ寧ろ厄介者を增せるのみ厄介者今の教育社會に何の要かある今人又動もすれば教員の待遇の到らざるを說く然り待遇增進へ缺くべからざる教育振作の一因なり去りながら此も亦區々の小刀細工のみ判任に帰じたれば之て將た年功を以て勤位を與へたれば之て惠澤とする所果して幾何ぞ之を以て滿足せしめ此を以て教育の振作を計らんとするが如き寧ろ兒戲の小計たるを失はず教育振作の大本は國家施政の大方針と相聯關す施政の方針先づ教育の振作を計るに在らざれば百年の後教育の隆興を見んこと極めて難し而して今の國家施政の方針の存在する處奈何必ずしも教育を輕侮すと謂ふべからざるも而かも又決して尊重せる者と言ふ能はず見よ地方官の地方議會に臨ひ手加減へいかにも內務費を讃するに際して彼等全幅の精神を傾け盡すが如きあるへ即ち彼が最も內務省を恐るゝが故に非ずや其之を恐るゝ甚しきへ即ち彼が內務費に於ける失敗へ直に內務の不認可を蒙るの恐れあればなり然る教育費に於てへ此如き患なし故に又文部省の不認可を受くべき患もなし抑も是の如きは乃ち豈國家の政針內務に重くして而て却て教育に輕きの結果に非ざるなきを得んや教育果して輕んずべき乎實業果して重んずべき乎夫れ生產へ物を造り教育は人間を作る人間と品物と孰れが重くして孰か輕きや

教育不振の現象を言へば日も亦足らざるべし而して其特に明確なる者實に教育社會の權利と利益とを代表する機關なきより甚しきはなし文部省なる者は形式に於て固より教育社會の權利と利益とを代表すべき者然るにも拘らず今の文部省へ何ぞ之を代表せざるなる代表したるひとなき所以の者は何ぞ之を代表するの機會なきが爲め乎否や曾て記す米國區附の債金二萬之を比

教育資金に充るとの及び日米兩國の交際を明瞭にするが爲に熟慮すべしとの二說に分れる此時に於て文部は終に教育計會の當然の權利利益を代表する能はざりしなり日清戰爭は何人も能く教育の功果の與て力ありたるを疑はず清國は得たる三億餘萬圓の總分は當然教育社會の擴張の爲に獻すべき者而して文部は尙ほ此すらも得る能はざりしなり文部は人才養成の府たり既に其府たる以上へ須らく最有爲最高識の者を精選して之を宮內に收攬するを要す然るに現況太に然らず最有爲最高識の者先づ先を競ふて內務に次に外務に次に農商務に次に民間に而して後司法と文部とに殘物を遺留する者畢竟文部は適當に教育社會に代表するの能力に缺く所あればなり教育社會の代表者たる能はずして漫然只教員補充の如き小計に齷齪す何の期にか夫れ能へ教育を振作するを得ん文部にして現時の如くば寧ろ行憲り上此省を置く者とし難見るなり文部廢止の聲を生せんも亦測る可らず文部省に大臣たる者へ須らく教育振作の大本の由義を確立せざるべからず此大主義に由て而して其經費の須要避くべからざる者たるを論述し職を賭して以て教育費の增加すべく又學藝の擴張すべきを唱ふ國僚豈敢て之を拒まんや國臣豈敢て之を否まんや然るに徒らに無主義無定見に漠然として稟算を立つ眞算の成立す可らざるや昭々然たり教育の振作を望まば須らく有爲の人才を造れ區々の小恩澤を以て利己貪慾の輩を屬立て以て僅に教員補充の途を講ずるが如きは誤て例を以て言へば學校教員にして年功ある者へ官に位費を給して遊學せしむる可し要するに無形の功名立身を以て前途の望を濶大ならしめんに若かず若し夫れ第十二號訓令を以て教員の口を塞ぐが如きへ人才拒絕の最も甚しき者の精神へ我れ恭すと雖も弊を矯ひ弊其者を制せば事足りなん流毒を恐れて有爲發動の道を制するに至ては吾れ實に其愚を笑ふ吾人先づ此等大本の僞はらざる點に向て事を爲す云々

東京日本橋區蠣殼町七番地　東京小間物卸商組合事務所

五二會辯事

今般晩香坡帝國領事能勢辰五郎氏より前田五二會監督同地の損機其他の件に付左の私信有之し候を以て實業各國体中央本部主幹福島宣三氏より本會の參考として通報ありたり

拝啓未接台光候得共倍御多祥被爲在悲賀至極に奉存候陳者前田正名氏には本月九日エムプレスヴィクトリヤ號にて安着相成候處同氏へ隨て當地に一泊不致汽船より即時滬車に乘替次第直に紐育に向け出發可被致御決心にて船中にて已に其用意も被致居候儀に御坐候然るに小生が明治廿八年奉赴任以來非常に熱心に計畫致居候加奈太に於る製茶販路擴張は勿論其他貿易上種々現今幷に將來に於て大に前田氏の助言と助力とを要する件有之幸に同氏の渡來は千載の一遇とも可申次第なるに同氏が一泊も不致當地を空過するとい如何にも殘念に付强て同氏を領事館に誘引し前件の次第逐一御話申上候處同氏にも大に小生の衷情を諒酌被致終に一旦即日出發の用意をなされたるにも係らず小生の爲め特に一日一夜を當市に經過せらるゝ事に被成候段へ平素同氏が實業上に熱心なる所以とは乍申小生の面目無此上儀と小生にも大に滿足致に小生も將來海外貿易擴張上に於て一大良友一大助力者を得たるは實に無上の幸福と確信仕居候右の次第に付前田氏には去九日午前十時より幾んど徹夜にて翌日午後二時滬車にて出發の折まで始終小生の談話を聞取られ申候就ては加奈太に於ける日本貿易に關する事項は勿論在留本邦人の件に就ても大概小生より申上盡したるやに奉存居候

船中へ船客非常に多く加之海上水波荒く船客中隨分困却仕居候者有之趣なれども同氏へ勇氣凛々更に疲勞の体にも見受不申尤も御到着の前日紐育より茶業本部の古谷竹之助氏來られ萬端御世話申上且翌日も同氏へ巨智部技師内藤久寛三島德藏醫氏一行と共に御機嫌克御發車相成候に付爲邦家御安神被下度候

元來加奈太へ日本綠茶の一大貴消者にして日本より輸出綠茶の三分の一は加奈太にて貴消せられ頗る同品の爲めには緊要なるに係らず我本邦實業家は非常に加奈太を度外視し米國に偏重するの傾向有之現に米國に於ける製茶課税案に關する件の如きは目下我實業家は非常に動搖致し居候得共本年三月中加奈太が我本邦茶に五仙（毎封）の輸入税を課せんとせし時の如き我實業家中一人の之に注意せるものなきが如し而るに該製茶課税案は適小生が東州巡回中にて其發表に先ち大に政府部内に運動せる結果へ幸に依然免税の都に据置かるゝ事と相成申候得共本邦實業家中恐らくは一人も右事實を承知の者へ有之間敷信用仕居い其他製茶販路擴張上に於ける小生が從來苦心仕居候手段の如きも同樣の次第に御坐候又絹織物の如き玄米の如き味柑の如き多少加奈太に輸入の年々增加するもの有之又加奈太より輸入可致ものも種々有之候得共從來本邦商業家の加奈太を視る事米國の如く重からず從て百事閑漫に附し去るの觀有之候に付今回前田氏渡來は實に千載の一遇とも相認め可申時期に付同氏にも十分當國の商業實況視察を依賴可申決心に有之候右に付ては小生より當國屈指の實業家は勿論政府部内の大臣にも前田氏を紹介し十分に御弁赴相願可申積に有之候

尚右に付ては小生より種々直接可申上次第も御坐候得茶不取敢右の顚末書面にて嚴合まで御通知可申上樣との前田氏よりの御依頼に付右樣御承知の上各團体就中共業團体へ御通示相成候樣奉願上候先は用事のみ如斯御坐候早々恐惶謹言

在晩香坡　能勢辰五郎　拝

東京福島宣三殿

●商品陳列館の大改良

農商務省の商品陳列館は是迄餘り世人の耳目を惹くに至らず隨て其効果も大ならざりしが今回之を商務局の附屬となし同時に大改良を加へ眞に商業家の參考磁針たらしむるに足るべきものと爲す趣なるが今其改良の大要を聞くに

●材料蒐集

是迄とても材料蒐集には意を用ざるにあらざりしも爾來へ一層注意を加へ又經費の許す限りは内外の珍品をも購入して來觀者の參考に供し陳列方も其宜しきを得さるものれば爾來は内國品、外國品、比較品、新着品、參考品、特許品の六區畫に分ち來觀者をして一意己の欲する所に就き充分研究もるの便を謀る事

●出品手續

從來同館へ出品するには先づ願書を提出して其の許可を得來りしが爾來は申込と同時に出品を許可して大いに其手續を簡易ならしむる事

●買紹介

陳列館に赴き其陳列品を一覽して之を購入せんとする場合に於て自身に從來其出品人と取引なく又一度の知見なき時は取引上甚だ不便なるとあり別して外品抔を注文せんとする時は又格別の不便あるを以て同館は斯る人々の爲めに事務員と看守

商品陳列館に赴く者は皆な知る如く同所玄關には巡査樣の服を着せる看守威然として控へ居れるが右にては如何にも御役所めきて同所に出入するものゝ眼障りとなり爲めに來觀者を減ずるの傾きあれば爾來は右服制を二子に前垂と云ふ有樣に變更し又事務員をして來觀者の需に應じ叮嚀親切に列品の説明を爲さしむる事

看料廃止

是迄同館に出入するには三錢宛の看料を徴收せしも同館は商業奨勵の爲め設けられたるものにして且つ之が爲め事務員の手數を要する事少からず來觀者に取ても迷惑の事なるを以て一へ趣旨貫徹の爲め一は煩累を省く爲め爾來看料を廃止する事

●公報と書籍館

同館の規則には公報を發行すると並に書籍館を設くるとの二ケ條は共に明記しあるも是迄は實行の運に至らざりしが爾來月々公報を發行して内外の商業一切の事を網羅し書籍館を設けて廣く内外商業に關する書籍を蒐集して常業者の參考に供する事

右準備の爲め暫中は一時閉館し弊假後開館と共に前記の件々を實行する等にて館長桜岡喬氏主として其の改良準備中の由なるが尚右の外將來は中央適當の地に一大陳列館を設立して今の陳列館を移し帝國陳列館たるに恥ざるの規模に迄擴張すの計畫にして愈〻此計畫の實行さるゝ暁には館の附近に賣店を設け來觀者の爲め直に館内陳列品と同樣の品を供給するの便を謀らんと二三豪商は今より私かに計畫し居る者ありと云ふ

●政府出品製作人内定

來卅三年佛國巴里に於る萬國大博覽會本邦政府の出品製作は其筋より左の諸氏（注文せるとに内定したる由美術工藝品部に於ては「陶磁器部」宮川香山、竹本卓一、清風興平「七寶部」德川總助、並川靖華「蒔繪部」川邊一朝、池田泰眞、白山拔哉「木牙彫刻部」米原雲海、山崎朝雲、朝日光堂、後藤貞行、田中祥雲「彫金部」海野勝珉、海野義晟、加納夏雄、香川勝廣「鍔金部」鈴木長吉、岡崎雪聲「刺繍部」西村総左衛門、飯田新七「綴織」川島甚兵衛「友染部」西村総左衛門、飯田新七「象眼部」片岡源二郎、鹿島一布「鍛金部」黒川策藏、山田寅二郎、桜尾某なり

美術館出品の美術品に於ては「木牙彫刻部」高村光雲、石川光明、朝日玉山、竹内久一、山田鬼齋「鋳造彫刻部」長沼守敬、大熊長廣、小倉某等なり

●第四回内國大博覽會に就て

第四回内國大博覽會は來る卅二年に開設さるゝ定めなれと其翌卅三年には佛國巴里に萬國大博覽會の開設ありて本邦よりも奮て出品する事なれば殆んど博覽會の鉢合せとなりて出品上甚だ不都合なるべく又翌卅四年は其跡始末等もあれば第四回内國大博覽會は多分其翌卅五年を以て開設さるゝ事ともなるべき由なるが同博覽會中美術及び工藝品丈け萬國博覽會の組織と爲さんとて先頃佐野美術協會々頭より建議する所あり其筋にても此議を贊成さるゝ人多しと云ふ現に本年伊國ヴェニスに開設せる萬國博覽會も美術工藝品丈けにて出品も非常の多數に上らざるを以て左程規模を大にするの必要もなく又本年は日本赤十字社創設廿五年紀念祝典を擧行し各國へも招待狀を發する等なりと云へば旁〻以て最も好機なるべし

●水産諮問會

農商務省水産局に於ては本年水産博覽會褒賞授與式後に於て全國の水産家及び各府縣勸業委員等を神戸に召集し水産諮問會を開く等にて右に關する事務一切を大日本水産會へ嘱託せられたるに付同會にては其開會期日決定と共に本省より指定の諮問會員に向て招集狀を發する都合なるが開會は多分本年十一月十五日頃なるべしと又諮問會の議案等も同會に於て之を撰定し農商務大臣の認可を受て之を提出する等なりと

●共進會出品數

十月一日より十一月十五日まで栃木縣足利町に於て開設する一府六縣聯合共進會の出品は繭生絲織物の三種にして東京府下より出品する點數は繭九百四十二點生絲十五點織物三百六十三點此出品人は九百三十七人なりと尤も織物は八王子大火の爲め殆と半數を減せしと云ふ

●農工銀行設立期　農工銀行設立委員は各府縣知事に於て選擇を終り大藏大臣へ認可を申請し來る府縣昨今多き由なれども本月末迄に各府縣とも悉皆設立委員の任命を終ることゝ到底六ケ敷かるべし左れば是等の設立委員が定款を作り株主を募集する等一切の設立事務を終るは最も早き府縣にても來る十月頃なるべしと云ふ

●度量衡檢定吏　度量衡檢定の件に付ては曩に府縣度量衡掛員を農商務省に召集し諮問會を開きたるが同會の決議に依り各府縣とも本年より度量衡檢定方法を勸業課員郡吏及び警察官吏に練習せしめ檢査の間際に至り檢査吏に缺乏なき樣既に夫夫準備に着手したりと

●葉煙草專賣法施行に就て　葉煙草專賣法施行後即ち明年一月一日よりハ製造人に於て政府より拂下げを受けたる葉煙草を製造せずして其儘之を同業者又は需用者に賣渡すことを得るや否やに就ては專賣法及び施行細則等にも規定しあらざるも其許否如何は營業者に取りて容易ならざる關係あるを以て既に主務省に對し伺出でし向もあり目下詮議中の由なれば同法實施前に夫等不備の點をも規定せらるべく又專賣法施行細則第十六條に依れば葉煙草ハ何人を問はず拂下げを受くる事を得るものゝ如き若し立法の精神果して然りとせば自家用に供する爲め拂下げを受くるものハ營業稅法の關係を離れ營業者は同稅法に依り納稅の義務を負擔せざるを得ざる次第なれ營業者は營業上、納稅義務に伴ふ權利なく道理上二者權衡を得ざるを以て何とか制限を設けざるべからずとの議起り當局者ハ此事に就ても亦調査中なりと云ふ者あり

●電信線の擾張　爾來遞信省にて計畫せる全國電信線の擾張ハ愈〻本年度之を行ふことゝなし其工費豫算金額を定めて各電信建築課へ下令せり傳聞するに擾張線路の重立てるハ大阪東京間、大阪熊本間、大阪鳥島間、大阪丸龜間、大阪松江間等にて其大阪東京間線路は大阪より大和の櫻井、高田、河内の富田林を經伊賀の名張より伊勢の四日市、津、志摩の鳥羽を過ぎ伊勢海底に由り名古屋を經東海道を東京に達し尙信濃へ延長せらるゝものにて工事費を一萬三千八百四十二圓とす、大阪熊本間線路ハ大阪より四國の伊豫を過ぎ唱戸海峽の水底を豐後の佐賀關に至り遂に熊本に及ぶもの、大阪鳥島間線路は淡路並に阿波の撫養を經て德島に至るもの、大阪丸龜間線路は大阪より備前の岡山、味野、備中の撫川に至り讃岐の乃生を經丸龜に達するものなり實際起工は來る十月頃を期し夫まで此に實地の測量線材器械の整頓をなし了らん都合なりとぞ

●大阪市民の稅金負擔　本年度に於て大阪市中より徵收すべき國稅、地方稅、市稅、區稅等を合せば其總額は三百八十四萬一千九百五十三圓八十四錢五厘の巨額に上り之を現時の戶數十四萬二千四十八戶に割宛つれば一戶平均二十七圓八十錢又人口七十二萬三千五百八十六人に割宛つれば一人平均五圓三十一錢なり今若し此內の市稅のみを戶數割にすれば十三圓五十七錢四厘にして之を東京市費の戶數割平均六圓二十錢三厘、京都の八圓一錢五厘、横濱の九圓五十錢、神戶七圓十一錢に比較すれば一割四分より一割八九分の高額にして就中東京に比すれば實に一倍二分に當ると云ふ

●佛國蹤時博覽會と日本街　來る三十一年の佛國蹤時大博覽會の開設に際し本邦往時の風に擬したる諸商店料理店等をも建設し利益を博せんとの目的にて此程佛國技師二名は横濱に來着し七番館クラブホテルに投宿し日本の建物を初めとし一切の取調べを爲しつゝあるが聞く處によれば一區の日本街を設け之に本邦昔し風の酒屋、煙草屋、下駄屋、瀨戶物屋、小間物屋、荒物屋、料理屋等其他一切の商店を設け且つ家毎に天水桶又ハ龍吐水等も備ふる由にて目下注文中なるが建家ハ間口四間より六間位の豫定なるも料理店の如きハ二百四五十坪もある由にて建築其他一切の事は總て同國人が擔當する目論見なりといふ

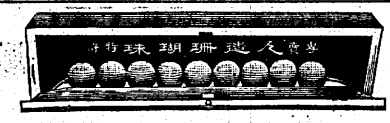
謹告

婦人用小間物美術品一式

化粧品各種
化粧石鹼類各種
眼鏡類各種

東京市日本橋區横山町壹丁目近江屋
小間物問屋　天野源七

專賣特許　人造珊瑚珠



根掛部
甲號六十六錢　三分乙號卅　三錢
甲號六　十錢　五甲號七　十錢
三分乙號卅　三錢　三分乙號三　半錢
丸分丙號廿五錢　丸分丙號二錢五厘
甲號一圓小錢　三分乙號六　十錢
甲號十二錢　三分乙號六　十錢
丸中丙號四十錢　丸中丙號四　十錢
四甲號一圓八錢　四分乙號十　錢
四甲號廿錢　四分乙號十　錢
丸分丙號九　十錢　丸分丙號十　錢
四甲號三圓七十錢　四甲號卅　錢
丸分丙號六十錢　丸分丙號七　錢
丸中丙號十　錢
丸分丙號十五錢
五分乙號二　圓
丸分丙號一圓廿錢
五分乙號廿五錢
丸分丙號十五錢
五甲號四　錢
五甲號五十錢
丸中丙號十　錢
丸分丙號九　十錢
四分乙號一圓卅錢
四分乙號十五錢
丸中丙號十　錢
丸分丙號七　錢
丸分乙號
丸中丙號
丸分乙號
丸中丙號
丸分乙號
丸中丙號

●東京大阪間及東京市の電話　東京大阪間及び東京市内の電話事業に付ては豫て本紙にも記する所ありしが猶ほ聞く處に據れば東京大阪間の新設線中東京電話交換局の受持區即ち東京、神奈川、靜岡の間百八十餘哩は既に此程より線路の實測に着手し電柱の腕木を始め追々輸送する筈にて實測は來月下旬までに終り夫より架設工事に取掛り來年一月頃には悉皆開通するに至るべき豫定なれども若しも名古屋交換局擔當の分にして間に合ざれば多少これより遅るゝことあらんと云ふ又本年度に於て架設すべき東京市内の電話千五百人分は既に工事に着手したるが之と同時に既設線を悉く複線に改むる計畫にて架空線は今の倍數となり從つて非常に輻輳するを以て差當り本局と浪花分局及び浪花と鎧橋、新大阪間に地下線を敷き本局近傍および鎧橋、新橋間には架空ケーブルを用ゐ又鐵管の出來するまで埋備として五十間乃至八十間を隔て各處に地下深さ七尺に七尺四方のマンホールを造る計畫にて是等の工事は來る十月乃至十一月頃より着手する豫定なるよし一体最初の計畫は本局と浪花及び新橋分局間を地下線とする筈なりしも鐵管の間に合ざる爲め全く手違ひを生じ新橋局の如きは來年二月頃に至らざれば開くこと能はざるを以て本年度の千五百個は本局と浪花分局とに於て引受ざるべからざることゝなり且つ全線を複線に改むる上に前記の工事を起すを以て今後電話交換局の繁忙一方ならざるも成るべく豫定の工事を竣功する見込なりといふ

●朝鮮新開港地談　小村外務次官が此程京都に於て或往時者の間に對し左の如く答へられしと朝鮮は今回新に木浦、鎮南浦の二港を開きたり世或は此開港は朝鮮政府の勅令にて開かれしもの條約に據るものならず故に何時にても勅令を以て鎖するを得べけん邦人は安んじて事に從ふを得と云へば杞憂する者ありされども是れ眞に杞憂に過ぎざるなり蓋し我が政府は只開港せりとの通知を受けたるのみにて勅令にて開きたるや否やは猶通知なきなり縱し勅令にて開きたるにせよ此二港の開港に至るまでには我政府との行掛りもありて我政府との交渉の結果己むを得ず開港したるものなれど朝鮮政府が之を鎖すにも我政府に無斷にて鎖す能はざるのみならず必ず實際鎖すこと能はざるべし若し理窟上勅令にての開港なれば勅令にて鎖すを得とするも實際は決して然らず何となれば今回の開港を機とし邦人の之に土地を買ひ建築をなすに至るときは邦人は爲めに既得の權利を獲他日朝鮮政府勅令にて鎖さんとするも此既得權を害するを得ず其結果は條約に依り開港せられたるものと同しく鎖すにも亦條約に依らざるべからざるものとなるべければ左杞憂をなすして內地の實業家が奮ひて新開港地に渡航し未だ清國商人の何事をも施さゞるに先ちて事に從ふは希望す殊に邦人は朝鮮を馬鹿にすれども朝鮮との交易は決して侮るべからざるものあり蓋し朝鮮に於ける我商業は僅々八百萬圓許に過ぎざれと此八百萬圓は其全部が邦人の手に落ち商品の運搬、爲替の取組、商店員其他總て商業に伴ふ事が邦人の手にて行はるゝものなれば收入は意外に多く米國に於ける八千萬圓と朝鮮に於てする八百萬圓とは殆んど相匹適す乃ち邦人の懷に入る純益は夥だしきものなり目今の如く高利の資金を借りて商業を營む者にあらずして新に內地の資本あり經驗あり識見ある實業家が新開港地へ往き清國商人に先んじて之を未だ起らざるに壓倒せんことを欲す元來內地人は朝鮮の我商業常に清人に壓倒せられ清人が商權を握るは奇怪至極なといふあれども此決して奇怪の事にあらず當然の事のみ清人は香港、芝罘等に本店を据ゆる純然たる大商人が朝鮮に支店を置き其業を營むものなるに邦人の朝鮮に商をなす者十中の八九は流渡りの無資本家に過ぎざれば如何に努力すとも之に壓倒せらるゝは致方なく願くは內地の實業家進んで新開港地に取る所あれ固より朝鮮は大資本家の之を投ずべき所にあらざれども而かも猶五萬圓や六萬圓位の資本家が若實に業を營むには適當なれば今回新開港地に渡航せん人の必ずしも頭數の多きを要せざるべし云々

各大醫實驗證明

獅子印

二王后鹽

二王后鹽ハ全國至ル處普及セザルハナク至ル所高評ヲ博セザルハナシ若シ有効無比ナル石鹽ト謂ハ必ス二王后鹽ナリ人ヲ指示スル事ヲ斷言スルニ憚ラザルベシ何トナレバ其効驗ノ確實ニシテ各將大家ノ實驗証明并ニ賞ノ保險ハ無限責任ニ以テ故ニ益々其製品多キヲ致スヲ以テ內外ノ諸君子世上普通ノ石鹽ト同視セラレズ益々信顧ヲ賜ハランコトヲ

製造元　東京牛込揚場町　安永舍

特約販賣店

（姓名順序不同御海恕）

日本橋區横山町一丁目　近江屋源七
同區馬喰町一丁目　大野金五郎
同區橋町四丁目　田中定七
同區横山町一丁目　杉谷庄兵衛
深川福住町　政木正太郎
日本橋區大傳馬町二　岩出常三郎
同區通油町　清水開花堂
同區橋町三丁目　小原孝次郎
同區通油町　灰谷儀助
同區本石町四丁目　松澤常吉
同區横山町二丁目　田中花王堂
同區通油町　清水八右衛門
同區通塩町　鈴鹿保家
同區橋町四丁目　藤城文兵衛
同區通鹽町　大和屋小兵衛
同區横山町一丁目　大和堂
同區通三丁目　丸善唐物店
同區通油町　荒井伊之助
同區横山町二丁目　脇田盛眞堂
同區橋町四丁目　松林理助
京橋區銀座一丁目　佐々木玄兵衛

○○○○賣捌所ハ全國至ル處ニ有●○○○○

●陸海軍御用●近頃非常に名高きはみがき
米國シカゴ府……グレード會社製

登錄商標

象印齒磨粉ハ彼の米國にて世界に其名藉々たる齒科醫學博士「ウイルハム」氏の方劑にして當時シカゴ府に於て非常の名聲を博し紳士貴婦人社會に賞贊せられたる良品なるを以て這回弊店日本一手特約を結び洽く販賣す其の衛生上有効なる は辱くも左の諸大家の信認と証明により敢て喋々を要せず

米國ハーヴハルド大學齒科醫學博士……佐々木玄兵衛
日本齒科醫試驗委員……益田廣岱先生……御信認
東京登地居留地西番館……マクドナルド先生……御証明
英國醫學博士

シカゴみがき　西洋象印はみがき　定價　三十六錢　五錢

特約販賣店

東京銀座一丁目　佐々木玄兵衛
仝横山町二丁目　田中花王堂
仝石原町四丁目　松澤常吉
仝柳川岸　富久郎
仝通リ掛町三丁目　小林
京都横山町三丁目　佐野小兵衛
仝四條柳馬場　橋兎喜次郎
札幌南一條西三丁目　三井宗兵衛
福島十丁目　南部佐七
信州松本町　草野幸太郎
信州橋本町　田立屋勝造
降旗要太郎

名古屋傳馬町六丁目　佐藤
函館末廣町　松澤
會津若松　田中
甲府若松町　富久郎
遠州袋井田町　小林
大阪市東區道修町　佐野
信州飯田傳一　橋兎
筑後横濱石川町　南部
久留米市　草野
廣島市西横町　幸太郎
其他至ル所ノ小間物店賣藥店ニアリ

日本一手販賣
安藤井筒堂
東京鯛壳町水天宮前
非善油販賣店

水谷七三郎
新田太平
河内屋濱吉
村田屋藥舗
棒屋藤吉
丸田屋茂平
賣藥株式會社
近江屋喜代治
石橋大一堂
勉強

登錄商標

日本ムスメ香水

日本ムスメ香水異名チイラン）は本邦に於て發賣以來諸君の御意にかない日々販賣高も嵩み益々繁盛なるの期に際し近頃日本ムスメ香水に類似の品澤山あるを發見致候故今般更に日本ムスメ香水と改稱致し候に付舊名チイラン同樣に此ムスメ香水を尚一層の御愛顧あらんことを乞

◎御買求めの際は日本ムスメの名稱に御注意を乞
◎販賣所は本邦各地及歐米南洋の各地にあるなり

佛國巴里府　チーエムビーヴイル氏
帝國大販賣　東京本石町四丁目　松澤常吉

●獨逸化學博士「マイカイ」氏發明
無毒性　西洋水白粉

定價
特別製　五十錢
大瓶　廿錢
小瓶　十錢

●製造本舗　東京　百花堂板橋製

●此遠西白粉「ベルベット」ハ一見水の樣ナレドモ顏ニ附レバ常ノ白粉ノ通リ色白クきれいニ附キ顏ノあれ又ハにきびそはかす等ノナヲル事妙ナリ

●本品ハ現時歐米諸國ニ於テ大流行トナリタル品質最良芳香優美ナル白粉ニシテ衛生上經濟上共ニ缺クル所ナキ品ナレバ使用者諸君ノ愛用セラルヽ事ハ弊舗ノ保証スル所ナリ

●獨逸化學博士「マイカイ」氏發明
無毒性　西洋水白粉

定價
特別製　五十錢
大瓶　廿錢
小瓶　十錢

●製造本舗　東京　百花堂板橋製

●全國一手發賣元　東京横山町二丁目　化粧品卸問屋　田中花王堂

●當分之內一打ニ付
●メリンス製
●常色フラフ看板一枚
●意匠名刺
紙ノ引札百枚
以上無代呈
可仕候

擴賣法

特約大販賣（順ハイロイ）

姓名

橋町四　吉川町　若松町　本石町三丁目　愛堂　富岡
橋町四　横山町二　尾野　大　柏　脇　田　善　忠　亀　岳　大　武　村
仝　仝　横山町一　道鑑町　馬喰町四　油町新道
櫛町四　馬喰町二　銀座一　馬喰町二　横山町二　馬喰町一　横山町二　馬喰町四　横山町二　藤井
櫛町四　馬喰町二　銀座一　馬喰町二　横山町二　馬喰町一　横山町二　馬喰町四　横山町二　藤井
餌治町　馬喰町一　丸　萬　玉　大　佐々木　秋田　近　汐　江　平　森
瀬戸物町　馬喰町一　金　善　源　屋　見　川　尾　本

最上等匂袋定價

ウヱハ　百花園　麝香入製精珍塊　桐箱一個入七十五錢
仝　國の華　麝香入製綿塊　桐箱一個入五十錢
エリ掛　萬里香　麝香入製精珍塊　桐箱一個入五十錢
仝　君の薫　麝香入製精珍塊　桐箱一個入卅錢
仝　梅の風　特製精珍塊　桐箱一個入廿錢
仝　牡丹　特製綿塊　國州丈　發句付桐箱一個入　十五錢
仝　江戸錦　特製綿塊　桐箱一個入十錢

右何レモ小間物卸商組合ニ於テ販賣相願居候ヘバ便利ニ存ジ候ヘバ用向ノ程奉願上候

○遠山霞（第二十回）

一勇子稿

積石の上に成右京之進綾衣を小脇にかい抱き右手に血刀ふり翳し群がる奴原片端よりバラリ〳〵と切捨るは宛然裂を割るが如く颯と逃ばしる血汐の雨は落ちて頭上へ濺ぐに夕誰とて近寄る者もなく唯遠巻に取囲みて騒めき騒ぐばかりなり此間に早くも右京之進ヒラリと場の屋根へ移り塗塀の上へ飛ばんとせし景季は篝の火影に透し見て是スワ敵は塗塀から逃ぐるぞ邸の外へ逃がしては町掛りとなつて事面倒だ道かさぬ内に搦め取て縄打つたる者へは恩賞望みに任すぞと聲枯るゝまで呼はれば慾には命も顧りみぬ熊鷹眼の荒くれ武士ども我こそ搦め取つて手柄にせんと各〻得物をさし付けて右左りより打て掛るを物〻しやと右京之進片手なぐりに前なる男の頭上をさつくと斬割りしに續いて掛る一人の武士が丸切込む太刀先を此方も太刀にて丁と受留め突落さんとする折柄後に親がム一人の武士が突出したる鐵棒を右京之進は受損じ右の小鬢を一寸ばかり突破られし傷口よりは血汐流れて綾衣の頬より顎へ淋漓りしかば綾衣は身も世もあられず源家の弓矢を守らせ給ふ南無や八幡大菩薩感應の功力おはしまさば二人の上を恙なく此場を落させたまへかしと只管祈念を凝らすのみ斯くても敵は退どかず愈〻四方より群がり來り迯すまじと取囲むに暗さは昨し足場は悪し搗て加へて綾衣に怪我さすまじと氣遣ふゆゑ仲業は數ヶ所の傷を受けて其身の進退自由ならず大第〻に勢れの出てしどろもどろに戰ひし其轉ぶが如く塗塀へ飛び乗り堂と塀外へ落たるにぞ是すわこと右京めは塀外へ出た今起しもやらず組伏せて綾衣を此方へ奪ひ取れといふより早く非常門颯と押開け數多の武士を後に從へドッと喚いて駈出づれば コハ如何に塀外には何時の程より來りけむ小手腹巻に身を堅め太刀長刀を引提げたる二三百人の武士ども蝉と取堅め今しも塗塀より轉げ落たる二人の者を中に囲みて兼手が即業を近づけず手に手に得物をさし付け寄らば討へと構へする樅蔭あなやり難けれど誰一人近付く者なく何れも跡へ尻込みず景季は見て氣をいらち自から眞先に進み出で是「ヤ」何奴なれば夜中身共の邸を囲み狼藉者をかばム立致すぞ是へ出で姓名名乗れ

怜が咎め立片腹痛い名を聞き度ば望みに任せ此塀で名乗て聞かす程に肝魂の緒を抜ぬ樣用心し玉へ是は我こそ今宵餞外警固の役として大江殿の下知に依り市中を見廻る仁田四郎忠常 私 ならぬ公けの役目を帶し某（對し理不盡の振舞に及ばゝ小怜は勿論何人なりとも用捨なくふみ殺すから覺悟ひろげと虎跳逆に喰ひ反し眼を睜りて突立つたる果を奚したる由は豫て聞く所なりしが今度更に清國厦門に埒設の目的にて横濱商業會議所へ貿易品標本買入れ方を囑託せり

返答迂論なるに於ては何奴なりと用捨はせず片ッ端から踏にとるから吠面かくなと罵れバッと答へて腹巻せし數多の武士の中を掻分け顔はれ出たる大の男魂ぎるばかりの大音聲「ちよこざいな小

て四方を拂ふに梶原が郎黨何も荒鑁取揺がれコヅ〳〵塀の内へ逃込む中に景季一人恐ふなく震る足を踏ンで是扨は其處許は仁田殿かよし誰殿にもせよ身共の邸に於て狼藉を働いた夫なる曲者此讓立ば其意を得ず義常に於ては下さるべしと言葉を正せば 豈イヤならぬ邸の内の事ならと知ず邸の外へ出たるもの仇何事あらんと某の掛り申出度き事あらば大江殿館で訴訟致さと吃となる是「イ左樣でもあらうなれど仁田殿見らるゝ通の次第ゆゑ此儀は聞分下れて是「エッヤロと怒しい强て爭立申すに於ては二撰に取揺ぎとゞまはせ猛臂を延さんとするに景季は場を浮足立門の内まで迯込む忠常はカラ〳〵とあざ笑ひ傷手に弱る仲業と綾衣を介抱し忠常は結城殿を始め和田殿畠山殿なんど何も大江殿館に待兼て御坐る早〻那へお越あれと數多の武士を付添せ已一人殿に立ち梶原の邸を見返ながら悠ふとして立去る景季始め自餘の者は歯噛をなして悶ゆれども誰一人進み出で綾衣を取返せ者もなく指をくはへゝかりなり

◎東京髦合資會社の新設　同會社は本組合員なる横山町壹丁目佐野善衛氏の計畫にあり目下登記其他の手續き中なるが該社の目的は髦の原料賣買及び髦製造販賣にして其營業所は同氏家屋の一部分に新築中なれど既に其九分迄り迄竣功の運びに至りつゝあれば是が落成次第直ちに開業の由なり而して同氏は世人が知れるが如く斯業には常に熟心且つ經驗に富めるの人なれば必らずや製造の確實品位の純正忽ち需用者の喝采を博するは今より豫言の違はざるを信ず

●厦門貿易品陳列所　農商務省は昨年新嘉坡、孟買、浦鹽斯德、サンデッサ、墨西哥、沙市の六ケ所へ貿易品標本海外陳列所を開設せしに頗る好結果を奏したる由は豫て聞く所なりしが今度更に清國厦門に埒設の目的にて横濱商業會議所へ貿易品標本買入れ方を囑託せり

○通貨收縮の方法

今經濟社會の病源は通貨の膨脹と物價の騰貴にして此二事にして匡正せらるゝに非ずんば經濟社會は今後如何なる難境に陷るやも知る可らず實に嘆はいよ〳〵我に逆となり政府の經費は次第に增加し金利は昇騰して民間の企業を妨げ經濟社會は非常の害を被ひるに至る可ければ今日に於ては通貨を收縮して物價を低落せしめ以て金融の緩和を謀るより急なるはなし始め財政當局者の考にては戰後の經濟社會に要する通貨は大略二億圓内外にして之を超過する時には通貨膨脹して經濟社會を紊亂するの恐れあれば此場合には政府に於て事業公債を發行して民間の通貨を吸收し通貨の流通高をして常に適度を得せしむ可しと云ふにあり たれども其後の實際と見るに膨脹したる通貨は多く は民間消費者の手に入りて事業家の資本とならず通貨の增加するに從ひ物價は騰貴して金融は逼促し今日に於ては明に通貨膨脹の害を見ながら當局者の豫想通り公債を募集して通貨を吸收するは到底行ふ可らざる難事となれるのみならず財政計畫を實施するに連て公債の募集は一日も遲延するを得ざるを以て終に公債を外國に賣出て外資を輸入しなす〳〵通貨膨脹の勢を助長せんとす政府も亦窮せりと云ふ可し然らば如何にして通貨を收縮ずるや或は今日物價が著しく騰貴したる原因は膨脹したる通貨が專ら消費力を增加したるにあれば其源に溯りて租稅を增徵し人民の消費力を減殺するの策を施せば自から通貨を收縮して物價を下落せしひるの効あるべしとの說あり一應甚だ穩當なるが如くなれども租稅を增徵するには夫れ〳〵種々の手續ありて遽に斷行する能はず又實際斷行したりとするも人民の消費力に影響を及ぼす迄には幾多の年月を要すれば是は永遠の策として目今即時に施すべき策如何と云へば日本銀行が金利の引上を斷行して通貨を收縮するにあるのみ金利にして昇騰すれば事業の盛興を制し通貨を吸收して物價を低落せしめ結局金融の緩慢を見る可し殊に金本位實施の近き今日金貨準備は最り堅固なるを要すれば金利を引上て物價の低落を謀り以て貿易の逆戻を制するは金本位を實施するの點より見るも甚だ急要の策と云ふ可けれ要するに通貨の增加を以て金融の逼促を救ひ得べしと云ふが如きは通貨と資本とを混同せるものにして事の眞相を誤れるの甚だしきものなり從年不換紙幣濫發の當時金融が如何なる有樣なりしやを回想すれば思ひ半ばに過るものあらんと云ふ者あり

●●●

國名	里程	局名
武蔵	百里内	千住
	十里内	所沢
	百里内	幸手
	五日	熊谷
	越生市	八王子
	川越	杉戸
	川金	浦和
	岩槻	王子
	府中	中野
	加中	品川
	大小	蒲田
	森平	赤羽
	田木	熊谷
	居山	上尾
	寄松	大宮
	深厚	小松川
	松	神奈川
	羽飯	保土ケ谷
	生能	横須賀
	鳥羽	横須賀
	菅原	浦賀
	戸	浦賀
	秦	浦賀
	野塚	浦賀
	葉鍛	浦賀
	山倉	浦賀
	栗青	浦賀
	橋梅	浦賀
	小加	大宮
	鹿野	大宮
	久小	大宮
	皃	大宮
	喜川玉	大宮
相模	百里内	横須賀
	中湯本	浦賀
	吉宮ノ野	浦賀
	上箱根	藤沢
	松厚木	藤沢
	三伊勢原	小田原
	三	小田原
	保	小田原
	秦	戸
	野塚	戸
	葉鍛	戸
	山倉	戸
	吉平	戸
	濱塚	戸
	茅國府崎津	戸
安房	百里内	館山
	十里内	木更津
	百里内	天津
	前	前原
	加知山	前原
	那	前原
	古	前原
	保	前原
	秦	前原
	戸	前原
	大	前原
	熊川	前原
	熊	前原
上總	白里内	東金
	鶴舞	東金
	富津	東金
	茂原	東金
	大多喜	東金
	勝	東金
	成	東金
	横留里	東金
	芝	東金
	大	東金
	網	東金
	崎	東金
	一宮	東金
	大	東金
	市	東金
	長	東金
	横	東金
	南	東金
十里内	諭見川	千葉
	千葉	千葉
	市	千葉
	川	千葉
	船	千葉
	橋	千葉
	松	千葉
	成	千葉
	流	千葉
	山	千葉
	野	千葉
	姉	千葉
	崎	千葉
	田	千葉
	行	千葉
	德	千葉
	佐	千葉
	一	千葉
	宮	千葉
	大	千葉
	和田	千葉
	宿原	千葉
	横長	千葉
	田南	千葉
下總	百里内	野田
	太田	野田
	尻	野田
	萬歳市場	野田
	八日	野田
	古河	野田
	市	野田
	川	野田
	船	野田
	八	野田
	大多喜	野田
	幡	野田
	成	野田
	勝	野田
	浦	野田
	横	野田
	留	野田
	芝	野田
	大	野田
	網	野田
	崎	野田
	一	野田
	宮	野田
	大	野田
	和	野田
	宿	野田
	長	野田
	横	野田
	南	野田
常陸	百里内	土戸
	鹿島	土戸
	久慈川	土戸
	江戸崎	土戸
	浦	土戸
	柿	水戸
	湖	水戸
	河原子	水戸
	龍ケ崎	水戸
	戸	水戸
	下	水戸
	谷	水戸
	田	水戸
	部	水戸
	館	水戸
	石	水戸
	高	水戸
	下	水戸
	妻	水戸
	岡	水戸
	大	水戸
	大	水戸
	小	水戸
	矢	水戸
	永	水戸
	澁	水戸
	富	水戸
	眞	水戸
	平	水戸
	玉	水戸
	太	水戸
	胡	水戸
	井	水戸
	川	水戸
	岡	水戸
	壁	水戸
	漏	水戸
	造	水戸
	田	水戸
	谷	水戸
	食	水戸
	子	水戸
	田	水戸
	行	水戸
	德	水戸
	佐	水戸
	一	水戸
	賈	水戸
	宮	水戸
	大	水戸
	和田	水戸
	宿	水戸
	長	水戸
	横	水戸
	南	水戸
上野	百里内	前橋
	四倉ケ	前橋
	萬野	前橋
	部	前橋
	橋	前橋
	高	前橋
	横	前橋
	下仁	前橋
	場	前橋
	田	前橋
	川	前橋
	崎	前橋
	沼	前橋
	伊勢	前橋
	崎	前橋
	鬼	前橋
	松	前橋
	井	前橋
	沼	前橋
	石	前橋
	田	前橋
	田	前橋
	吉	前橋
	柳	前橋
	草	前橋
	桐	前橋
	生	前橋
	井	前橋
	下	前橋
	津	前橋
	中	前橋
	伊香ノ	前橋
	保	前橋
	條	前橋
	施	前橋
	村	前橋
	光	前橋
	磯	前橋
	田	前橋
	沼	前橋
	井	前橋
	川	前橋
	岡	前橋
	横	前橋
	高	前橋
	崎	前橋
下野	百里内	足利
	馬	足利
	久下田	足利
	頃	足利
	尾	足利
	家	足利
	山	足利
	氏	足利
	小	足利
	白川郷	足利
	金山	足利
	本	足利
	川	足利
	鹿島	足利
	草	足利
	野	足利
	島	足利
	下	足利
	川	足利
	須賀	足利
	梁	足利
	熟	足利
	海濱	足利
	小坂	足利
	山	足利
	針	足利
	高	足利
	保	足利
	郡	足利
	閑	足利
	浜	足利
	丸	足利
	白	足利
	原	足利
	山	足利
	村	足利
	江	足利
	森	足利
	石	足利
	荒	足利
	新	足利
	湯	足利
	矢	足利
	吹	足利
	野	足利
	岡	足利
	葛	足利
	藤	足利
	黒田	足利
	石	足利
	原	足利
	橋	足利
	鹿	足利
	喜	足利
	鹽	足利
	葛	足利
	平	足利
	吉	足利
	柳	足利
	桐	足利
	草	足利
	生	足利
	井	足利
	下	足利
	津	足利
	中	足利
	伊	足利
	香	足利
	保	足利
	條	足利
	施	足利
	村	足利
	光	足利
	磯	足利
	田	足利
	沼	足利
	井	足利
	川	足利
	岡	足利
	横	足利
	高	足利
	崎	足利
磐城	百里内	草
	鹿	草
	金山	草
	本	草
	川	草
	郷	草
	須賀	草
	川	草
	下	草
	川	草
	田	草
	原	草
	山	草
	郡	草
	浜	草
	丸	草
	白	草
	村	草
	江	草
	森	草
	石	草
	荒	草
	新	草
	湯	草
	矢	草
	吹	草
	本	草
	良	草
	津	草
	田	草
	宮	草
	濱	草
	山	草
	本	草
	吹	草
	野	草
	岡	草
	葛	草
	藤	草
	黒田	草
	石	草
	原	草
	橋	草
	鹿	草
	喜	草
	鹽	草
	葛	草
	平	草
	吉	草
	柳	草
	桐	草
	生	草
	井	草
	下	草
	津	草
	中	草
	伊	草
	香	草
	保	草
	條	草
	施	草
	村	草
	光	草
	磯	草
	田	草
	沼	草
	井	草
	川	草
	岡	草
	横	草
	高	草
	崎	草
岩代	百里内	熟
	小	熟
	坂	熟
	梁	熟
	須賀	熟
	川	熟
	海濱	熟
	下	熟
	川	熟
	田	熟
	原	熟
	山	熟
	郡	熟
	針	熟
	高	熟
	保	熟
	郡	熟
	閑	熟
	浜	熟
	丸	熟
	白	熟
	原	熟
	山	熟
	村	熟
	江	熟
	森	熟
	石	熟
	荒	熟
	新	熟
	湯	熟
	矢	熟
	吹	熟
	本	熟
	良	熟
	津	熟
	田	熟
	宮	熟
	濱	熟
	山	熟
	本	熟
	吹	熟
	野	熟
	岡	熟
	葛	熟
	藤	熟
	黒田	熟
	石	熟
	原	熟
	橋	熟
	鹿	熟
	喜	熟
	鹽	熟
	葛	熟
	平	熟
	吉	熟
	柳	熟
	桐	熟
	生	熟
	井	熟
	下	熟
	津	熟
	中	熟
	伊	熟
	香	熟
	保	熟
	條	熟
	施	熟
	村	熟
	光	熟
	磯	熟
	田	熟
	沼	熟
	井	熟
	川	熟
	岡	熟
	横	熟
	高	熟
	崎	熟
陸前	百里内	作
	仙臺	作
	並	作
	村	作
	岩沼	作
	田	作
	秋	作
	鹽竈	作
	保	作
	竈	作
	大河原	作
	閑	作
	上	作
	濱	作
	若	作
	細	作
	金	作
	堡	作
	成	作
	山	作
	倉	作
	柳	作
	盛	作
	佐	作
	小	作
	增	作
	野	作
	田	作
	松	作
	嶋	作
	谷	作
	富	作
	沼	作
	宮	作
	高	作
	氣	作
	仙	作
	沼	作
	田	作
	中	作
	新	作
	田	作
	吉	作
	柳	作
	津	作
	岡	作
陸中	百里外	一ノ關
	宮	一ノ關
	千	一ノ關
	古	一ノ關
	花巻	一ノ關
	遠野	一ノ關
	沼	一ノ關
	川	一ノ關
	盛	一ノ關
	山	一ノ關
	田	一ノ關
	釜	一ノ關
	川	一ノ關
	黒澤尻	一ノ關
	前	一ノ關
	久	一ノ關
	大	一ノ關
	大	一ノ關
	岩谷堂	一ノ關
	沼	一ノ關
	宮	一ノ關
	内	一ノ關
	堂	一ノ關
	原	一ノ關
	迫	一ノ關
	水沢	一ノ關
	涌	一ノ關
	津	一ノ關
	澤	一ノ關
	花	一ノ關
	薄	一ノ關
	衣	一ノ關
	輪	一ノ關
陸奥	百里外	小藤田
	沼崎	小藤田
	部	小藤田
	森	小藤田
	背名	小藤田
	五所川原	小藤田
	藏	小藤田
	館	小藤田
	子	小藤田
	弘前	小藤田
	八戸	小藤田
	鰺	小藤田
	碇	小藤田
	川	小藤田
	小山	小藤田
	白	小藤田
	向	小藤田
	岡	小藤田
	金鶴	小藤田
	番	小藤田
	横酒	小藤田
	新	小藤田
	向	小藤田
	鼠ケ關	小藤田
羽前	百里内	米
	小	米
	宮	米
	酒	米
	松	米
	澤	米
	上ノ山	米
	高	米
	板	米
	湯	米
	谷	米
	山	米
	鶴	米
	岡	米
	山	米
	白	米
	小	米
	山	米
	國	米
	形	米
	岩	米
	寒河江	米
	荒	米
	深	米
	一小	米
	戸	米
	淺	米
	頃	米
	石	米
	井	米
	尻	米
	大	米
	大	米
	久	米
	前	米
	大	米
	三	米
	福	米
	本	米
	木	米
	岡	米
	山	米
	鶴	米
	慈	米
	澤	米
	宮	米
	山	米
	内	米
	左	米
	長	米
	三	米
	七	米
	三	米
	甲	米
	人	米
	輕	米
	郡	米
	東	米
	口田	米
	澤	米
	井	米
	戸	米
	戸	米
	石	米
	首	米
	米	米
	山	米
	根	米
	尾花沢	米
	谷	米
	高	米
	生	米
	地	米
	畠	米
	海澤	米
	本	米
	合	米
	田	米
	海	米
	川	米
	中	米
	赤	米
	山	米
	湯	米
	三瀬	米
	瀬	米
	見	米
羽前	百里外	鼠ケ關
	向	鼠ケ關
	新	鼠ケ關
	町	鼠ケ關
	庄	鼠ケ關
	番	鼠ケ關
	金	鼠ケ關
	鶴	鼠ケ關
	岡	鼠ケ關
	高	鼠ケ關
	板	鼠ケ關
	上ノ山	鼠ケ關
	湯	鼠ケ關
	谷	鼠ケ關
	山	鼠ケ關
	白	鼠ケ關
	小	鼠ケ關
	山	鼠ケ關
	國	鼠ケ關
	形	鼠ケ關
	岩	鼠ケ關
	寒河江	鼠ケ關
	荒	鼠ケ關
	深	鼠ケ關
	一小	鼠ケ關
	戸	鼠ケ關
	淺	鼠ケ關
	頃	鼠ケ關
	石	鼠ケ關
	井	鼠ケ關
	尻	鼠ケ關
	大	鼠ケ關
	大	鼠ケ關
	久	鼠ケ關
	前	鼠ケ關
	大	鼠ケ關
	三	鼠ケ關
	福	鼠ケ關
	本	鼠ケ關
	木	鼠ケ關
	岡	鼠ケ關
	山	鼠ケ關
	鶴	鼠ケ關
	慈	鼠ケ關
	澤	鼠ケ關
	宮	鼠ケ關
	山	鼠ケ關
	内	鼠ケ關
	左	鼠ケ關
	長	鼠ケ關
	三	鼠ケ關
	七	鼠ケ關
	三	鼠ケ關
	甲	鼠ケ關
	人	鼠ケ關
	輕	鼠ケ關
	郡	鼠ケ關
	東	鼠ケ關
	口田	鼠ケ關
	澤	鼠ケ關
	井	鼠ケ關
	戸	鼠ケ關
	戸	鼠ケ關
	石	鼠ケ關
	首	鼠ケ關
	米	鼠ケ關
	山	鼠ケ關
	根	鼠ケ關
	尾花沢	鼠ケ關
	谷	鼠ケ關
	高	鼠ケ關
	萩	鼠ケ關
	生	鼠ケ關
	地	鼠ケ關
	畠	鼠ケ關
	海澤	鼠ケ關
	本	鼠ケ關
	合	鼠ケ關
	田	鼠ケ關
	海	鼠ケ關
	川	鼠ケ關
	中	鼠ケ關
	赤	鼠ケ關
	山	鼠ケ關
	湯	鼠ケ關
	三瀬	鼠ケ關
	瀬	鼠ケ關
	見	鼠ケ關
羽前	百里外	白里外
	小	白里外
	小野田	白里外
	鶴	白里外
	田	白里外
	申	白里外
	三	白里外
	佐々	白里外
	並	白里外
	木	白里外
	嘉	白里外
	仙	白里外
	長	白里外
	萬	白里外
	崎	白里外
	府	白里外
	小	白里外
	奈	白里外
	保	白里外
	古	白里外
	川	白里外
	月	白里外
	藤	白里外
	俵	白里外
	萩	白里外
	曲	白里外
	山	白里外
	吉	白里外
	西	白里外
	大	白里外
	田	白里外
	渡	白里外
	埴	白里外
	正明市	白里外
	塙	白里外
	部	白里外
	生	白里外
	江	白里外
	雲	白里外
	崎	白里外
	部	白里外
	特	白里外
	須	白里外
	田	白里外
	佐	白里外
	牛	白里外
	部	白里外
羽前	百里外	東屋代
	岩	東屋代
	國	東屋代
	郷	東屋代
	堀	東屋代
	室	東屋代
	山	東屋代
	津	東屋代
	口	東屋代
	阿知	東屋代
	平	東屋代
	柳	東屋代
	生	東屋代
	井	東屋代
	平	東屋代
	室	東屋代
	德	東屋代
	山	東屋代
	野	東屋代
	横	東屋代
	須々	東屋代
	萬	東屋代
	三田尻	東屋代
	宇	東屋代
	高	東屋代
	宮	東屋代
	廣	東屋代
	瀬	東屋代
	奈	東屋代
	市	東屋代
	下	東屋代
	呼	東屋代
	坂	東屋代
	郡	東屋代
	新	東屋代
	仁	東屋代
	潟	東屋代
	保	東屋代
	川	東屋代
	久	東屋代
	鹿	東屋代
	野	東屋代
	賀	東屋代
陸奥	百里外	忠
	廣	忠
	島	忠
	詢	忠
	市	忠
	日	忠
	大	忠
	朝	忠
	有	忠
	田	忠
	嚴	忠
	島	忠
	呉	忠
	宇	忠
	品	忠
	田	忠
	島	忠
	山	忠
	山	忠
	甲	忠
	福	忠
	田	忠
	加	忠
	熊	忠
	天	忠
	佐	忠
	澤	忠
	畠	忠
	百	忠
	毋衣	忠
	月	忠
	石	忠
	板	忠
	柳	忠
	黒	忠
	澤	忠
	薄	忠
	衣	忠
	輪	忠
陸中	百里外	吉
	油	吉
	尾	吉
	道	吉
	舎	吉
	木	吉
	福	吉
	甲	吉
	田	吉
	島	吉
	山	吉
	山	吉
	津	吉
	府	吉
	三	吉
	中	吉
	原	吉
	戸	吉
	市	吉
	村	吉
	手	吉
	次	吉
	三	吉
	戸	吉
	尾	吉
	倒	吉
	弓	吉
	田	吉
	廣	吉
	久	吉
	津	吉
	加	吉
	茂	吉
	山	吉
	勝	吉
	部	吉
	加	吉
	鹿	吉
	熊	吉
	天	吉
	佐	吉
	澤	吉
	畠	吉
	百	吉
	毋衣	吉
	月	吉
	石	吉
	板	吉
	柳	吉
	黒	吉
	澤	吉
	薄	吉
	衣	吉
	輪	吉
備後	百里外	尾
	油	尾
	道	尾
	舎	尾
	木	尾
	福	尾
	甲	尾
	田	尾
	島	尾
	山	尾
	山	尾
	津	尾
	府	尾
	三	尾
	中	尾
	原	尾
	戸	尾
	市	尾
	村	尾
	手	尾
	次	尾
	三	尾
	戸	尾
	尾	尾
	倒	尾
	弓	尾
	田	尾
	廣	尾
	久	尾
	津	尾
	加	尾
	茂	尾
	山	尾
	勝	尾
	部	尾
	加	尾
	鹿	尾
	熊	尾
	天	尾
	佐	尾
	澤	尾
	畠	尾
	百	尾
	毋衣	尾
	月	尾
	石	尾
	板	尾
	柳	尾
	黒	尾
	澤	尾
	薄	尾
	衣	尾
	輪	尾
備中	百里外	倉
	上	倉
	早	倉
	敷	倉
	市	倉
	島	倉
	高	倉
	寄	倉
	笠	倉
	岡	倉
	玉	倉
	成	倉
	羽	倉
	島	倉
	高	倉
	梁	倉
	屋	倉
	新	倉
	總	倉
	見	倉
	社	倉
	砦	倉
	井	倉
	原	倉
	部	倉
	足	倉
	守	倉
	鑓	倉
	川	倉
	浦	倉
	矢	倉
	掛	倉
	尾	倉
備前	百里外	日
	岡	日
	比	日
	山	日
	田	日
	ノ口	日
	氣	日
	和	日
	田	日
	本	日
	志	日
	筑	日
	假	日
	屋	日
	郡	日
	家	日
	由	日
	良	日
	福	日
	良	日
	市	日
	村	日
	鮎	日
	原	日
	岩	日
	屋	日
	濱	日
	天	日
	金	日
	城	日
	川	日
	下	日
	津	日
	西	日
	大寺	日
	川	日
	下	日
	三	日
	味	日
	石	日
	野	日
	下	日
	片	日
	村	日
	上	日
	町	日
	刈	日
	田	日
	牛	日
	窓	日
	入	日
	濱	日
淡路	百里外	洲
	本	洲
	志	洲
	筑	洲
	假	洲
	屋	洲
	郡	洲
	家	洲
	由	洲
	良	洲
	福	洲
	良	洲
	市	洲
	村	洲
	鮎	洲
	原	洲
	岩	洲
	屋	洲
紀伊	百里外	栗
	和	栗
	歌	栗
	山	栗
	木	栗
	本	栗
	戸	栗
	瀬	栗
	鉛	栗
	山	栗
	阿	栗
	田	栗
	和	栗
	方	栗
	日	栗
	湯	栗
	浅	栗
	宮	栗
	高	栗
	野	栗
	新	栗
	宮	栗
	笑	栗
	高	栗
	屋	栗
	南	栗
	印	栗
	田	栗
	金	栗
	並	栗
	富	栗
	田	栗
	原	栗
	山	栗
	郡	栗
	保	栗
	高	栗
	針	栗
	山	栗
	道	栗
	田	栗
	原	栗
	村	栗
	江	栗
	森	栗
	石	栗
	荒	栗
	新	栗
	湯	栗
	矢	栗
	吹	栗
	本	栗
	良	栗
	津	栗
	田	栗
	宮	栗
	濱	栗
	山	栗
	本	栗
	吹	栗
	野	栗
	岡	栗
	葛	栗
	藤	栗
	黒田	栗
	石	栗
	原	栗
	橋	栗
	鹿	栗
	喜	栗
	鹽	栗
	葛	栗
	平	栗
	吉	栗
	柳	栗
	桐	栗
	生	栗
	井	栗
	下	栗
	津	栗
	中	栗
	伊	栗
	香	栗
	保	栗
	條	栗
	施	栗
	村	栗
	光	栗
	磯	栗
	田	栗
	沼	栗
	井	栗
	川	栗
	岡	栗
	横	栗
	高	栗
	崎	栗
和泉	百里外	堺
河内	百里外	八尾
	岸和田	柏原
	風	富田林
	佐野	枚方
	信達	尾崎
	大津	福田
	守口	古市
	津	田
	伯太	三林
播磨	百里外	林
	佐	林
	舞	林
	明	林
	石	林
	姫

佐渡	越後			信濃	飛騨	美濃		尾張		三河	遠江	駿河	小笠原嶋	伊豆	甲斐	千島	北見	十勝	日高	根室	釧路	天盤	後志	石狩	膽振	渡島	陸奥
百里外	百里外	百里内		百里内	百里外	百里内	百里外	百里内	百里外	百里内	百里内	百里内	百里外	百里内	百里内	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外
相川	村上	妙見	鳩野	長岡	上野	下呂	高山	谷合	坂下	祖父江	名古屋	清洲	常滑	宮田	岐阜	高野	池田	谷合	笠松	大江	豊橋	知立	舞坂	新城	豊橋	大沼	小笠原島	熟田
夷	小木	岡見	草野	曾倉	堀内	安藤	下崎	出張	直江津	麻績	上田	稲荷山	臼田	妻籠	松本	東茂住	朝倉	神戸	北方	大垣	付知	中川	武豊	大野	熟田	本郷	木曽	富岡	家崎	笠井	鳥羽	都岡	八丈島
新潟	新町	鹽野町	中田	彌彦村	柿崎	寺泊	水原	小千谷	柏崎	高田	北大町	野澤	上諏訪	鵜ノ巣	墨俣	船津	苗木	多治見	竹鼻	岩倉	牛津	横須賀	豊川	足助	西尾	新城	氣賀	濱松	燒津	掛川	見附	島田	小笠原島
羽茂本郷	岩船	三ヶ俣	酒屋	松山	青海	潟町	與板	津川	加茂	三條	飯嶋	阿賀町	池田	別所	福島	小坂	柿野	桐洞	太田	關ノ下	御嶽	稲澤	一ノ宮海	福岡	田原	豊色	犬山	奥田	金谷	鈴川	藤枝	吉原	甲斐
	平林	黑川	乙川	片貝	川口	栃尾	五日町	泉	新潟	田中	下川路	東蒲原	飯豊高	下館山	輕井澤	萩原	高富	兼有山	上知	猿投	土岐津	下ノ一色	壁江	津具	御油	稻橋	氣多	中泉	横須賀	森町	井川	興津	甲斐
				保田	築地	吉田	關ヶ原	新潟	見附	海ノ口	小布施	豐田	中路	岡村	岩谷		白鳥	和泉	金山	神戸	明知	嶋崎	鶴ノ巣	島	浦郡	二川	横須賀	森町	井川	興津	甲斐
				田地	田山	原	津	附田	田	口	施	利	野谷	田			島	泉	山	戸	知	田	崎	郡	川	矢	作	濱	井	岩	淵	甲斐
				加茂	小須	宮	龜	糸魚川	燕	洗	新	茅	湯田	小屋	八幡	垂井	久須見	小	加子	岩	母	村	勝	大	田	矢	作	濱	堀ノ内	靜	江	尻	甲斐
				治野	戸	立川	田	川		馬	町	野	中	野	代		見			幡	井	島	川	島	口	作	濱	波	柏	新田	長	御殿場	甲斐
				木	松	千	能	六日	大	今	長	新	望	手	須	高	飯		中川	關ヶ原	高	八	百	津	小	新	海	横須賀	川	老	大	刈	谷	野	渡	谷	野	甲斐
				崎	代	手	生	町	野	町	岡	村	月	出	坂	塩田			遠	須			津	戸	牧	戸	賀	川	内	波	尻	池	新田	長	甲斐
				赤	水	高	幌屋	塩	白	村	新	粟	浦	松	松	赤穂	代		市	今	赤		大	尾	犬	布袋山	枇杷島	小	刈谷	大	池	柏	新田	長	甲斐
				塚	澤	塚	敷	澤	根	松	井	野	野	島	代	那			塩	坂	尾		井		山	野	島	渡	谷	野	塩	御殿場	甲斐

琉球	對馬	壹岐	薩摩	大隅	日向	肥後	肥前	豐後	豐前	筑後	筑前	土佐	伊豫	讃岐	阿波	隱岐	石見	出雲	伯耆	因幡	但馬	丹後	丹波
百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外	百里外
那覇	嚴原	鄕ノ浦	鹿兒島	加治木	飫肥	三角	馬見原	長栖	日向	門司	久留米	高知	西條	高松	石井	倭島	西郷	三濱	倉吉	松江	豐岡	舞鶴	成松
首里	佐須奈	勝本	米ノ津	種子島	宮崎	本	高島	古島	日向	豐津	前津	宿毛	三田	大分	竹田	若松	雜賀	原	吉田	長生	梁瀬	大野	岡
名護	鶴見	印通寺	出水	西ノ表	小林	人吉	宮崎	森	高千穂	香椎	柳川	伊豆	三田	竹田	日田	直方	東二日	高瀬	米子	廣瀬	取	由宮	佐賀
八重山島			東郷	屋久島	土々呂	久留米	宮原	佐賀	中津	小倉	大牟田	土佐	川之江	高松	丸亀	鄕市	秋月	出雲	霞ヶ關	鳥取	豐岡	和田山	八木
宮古島			鹿屋	鹿兒島	宮崎	熊本	久留米	大分	中津	佐賀	羽犬塚	中村	丸亀	三木	善通寺	多度津	甘木	日向	三刀屋	智頭	用ヶ瀬	湯村	竹田
久米島			鹿兒島	大島	都城	人吉	高瀬	日田	別府	佐賀	長崎	宇和島	大洲	吉田	平戸	木津	岡	今市	境	岩井	和田山	八鹿	鹿城
本部			出水	名瀬	高鍋	八代	人吉	別府	宇佐	中津	大牟田	中村	大洲	八幡浜	三津浜	宇和島	木津	高津	江尾	吉岡	鹿野	出石	出石
讃谷山			東郷	横川	外所	三田井	細島	臼杵	中津	長崎	大牟田	本山	吉田	泉	多度津	中江	粉屋	和野	橋	岩井	吉岡	城崎	香住
			伊集院	串良	志布志	高岡	松原	鹽田	佐世保	宇土	南關	中村	三木	八幡	平通寺	平戸	村口	加合	掛合	大尾	江津	賀露	宮崎
			阿久根	大根占	國分	宮崎	高岡	臼杵	佐賀	長崎	猪洲	佐賀	中面	志賀	神代	佐世保	野津	湯ノ平	橋	木津	赤穂	大原	由良
			宮ノ城	古江	福山	甲斐	江田	國東	臼杵	佐賀	四日市	高知	原	高松	丸亀	高砂	柏原	高瀬	川平	坂井	鹿野	宮崎	赤崎
			知覽	吾妻	岩川	熊本	小倉	大分	中津	門司	久留米	宿毛	吉田	三木	善通寺	平戸	長崎	佐賀	平戸	野津	吉岡	賀露	青谷
			指宿	佐多	垂水	人吉	宮崎	日田	別府	豐前	前原	吉良	伊豫	讃岐	阿波	隱岐	石見	出雲	伯耆	因幡	但馬	丹後	丹波

●鹽業調査建議●●●●●

大日本鹽業協會長より農商務省へ提出したる臺灣鹽業調査に關する建議の大要ハ左の如くなりと

鹽ハ人生の必要品にして其生産の多寡價格の高低ハ民生の經濟に影響するや極めて大なり故に鹽業の盛衰ハ獨り鹽業家の利害のみならず國家進運に關係すること少しとせず而して比年天候の不順炭價及勞銀の昂騰に隨ひ內國鹽の價非常に騰貴したるを以て外人の獨逸鹽及び支那鹽を輸入するものあり是れ決して輕忽に附すべからざるの現象なりとす故に鹽業者は製鹽の方法を改良し製產費を減じて外鹽の輸入を防ぎざるべからず而して臺灣の我版圖に入りしより該地方に天日製鹽を行ふべき地少なからざるを以て其情況を調査し其產鹽を本州に輸入の策を講じ又政府よりも適當の技術官を派遣せられ且十州地方鹽業に充分經驗ある實業家を勸誘し技術官と共に該地に於ける精細の調査を爲し將來我國鹽業の方針を定めらるゝハ目下の急務なるべきなり云々

●特許局審判例

第二百四十四號

審決書

愛媛縣宇麻郡上分村二十八番戶
平民煙草製造業　平井定次郎
請求人

大坂市西區靱南通二丁目百二十七番邸平民煙草仲買業　渡邊九兵衛
被請求人

德島縣三好郡井川村二百二十八番邸平民煙草製造業　伊勢源藏
被請求人

右平井定次郎より渡邊九兵衛外一名に對し第三六一七號商標登錄を無效とする爲め審判を請求したるに依り審理を遂ぐる處

請求人申立の要領ハ被請求人か明治廿四年三月十七日登錄を受け煙草に使用する商標ハ草書國の薰の三字を書したるものにして其全形を要部とせり而して請求人か明治二十年十一月十四日登錄を受け同一商品に使用する第一七五四號商標ハ花と葉とを有する煙草の折枝を交叉したる所を布片にて結束し左右より各上方に向ひ竪楕圓形の欄を作り其欄內正中に草書國の譽と書下したるものにして其要部は國の譽の文字なり前記二商標を對比するときハ固より多少の差異なきにあらずと雖も其要部とする書体相酷似するのみならず普通需要者に於ては商標を識別するに當り專ら冒頭の文字のみに注意するものなるを以て前記二商標に於ける「薰」と「譽」との差異の如きハ容易に之を區別するを得ず且被請求人は本件商標登錄以後に於て適宜に周欄を設け以て益々第一七五四號商標に類似せしめたるを以て離隔的觀察上二者混同誤認の憂ひなきを免れず隨て本件商標の登錄は商標條例第二條第三號に該當し同第十條に依り無效なりと云ふにあり而して其申立を確ひるか爲め甲第一號乃至第四號証を提出せり

被請求人答辨の要領ハ請求人は本件商標か請求人の所有に係る第一七五四號商標に類似せるを以て其登錄無效なりと云ふと雖も請求人は第一七五四號商標の登錄以後に於て適宜に商標付記の文字を變更したるものにして其登錄は舊商標條例第十二條現行商標條例第二十三條第二項に依り無效たるべきものなり如此無效の商標に類似したりとの理由に基き本件商標登錄を無效と爲すことを得へきものにあらず隨て請求人の主張する其他の理由に付ても答辨の必要なしと云ふにあり而して其答辨を確ひるか爲め乙第一號乃至第四號証を提出せり

依て本件に關する一切の書類及証據を閱し審決の理由を說明すること左の如し

被請求人か明治二十四年三月十七日登錄を受けたる第三六一七號商標は草書「國の薰」なる三字にして請求人が明治二十年十一月十四日登錄を受けたる第一七五四號商標の要部ハ草書「國の譽」なる三字なりとす今右二商標を比較するに何れも其冒頭に「國の」二字を有し而かも同一書体に書下せるを以て其形狀相酷似し「薰」と「譽」との區別あり雖も一般需要者の注意を惹くに足らざるなり而して其周欄の有無附記に於ける文字上の差異の如きハ固より彼此商標を區別し得るの價値なし要するに第三六一七號登錄商標は第一七五四號登錄商標に類似し商標條例第二條第三號に該當するものと認む被請求人は請求人か第一七五四號商標の登錄以後適宜に附記の文字を變更したるに依り商標條例第二十三條第二項に基き其登錄無效たるへきを以て審判請求の權利なしと云ふと雖も第二十三條に該當するとき否とハ全く異別の問題に屬し本件審判の審理上何等の關係なきを以て茲に審明を與ふるの限りにあらず

右の理由に依り審決すること左の如し

第三六一七號商標登錄は無效とす

但審判入費は被請求人の負擔とす

明治三十年七月五日農商務省特許局審判課に於て審決する者也

農商務省特許局審判長　柳谷誠太郎
農商務省特許局審判官　磯部正春
農商務省特許局審判官　中松盛雄

見られよ……此廣告を前回の廣告に大に脫字の箇處あり

創設二十五年紀念博覽會

有功銅牌受領

和歌山縣紀伊國和歌山市橋向丁
髮油製造萬小間物御商
廣田伊助

弊舗髮油ハ疾ニ第四回內國勸業博覽會及ビ奈良縣博覽協會ニ於テ受賞ノ榮ヲ得今回又創設二十五年紀念博覽會ニ於テ有功銅牌ノ榮ヲ擔タヽ其筋江湖諸君ノ御愛顧ニ外ナラズ深ク感謝ニ耐ズ候從來猶一層原質純良精品ヲ以テ御眷顧ニ酬ントス江湖ノ諸君幸ニ此意ヲ諒シ雪ニ倍シ御品員アラン事ヲ奉懇願候也

明治三十年七月

髮油

登錄商標

最上米國製杢目入あつま玉新荷着謹告

今回荷着發賣致し候杢入あつま玉は米國本會社に於て多年苦心の末好結果を奏したる精功の奇品にして杢目鮮明一見眞珊瑚と識別に難からざむる程高尙優美の品に候得ば從來無地東玉同樣陸續御用向きの程偏に奉願候

發賣元謹白

江川商廛賣品廣告

○鼈甲珊瑚珠蒔繪物推朱彫各種
○舶來最上黑茶本ゴム櫛各種
○舶來最上人造ゴム無地鼈甲ばらふ各種
○舶來最上人造ゴム象牙櫛笄簪各種

弊店發賣之ゴム諸種ハ皆ヲ米國幷ニ英國ノ確實ナル會社ト特約直輸入致シ居候間物品ハ精々相撰廉價ヲ以テ販賣仕猶一層御愛顧之程奉願上候

東京市日本橋區橫山町二丁目六番地

發賣元　上總屋江川金右衛門
本舗　同町十四番地（電話浪花三百十九番）
小間物問屋同支店

世界一麝香入石鹼

（定價一個金卅五錢）

此世界一麝香入石鹼ハ其ノ名ニ背カズ多量ノ麝香ヲ以テ精製シタルモノナレバ一度使用スルトキハ其香氣馥郁トシテ使用後衣服ニ濕イ匂袋ノ代用トナリ且香水ヲ使用スルノ要ナシ

發賣元　東京　小林富次郎
電話浅花四九八番

特約販賣店

佐々木田　脇坂　平谷　花王堂　村藤
柏善　政木　灰谷　平尾　近源
大和堂　近文　山杉　岡崎屋
田中定　平木孝　大中小

特製丈長　金鶏掛發賣廣告

改良蠟引紙壽賀　特製丈長金鶏掛　製造主任　金坂天隣

婦人の粧飾品は總て其品位或ハ摸樣体裁等の如何に因て大に其人の品格に關す就中髪掛品の如き其品野卑なれば之を用ふる人も亦自ら野卑に陷り其品優美なれば之を用ふる人も亦自ら優美となる故に之を製出して需用に供する者ハ其物品の精粗に拘らず價格の高下を論せず宜しく高尚を旨として飽まで日本婦人の優美を保たしめざるべからず是に於てか弊舗の販賣に係る諸物品ハ皆此趣旨に基て製造するが故に一として高評を博せざる物なき。全國御得意諸君の既に熟知せらるゝ處なるが今回茲に發賣せし特製丈長金鶏掛と稱するも亦一層の意匠を凝らし色合摸樣等は古代と當世とを折衷して專ら流行に後れず時季を外さず御入金なし打出しぼかし等を始め其他數十種いづれも高尚に過ず野卑ならず且つ美麗にして經濟と衛生とを兼たる近來稀有の新製品なれば何卒舊に倍して續々御注文あらん事を偏に希望する所なり

蠟引紙壽賀　發賣元

特製蠟引ゴム壽賀　改良

○婦人小間物高等櫛彫刻
○櫛笄簪根掛類新形流行品各種
○進歩賞翫受ケ花ノ生地及製品各種
○有名粧品類特約保證販賣

善

東京市日本橋區橋町四丁目
丸見屋善兵衛
電話浅花四四八番

登録商標　定價

（フリ出シロ付）
金三十五錢
金五十錢
供口角瓶入丼ニ
金四十錢
金壹圓
九瓶入種々
金六十錢
其他斗リ賣
瓶十二錢
（豆）

チイラン代用
登録　出願中
定價
共口瓶七十錢

東京市芝區新櫻田町六番地香水油製造元
香水本舗　尾崎榮之助

元祖鹿印

發賣元　石田部重兵衛

東京市麹町三丁目十九番地
內外化粧品石鹼問屋
電話本局一四八〇

約特大販賣店

東京銀座佐々木玄兵衛
日本橋上横町大橋博愛堂
同石町同取手町水戸下市
同瀬戸物町玉置金八
同十軒店森萬次郎
芝神明前岩谷本樂店
同銀座二尾張屋洋物店
京橋銀座松澤八右衛門
日本橋馬喰町平尾賛平
同神田鍛冶町大安川木
同横濱市尾上町四丁目
同越後屋助鈴本龜次郎
同江戸下谷喜多島商店
同神田區花房町山崎帝國堂
同土浦縣水戸加納與右衛門
同北海道小樽唐物問屋
同武州川越南町才助
同横濱市尾上町四丁目
同熊本縣川原町橋本
同水戸市唐川重兵衛
同取手町關谷喜一郎
同大町栗小左衛門

全躰香氣善良

鹿印　香水

尤宜敷品ナレバ
勉强家諸君得意の
賣アラン
伏テ奉願候
近頃類似品ノ顯ハレ候ニ付御注意御求メ願上候

賣口御販

一刻モ早ク

發賣元　石田部重兵衛

電話本局一四八〇

約特大販賣店

東京銀座佐々木玄兵衛
日本橋上横町大橋博愛堂
同石町同取手町水戸下市
同瀬戸物町玉置金八
同十軒店森萬次郎
芝神明前岩谷本樂店
同銀座二尾張屋洋物店
京橋銀座松澤八右衛門
日本橋馬喰町平尾賛平
同神田鍛冶町大安川木
同横濱市尾上町四丁目
同越後屋助鈴本龜次郎
同江戸下谷喜多島商店
同神田區花房町山崎帝國堂
同土浦縣水戸加納與右衛門
同北海道小樽唐物問屋
同武州川越南町才助
同横濱市尾上町四丁目
同熊本縣川原町橋本
同水戸市唐川重兵衛
同取手町關谷喜一郎
同大町栗小左衛門

賣口御販

一刻モ早ク

特約販賣店

東京日本橋區馬喰町壹丁目
同通塩町丸見屋善兵衛
同横山町三橋鬼喜次郎
同横山町三橋鬼喜次郎
同横山町三橋鬼喜次郎
同銀座一丁目佐々木玄兵衛
同通塩町大和屋小兵衛
同馬喰町二丁目平尾賛平

品質純良ナルヲ以テ廿五年紀念博覽會ニ於テ發賣拜受

御齒養散改版廣告

オハヨーザン齒磨ハ發賣日猶淺キモ各位ノ御愛顧ヲ以テ續々御注文ヲ蒙リ難有既ニ數十萬ノ金摺袋紙出シ盡セリ此際美麗ナル色摺ニ改版致今一層品質香味ヲ精撰仕候間倍々御引立ノ程奉願上候

追テ瓶詰定價ヲ金拾五錢ト改正候此義併セテ御承知ノ程願上候

東京市日本橋區久松町卅五番地
本舗　川口長春堂
發賣京橋　佐々木玄兵衛
特約勘町　田部重兵衛
日本橋　大橋博愛堂

比類ナキ良品　百猫石鹼

●見本品御入用の節は郵券貳錢御封入速に御送り可致候

麝香精

大中小各種

麝香水

右二品ハ上品ニ類ナシ

麝香散

白粉なり携帶便利

●麝香の獸は雲南の產を上等とす

此三品は

豐西麝香を以て製したる品

芳香長く保こと確實也

布片にしめ一單笥の中に入れおけば又衣類に振りかけてじみになるとなし

衣類に好匂ひ

●本年は一層改良精製仕候間不相變御愛顧を請ム

●取次御望の方は各地小間物問屋又は左の特約店へ御注文被下候へば本舗同樣相働き申候

東京市神田區佐柄木町
麝香水之元祖
白粉問屋　**山本逸造鑑製**

特約店　東京小間物問屋各店

反古志ゝべ

▲天保年間觸書の寫し（承前）

（天保十三年六月四日）　繪草紙掛り　名主　共

繪繪と唱歌舞伎役者、遊女、女芸者等を一枚摺に致候儀風俗に拘り候節に付以來開板ハ勿論是迄仕入置候分は決而賣買致間敷其外近來合卷と唱候繪草紙の類繪柄等格別入組重に役者の似顔狂言の趣向等に書綴其上表紙上包等え彩色を相用ひ無益の手數を懸け高直に賣出し候段如何の儀に付是亦仕入置候分共決而賣買致間敷候向後似顔又ハ狂言の趣向は相止め忠孝貞節等を元立に致し兒女勸善のために相成候樣書綴繪柄も際立候程省略致し無用の手數不相懸候樣急度相改め尤表紙上包等え彩色相用ひ候儀は堅く可致無用候尤新板出來の節々町年寄舘市右衛門方え差出改受可申候

天保十三寅年六月四日

（同年六月廿二日）　市中取締掛り　名主　共

百姓町人共金銀の品相用ひ間敷心得違にて所持致居候分ハ其品早々金銀坐え差出引替可申旨去る戌年相觸候處今以銀ぢせる其外金銀具の品所持致候もの有之哉に相聞不埒の事に候奢侈の風俗をも被禁候上ハ所持致居候も無益の儀にて且主人或は出入屋敷にて貰受候共厳禁被　仰出候品に有之上ハ素より所持可致儀無之譬年來持傳へ候共早々其品差出引替可申ハ右ハ先年取集方懸り名主共え申付置候處當坐の儀に付今般改而其方共え懸り申付候間能々申聞町人ども所持の金銀具爲差出其方共取集り品柄の儀に付目方等書記置所持主名前別紙不及申上間直に金銀坐へ差遣し引替候代金は所持主共へ相渡坐方へ差出候員數ハ毎月兩御役所月番の方え相屆候樣可致候若申渡候趣不相用隠置不差出族有之候ハヽ早々申立候樣可致　（未完）

●近世奇跡考　（抄錄）

●淺草楊枝店始原

寛永の頃ハ、店をのきへ壹ちいさな長櫃やうのものゝ上に、茶碗に楊枝をならべおきて、賣けるよし、其頃の者十餘人、今に楊枝をあきなひて櫃親といふ（國云役店）これ櫃の上にて物を賣たる証の、今に殘れるなり、今觀音堂におきて、追儺をおこなふ時、鬼に扮するハ、彼櫃親等のつとむる古例なりとぞ（以上淺草庵主人、彼のひつおやのうち、古老のもの、說なりとてものがたりき）

茶筅をかふ人今よりも多かりつらん、これ寛永元年より、文化元年にいたり、一百八十一年のむかしがたりぞかし

●深見十左衛門傳

深見十左衛門、本姓は深溝、名は貞圖と云ふ、寛文の頃、江戸に六方男達と云ふもの、あまたありし、其徒のかしらなり、强きをくとき、弱きをたすけ、人の危急を見て、すくはずといふことなし曾て俳諧をたしみ、延寶年中、難波の梅翁宗因、江戸に下りし頃、其門に學ぶ、一時の句に

名月や來て見よがしの籬際

身のたけひくくも男なりしが、額ハひろくぬきあげたれど、此句あり、其頃の小歌に、額のきはの前から見へぬを、來て見よがしのエと、うたひけるよし、天和の頃ゆゑありて謫せられし、翌年春の句に

梅なれや花橘はかゞぬども

此句吉兆となり、廿八年を過て、寛永中歸鄉す、老年におよびても、二尺四五寸の朱鞘の大脇差をはなさず、形容年より若く見へて、氣力壯年の者に增りしとぞ、つひに剃髮して、自休と稱し、菩提所、本鄉片町、龍光寺のうちに、庵をつくりて住ね、享保十五年三月十八日歿す、享年九十歳龍光寺に墓碑あり、一應院心深自休庵主墓としるす、傳へて云ふ、十左衛門若かりしとき、人と打あひ、むかふ齒を二枚かきけるが、金を以て入齒をつくり入れしとぞ

以上「古今俠客傳」「洞房語園」の說に、予が考へをくはへて、かきつけつ、擬の意休實ハ此人の事なり　（未完）

保驗附麝香北
新製雲南麝香
吸薄荷パイプ

三橋商店製造品廣告

御粉製はみがき　金面磨　御用白光散○麝香散○新日本○津製齒磨○美王散　舶來陶器入○衛生ぬりはみがき○虎印ハミガキ○熊印ハミガキ　透明　御自粉下　御粉白粉　御粉下白粉　特製水白粉　御水白粉　御水おしろい　共口瓶詰　御水おしろい　共口瓶詰　御水おしろい○御ぱたん○小町ざくら○京人形○共口瓶詰都鳥○江戸ぎまん其他粉製白粉等各種　正眞　齊藤入り練製　○人造麝香○麝香水　酒津々の水○美王おしろい○　透明　御美王水おしろい○御白粉下　銀水おしろい○御白粉下　改新濃匠　瓦さけ形各種○婦人用小間物類

右製造品ハ特別廉價ヲ以テ販賣仕候間陸續御注文被仰付候樣奉希上候

東京日本橋區横山町三丁目
御用齒磨化粧品小間物商
本舗　白光散
三橋兎喜次郎

新製麝香煉石鹼類製造發賣

近來種々樣々の石鹼ありと雖も未だ完全の品に乏し因て弊舗ハ國家の爲めと愛ふる事久しかりしが今回諸學士諸博士等號れも當世に於ける斯道專門の大家に謀り猶ほ弊舗が多年の經驗によつて發明したる新劑の秘寶品をも併用し遂に此天下無比純良最佳の石鹼を製造發賣せり勿論理化の作用より成りたれば其功驗の不思議なる事一々枚擧に遑あらず委敷くハ記じて現品に添あり殊に芳香の馥郁たるハ遙かに梅櫻桃李の上にあれば常に之を用ひて皮膚病の豫防となり又之を懷にして匂袋を代用す實に近代の稀品なり一度御試用の上多少に拘らず續々御用仰付られ下されん事を偏へに願ひ奉る

東京市日本橋區馬喰町二丁目
麝香煉石鹼類製造發賣　淺井支店

●女中庸（承前）　作者不詳

その秋ハ燕かへり去んで翌年の春巽雄にも双すして孤、姚玉景が家に來りければいとゞ哀れと思ひて詩を作りていはく

昔時無偶去。今年還獨歸。古人恩既重。不忍更双飛。

昔時無偶去。今年還獨歸。とハ去年のあゝ双なくしてゆきたる燕の今年獨り歸りたるといへる心なり古人恩既重。不忍更双飛。とハ彼の身終りたる男の恩愛深く重ければ故めて他夫に妃偶ことハいと堪へがたしと云ふ心を今頃つばめになぞらへて双飛に忍ひすといへり誠に貞女の志しには非情の鳥類も感と侍りぬ場て人なるをもつて鳥にだも不如べけんや

一妻女の道正しからされば内乱れ家亡ぶる事昔しより數多し行儀能く婦の四德を備へ慈愛の意深く貞姑に能くつかへ子孫をよく教へ導き閨門の教正しきを賢女と云ふべし宋王の夫人に伯姬といへるあり夜御殿に失火ありけるに人々皆にげ散しに一人の臣下疾出でたまへといひけれども女の禮儀侍女二人つれざれば夜ハ歩行せぬ法なりとて出たまはず終に燒死たまひけり此外節義の爲めに高行と云ふ女ハ鼻を剝き令女は耳をきり季氏は臂をたゝ虛氏ハ目をくじりて捨しとなり新樣の賢女ハ名も高く末代の鋭なり妻才知なれば夫の禍ひ少なきものあり夫の美を揚げ善を顯し六親を和合せしめ卑しき夫にても恐れ慎みよく隨つて貴く見するなり家の栄へ衰へは妻の善惡によるものなれば能く慎みて婦の道を守るべし（未完）

●語稿　鹿の子餅（承前）　作者不詳

●劍術指南所

諸流劍術指南所と筆太なかんばん、人物くさき侍來て、何流なりともわたくし相應の流儀御指南下され、御門弟に成りさしたいとの口上「其元様は表の看板を見て、お出でござりますか「左樣でござりまそ「いな埒もない、あれハぬす人の用心でござります

●蜜柑

分限な者の息子、黑つゞく景さに中り大煩ひ、なんでも食事すゝまねば、打寄てなにゞのゞみハないかとの苦勞、アイなんにも喰ひたらない、そのうちひよつと蜜柑なら喰ひたいとの好み、安い事と買にやれど、六月の事なればいかなる珍なし、愛に須田町にたつた一ッあり、一ッで千兩、一文よつかいても賣らず、もとより大身代の事なれば、それでもよいとて千兩に買ひ、さアかれと出せば息子うれしがり、枕かろく起上り、皮をひいた處が十袋あり、にこ〳〵七袋くひ、いやもう旨ふてどうも云へぬ、これハお袋樣へあげてたもと、殘る三袋手代にわたせば、手代その三袋をうけ取て道から欠落

●下女

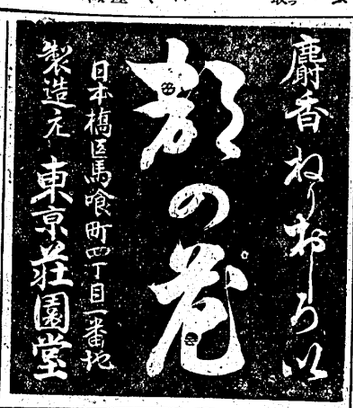
どうだおさんどの久しい、どこへとざる「今日ハ宿おりに出やした「ソテことしんどこに居やしやる「アイことしん下谷の餅屋に居やす「ナニ餅屋ハ湯屋に居たけれども

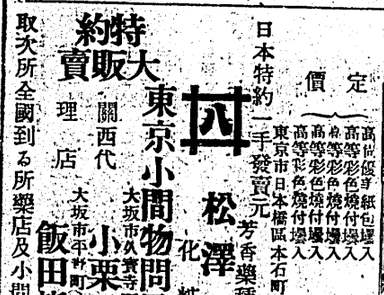
●初夢

賣船敷で寐たわした、友達へ人を廻しよびあつめ、亭主何やら大よろこびの体、神棚へみきをあげるやら、客ハ酒さかなを出すやら、上を下への大さわぎ、なんでも初春早〳〵めでたき事と見へた、どんなこつちや、おらもちつとあやかりたい、云つて聞かしやれ、されば聞いて呉りや、ゆふべめでたい夢をみた「何をみやった「丸づけを見た「ナニ丸づけを見た、丸潰がなせめでたい「ハテ一富士二たか、南無三まちがつた

◎御斷

今回ハ紙面の都合により講談筆記と餘興とを相休みます





●暑中永ク貯ヘ置共少シモ塊ル患ナキハ本品ノ特色ナリ

發賣元　東京市馬喰町一丁目　齒磨本舗　大野金城堂

定價　一袋　鑵入四錢　袋入一函五十入　鑵入一函廿本入

特約代理販賣店　姓名組合名簿順

東京日本橋區横山町　天野源七
全區全町　中村喜三郎
全區全町　柏屋善藏
全區全町　前川忠兵衛
全區全町　佐野善衛
全區全町二丁目　江川金右衛門
全區全町　田中花王堂
全區全町　脇田盛眞
全區全町　森本支店
全區橋町三丁目　淺井碩成
全區全町四丁目　丸見屋善兵衛
全區全町　炭屋定兵衛
全區若松町　富岡初太郎
全區通鹽町　大和屋小兵衛
全區馬喰町一丁目　尾張屋賀平
全區全町　小田善兵衛
全區全町　村田七
全區油町　大坂屋伊之助
全區全町　秋田屋藤
全區全町三丁目　汐見儀岩
全區大傳馬二丁目　尾張屋徳藏
全區兩國吉川町　伊勢松太郎
淺草區材木町

以下全國到ル所無限ノ取次店アリ

巻莨用バイプ
薄荷バイプ材
ライスペーパ
各種製造元
舶來バイプ問屋
越
東京市日本橋區通鹽町四番地
菅谷爲吉

登錄商標

定價　鑵入四錢　袋入壹錢
製造元　東京　大野金城堂

●本品の特色●

晉通品に比し價格低廉にして量多し
光澤頗艶麗にして而かも永く失はず
つけるもつきにのわるうれひなし

製造元　遠陽山名町　森川積善堂
本舗　東京日本橋區橋町四丁目小間物問屋　丸見屋善兵衛
電話浅花四四入番

●驚くべき有益の日用品賣出廣告

農商務省專賣特許

一名　厨燈　即席ろんこと

定價　並製一個　金七十錢
座敷用　金七十錢
携帶用　金九十五錢
同　真鍮組立同
同　洋銀組立同
厨燈油　一瓶　金四十錢
厨燈油　一瓶　金四十五錢

此新發明即席ろんこと僅か三分間に湯を沸すことが出來又炭を用ひ鳥肉獸肉其他の物を煮焚するにも火を起す手數なく即座

特約店　浅草區浅草橋際
京橋區銀座一丁目
日本橋區油町大門通
名古屋市鐵砲町

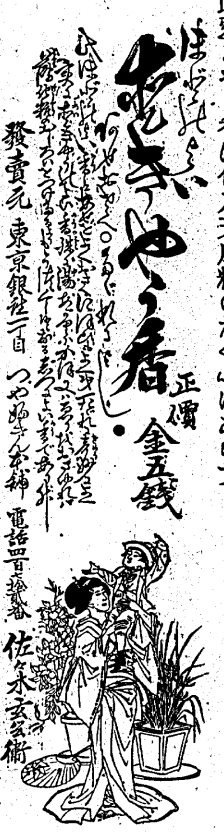
發賣元　東京市日本橋區横山町二丁目　電話番號（浪花四十一番）

阿部清四郎
佐々木玄兵衛
梅田仙吉
西村善平

大坂東區南久寶寺町三丁目
京都西洞院竹屋町北へ入
静岡呉服町一丁目
仙臺市大町五丁目

脇田盛眞堂
寺澤甚兵衛
邑瀬安次郎
神谷美妙堂
八木伊造

●此愛きやう香は匂入天瓜粉のたぐいにあらず



發賣元　東京銀座二丁目　つやはなゝ本舗　電話四百拾番　佐々木玄兵衛

各府縣下小間物店又は藥舗にて賣捌仕候御最寄に取次無之節は郵便にて御注文願上候但郵送費一個金二錢增爲替又は郵券代用にてもよろし

弊店製造石鹼ハ總テ香氣馥郁

登錄商標

軍人石鹼廣告

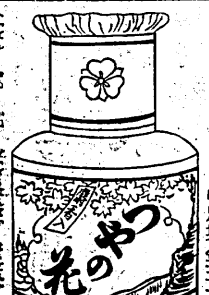
勝菊　桐函　壹個入　貳十五錢　同大函　三個入　七拾錢
日光　同　壹個入　三個入　四拾錢
香窟　同　壹個入　三個入　四拾五錢
撫子開　紙函　壹個入　三個入　四拾五錢
同　壹個入　三個入　七拾五錢
両軍人　桐函寄香　壹個入　拾二錢
同　三個入　參拾錢

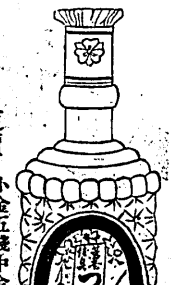
東京馬喰町一丁目
特約大販賣　小町水本店　平尾贊平助
同　横山町二丁目　福見定助
同　鶯石鹼本舗
其外和洋小間物店幷ニ賣藥店ニテ販賣ス
御最寄ニテ御購求ヲ乞フ

石鹼製造發賣元
大阪北久太郎町四丁目
飯田定助

弊店に於て豫て製造販賣し滿天下男女諸君の大喝采御愛用を博しつゝある艶の水（化粧下）艶の花（煉白粉）の二種へ今更物珍らしく申さずとも何れも遠くの昔しから御存じの通り世にも稀なる祖先傳來の製法を元とし之に近世歐米各國に流行する化學的作用の新法を配合精製したる品なれば艶の水へ敢て女子に限らず男子にして之を用ふるも色を白くし艶を增し又にきび、そばかす、あせぼ、其他の吹出物を全治せしむるの奇効を奏し艶の花へ未だ世人の知らざる秘密品數種を用ひあれば其香氣馥郁として鼻を衝くのみならず何ほど濃附るとも汗の爲に流れず又衣類半襟等を汚す事なく皮膚の荒を防ぎあら多き人にても決してむらを生せず殊に硫黃質の溫泉に浴するも更に變色等の憂ひなし此艶の花の最も特色とする所なり左れば此艶の水、艶の花を以て御存じなき御方々は一度御試用あつて其効能及び製法の奇々妙々實に不思議なる事を知り給へ

定價
小金五錢中金十錢大金二十錢
特別製金五十錢金壹圓





定價
大金壹圓　特別製金五十錢
中金六十錢　小金二十錢

製造本舗　東京神田區佐柄木町　柳屋敬次郎
東京日本橋區馬喰町　加藤盛花堂

發賣元　取次販賣店（イロハ順）
○伊勢幸○富岡○尾張屋○德太○脇田○龜忠○花王堂○柏善○大小○大伊○中喜○村藤○山形屋○丸善○丸炭○萬金○藤田亀鶴堂○江川支店○三善○森本○其他全國各地至所小間物店及賣藥店

暑中御見舞

東京小間物商報　植字
金兒平三郎

○改良蠟引紙壽賀（特許）

○多年の研究と數多の辛酸に依て漸く今日の好結果を得たるものにして婦人髮掛品としての美術の二字を以て冠するも敢て自負誇言にあらず近來へ是に類する似非物多くあれども粗惡なる品なれば故に或は半信半疑の人もあれども其處が世に云ふ公論は正直なり証據は弊店製造の改良蠟引紙壽賀へ假令一雨天試驗せられよ若し入用の人は先づ現品を執て假令一雨天試驗せられよ若し入用の人は先づ現品を執て假令一雨天試驗せられよ若し入用の人は先づ現品を執て

謹啓

暑中とは申ながら日々の炎蒸實に難堪相覺候得共各地御得意樣方時候の御障も無御座愈々御健勝に被爲在候段欣喜不斜奉存候隨而弊店儀も一同無異營業罷在候間乍憚御安心被成下度就ては一々申書を以て御伺ひ可申上の處何分多數の御得意樣にて充分手廻兼候爲甚だ不本意且失禮なから爰に當紙上を以て暑中御伺ひ迄如此御座候謹言

東京市馬喰町一丁目（電話浅花六五二番）
宮内省御用達
賣藥化粧品類御問屋　岳陽堂　平尾贊平
同　平尾銑也

同　同　同　